P2WW-2240-01Z0

EmbedWare/Diag Professional Ver1.0

説明書

PFU
a Fujitsu company

ごあいさつ

このたびは、「EmbedWare/Diag® Professional Ver1.0」をご利用いただき、まことにありがとうございます。
本書は、ハードウェアを診断する EmbedWare/Diag Professional Ver1.0 のインストール方法や操作方法について記述しています。本書をよくお読みになって正しくお使いください。また、マニュアルは大切に保管していただきますようお願いいたします。
本書が、EmbedWare/Diag Professional Ver1.0 を活用していただくために、みなさまのお役に立つことを願っております。

2006 年 8 月

EmbedWare、EmbedWare/Diag は、株式会社 PFU の日本国における登録商標です。

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
その他の社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

●本書の構成について

第1章　概要

EmbedWare/Diag Professional の概要について説明しています。

第2章　インストールとアンインストール

EmbedWare/Diag Professional のインストール／アンインストール方法について説明しています。

第3章　操作

EmbedWare/Diag Professional で表示される画面、操作方法について説明しています。

第4章　テストプログラム概要

EmbedWare/Diag Professional のテストプログラムの機能概要について説明しています。

第5章　使用上の注意

EmbedWare/Diag Professional を使用する上での注意事項や補足事項について説明しています。

付録

EmbedWare/Diag Professional のテストプログラムで表示するエラーメッセージについて説明しています。

●本書の表記について

本書で使用している記号とその意味を以下に示します。

備考	操作に関する補足事項を記述しています。 必要に応じてお読みください。
注意	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
参照	関連する情報が記載されているマニュアルを示したり、参照先を示しています。 必要に応じてお読みください。

●略称

本書では、以下の用語について省略して表記する場合がありますのでご了承ください。

正式名称	略称
Microsoft® Windows® XP Professional Operating System	Windows XP Professional
Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System	Windows 2000 Professional
EmbedWare/Diag®	EWD

目次

第 1 章　概要

第 2 章　インストールとアンインストール

第 3 章　操作

第 4 章　テストプログラム概要

第 5 章　使用上の注意

付録

第 1 章　概要

この章では、EmbedWare/Diag Professional の概要について説明します。

1.1　EmbedWare/Diag Professional とは

EmbedWare/Diag Professional は、当社ハードウェアの AR シリーズ、ML シリーズ、AM シリーズに対応した Windows 上で動作する診断システムです。各種ハードウェアコントローラ、デバイスおよびシステム全体の正常動作を検証します。

1.2　機能

EmbedWare/Diag Professional には以下の機能があります。

- **診断装置の自動認識と、必要なテストプログラムの自動選択**
- **データパターンを含めたアクセス負荷を各バスにかけることによりシステム安定動作を検証することができます**
- **再起動試験のサポート**
- **診断結果のレポート出力**
- **各種調査ツール・ユーティリティ**
- **外部プログラムの登録・実行**

1.3　動作環境

EmbedWare/Diag Professional の動作環境を以下に示します。

OS*1	： Windows 2000 Professional SP4 **以降、または** Windows XP Professional SP2 **以降、または** Windows XP Embedded SP1*2 **以降** **（日本語環境で動作）**
ディスク資源	： EmbedWare/Diag Professional Ver 1.0 **約** 40MB
動作権限	： Administrator **権限でのみ実行** *3 **できます。**
動作資源 *4	： **メモリ：**64MB **以上の空き領域が必要です。** **ディスク：エラーログ出力先として十分な空き領域が必要です。**

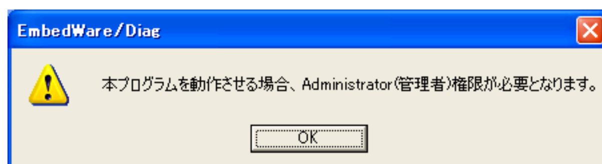
OS が上記条件を満たさない場合、下記メッセージが表示されインストールが中止されます。



*1　Windows Server 2003 へのインストールは行えますが、同 OS は未サポートです。

*2　Windows XP Embedded はお客さまごとのカスタマイズが必須なため、別途カスタマイズ OS での動作検証が必要となります。

*3　Administrator 権限以外のアカウント（ユーザ）で EmbedWare/Diag Professional を起動すると以下のメッセージが表示され起動されません。（PowerUsers 権限ユーザは、一部制限はあるものの Administrator 相当の権限が与えられていますが、EmbedWare/Diag Professional のテストプログラムは PowerUsers 権限では実行できません。）



*4　実行するテストプログラムの本数やパラメータの指定内容によっては、動作条件以上のメモリやディスク資源が必要となります。各テストプログラムで必要とする資源を考慮した上でテストを実行してください。
各テストプログラムのメモリ使用量（概算）については「テストプログラム概要」（57 ページ）を参照ください。

1.4　EmbedWare/Diag Professional ハードウェアアクセス

EmbedWare/Diag Professional では、診断対象となるハードウェアへのアクセスは、Windows カーネルまたは、Windows デバイスドライバを経由して行われます。そのため、デバイスマネージャで認識されていない、または無効化されているハードウェアに対するアクセスは行うことができません。
認識されていないハードウェアに関しては、ドライバのインストールやドライバを最新のものにアップデートする等の作業が必要となる場合があります。EmbedWare/Diag Professional を起動して目的のハードウェアがテストできない場合は、デバイスマネージャよりデバイスやドライバの状態をご確認ください。

1.5　EmbedWare/Diag Professional 診断対象範囲

EmbedWare/Diag Professional は、当社ハードウェアの AR シリーズ、ML シリーズ、AM シリーズに標準で搭載されるデバイス、およびオプションに対する診断をサポートします。それ以外のデバイスに対する診断はサポート対象外です。
構成詳細や注意事項については、各ハードウェアの取扱説明書、テクニカルレポートを参照ください。

1.6　EmbedWare/Diag Professional 使用対象者

EmbedWare/Diag Professional は、テストを行うことによって発生した問題に対して調査・対処が行えるお客さま担当技術者様および CE（カスタマエンジニア）様が使用されることを想定しております。

第 2 章　インストールとアンインストール

この章では EmbedWare/Diag Professional のインストールとアンインストールの方法について説明します。

2.1　インストールする前に

1　**Administrator 権限でログインします。**

2　**実行中のアプリケーションをすべて終了します。**

2.2　インストールする

EmbedWare/Diag Professional をインストールする手順を示します。

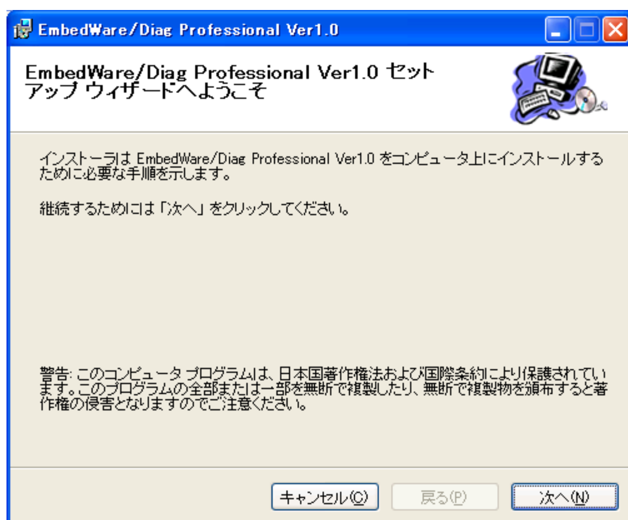
1　**「EmbedWare/Diag Professional Ver 1.0」アプリケーション CD を挿入します。**

EmbedWare/Diag Professional のインストーラが起動されます。



EmbedWare/Diag Professional のインストーラが自動で起動されない場合は、CD-ROM ドライブを選択し、「EWD_Pro Setup」フォルダをダブルクリックします。
フォルダの内容が表示されますので、"EWD_Pro.msi" をダブルクリックします。







［キャンセル］ボタンをクリックすると、インストールを中断できます。
なお、インストールの中断は、インストーラ画面に［キャンセル］ボタンが表示されているときにできます。

a **［キャンセル］ボタンをクリックします。**

インストールの中断を確認するメッセージボックスが表示されます。



b **［はい］ボタンをクリックします。**

インストールが中断されたことを示す画面が表示されます。
［いいえ］ボタンをクリックすると、インストーラ画面に戻ります。

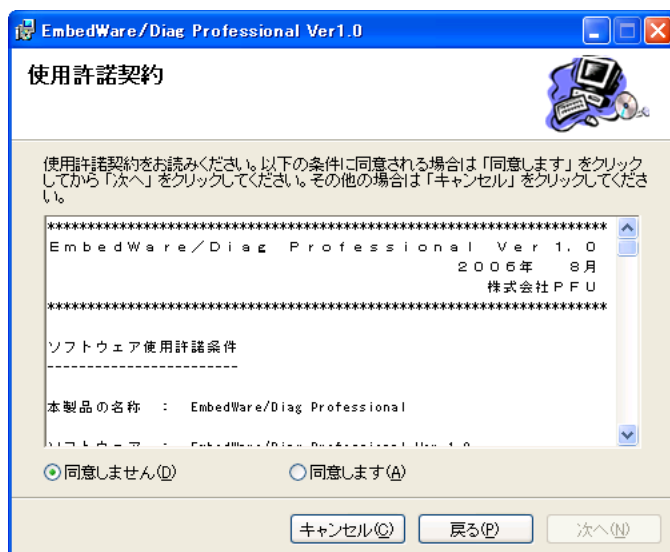


c **［閉じる］ボタンをクリックします。**

画面が閉じます。

2 ［次へ］ボタンをクリックします。

使用許諾契約画面が表示されます。



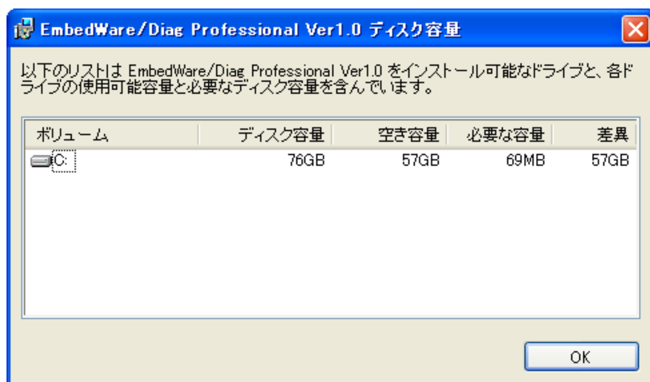
3 ［同意します］にチェックし、［次へ］ボタンをクリックします。

インストールフォルダの選択画面が表示されます。
［同意しません］にチェックした場合は、インストールを終了します。



インストール先を変更する場合は、［参照 ...］ボタンをクリックして変更します。

［ディスク所要量 ...］ボタンをクリックすると、ディスク情報画面が表示されます。

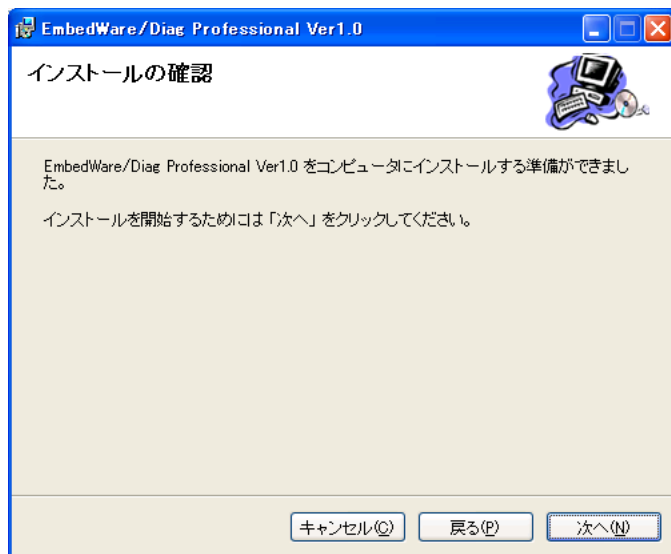


ディスク情報を確認します。［OK］ボタンをクリックすると画面が閉じます。

- ボリューム ....存在するディスクの名前が表示されます。
- ディスク容量 ......ディスクの容量が表示されます。
- 空き容量 ....ディスクの空き容量が表示されます。
- 必要な容量 ....インストールに必要なディスクの容量が表示されます。
- 差異 ....インストール後のディスクの残容量が表示されます。

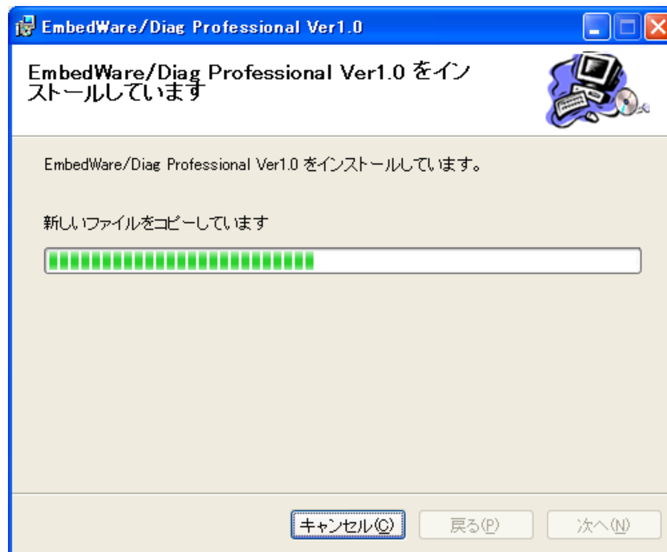
4　**［次へ］ボタンをクリックします。**

インストールの開始確認画面が表示されます。

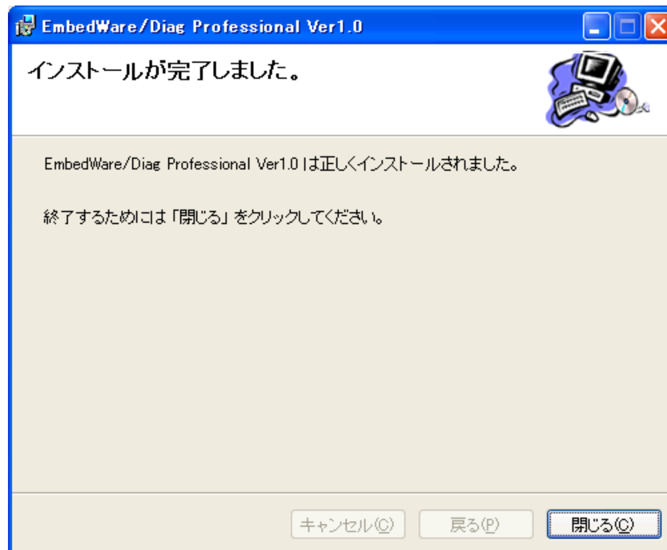


5　**[次へ］ボタンをクリックします。**

インストールが開始され、インストールの経過画面が表示されます。
インストールを中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックします。



インストールの完了画面が表示されます。



6　**[閉じる］ボタンをクリックします。**

画面が閉じ、EmbedWare/Diag Professional のインストールが終了します。

2.3　アンインストールする前に

1　**Administrator 権限でログインします。**

2　**実行中のアプリケーションをすべて終了します。**

2.4　アンインストールする

EmbedWare/Diag Professional のアンインストールには、以下の 2 つの方法があります。

- **コントロールパネルからアンインストールする**
- **Windows インストーラからアンインストールする**

◇コントロールパネルからアンインストールする

1　**「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。**

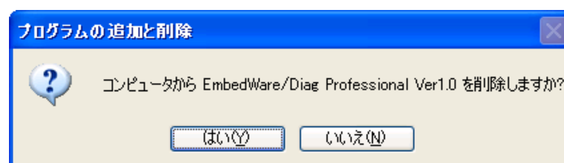
コントロールパネル画面が表示されます。

2　**「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。**

3　**「EmbedWare/Diag Professional Ver 1.0」を選択し、[削除] ボタンをクリックします。**

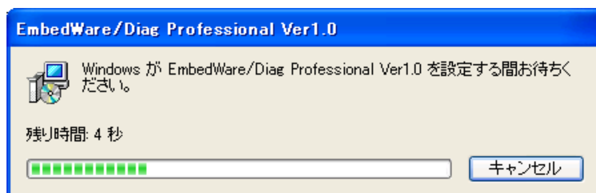


確認メッセージが表示されます。



4　[はい] ボタンをクリックします。

アンインストールが開始され、アンインストールの経過画面が表示されます。



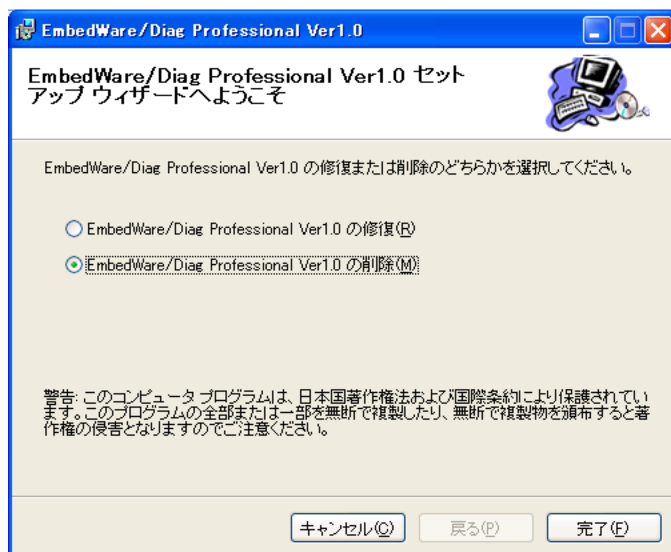
	アンインストールを中止すると、不具合が生じる場合がありますので、[キャンセル] ボタンをクリックしないでください。 [キャンセル] ボタンをクリックして不具合が生じた場合は、「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」より、「EmbedWare/Diag Professional Ver1.0」の [変更] ボタンをクリックして、プログラムの修復を行ってください。 それでも問題がある場合は、担当営業員までご連絡ください。

◇ Windows インストーラからアンインストールする

1　**「EmbedWare/Diag Professional Ver 1.0」アプリケーション CD を挿入します。**

セットアップウィザード画面が表示されます。

	EmbedWare/Diag Professional のインストーラが自動で起動されない場合は、CD-ROM ドライブを選択し、「EWD_Pro Setup」フォルダをダブルクリックします。 フォルダの内容が表示されますので、"EWD_Pro.msi" をダブルクリックします。 



2　「Embed/Diag Professional Ver 1.0 の削除（M)」を選択し、[完了］ボタンをクリックします。

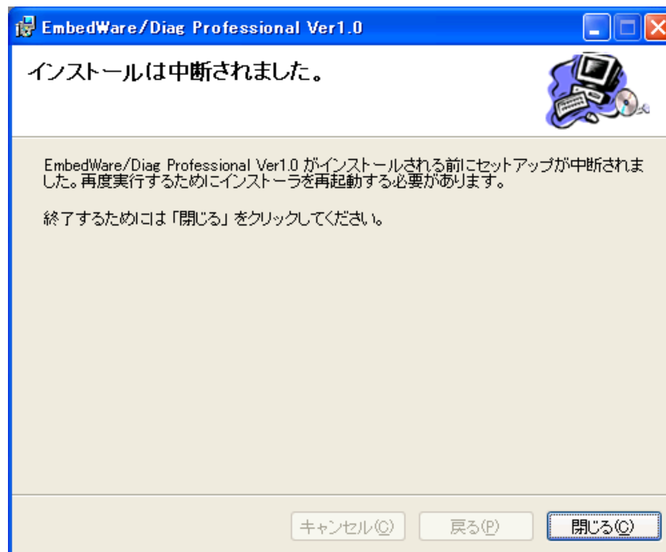


EmbedWare/Diag Professional を修復するために再インストールする場合は、「EmbedWare/Diag Professional の修復」を選択し、［完了］ボタンをクリックします。

［キャンセル］ボタンをクリックすると、アンインストールの中断を確認するメッセージボックスが表示されます。

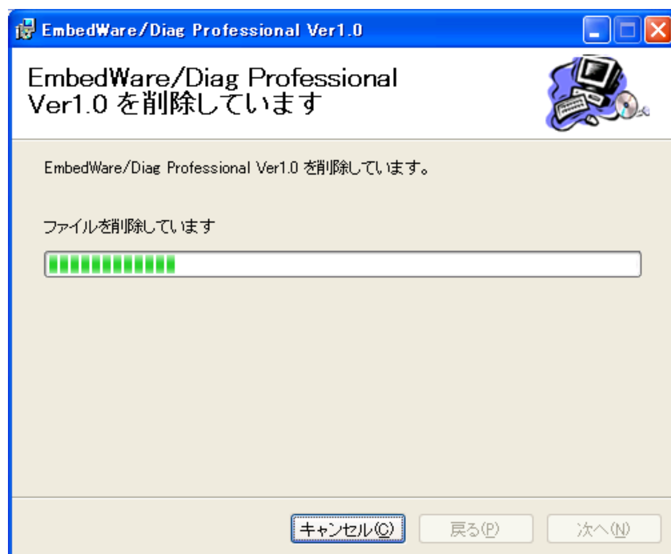


［はい］ボタンをクリックすると、アンインストールが中断されます。



［いいえ］ボタンをクリックすると、アンインストーラ画面に戻ります。

アンインストールが開始され、アンインストールの経過画面が表示されます。



	アンインストールを中止すると、不具合が生じる場合がありますので、［キャンセル］ボタンをクリックしないでください。 ［キャンセル］ボタンをクリックして不具合が生じた場合は、「スタート」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」より、「EmbedWare/Diag Professional Ver1.0」の［変更］ボタンをクリックして、プログラムの修復を行ってください。 それでも問題がある場合は、担当営業員までご連絡ください。

アンインストールが終了し、アンインストールの終了画面が表示されます。



3　［閉じる］ボタンをクリックします。

画面が閉じ、EmbedWare/Diag Professional のアンインストールが終了します。

第 3 章　操作

この章では、EmbedWare/Diag Professional で行える操作について説明します。

3.1　起動

EmbedWare/Diag Professional の起動方法には、以下の方法があります。

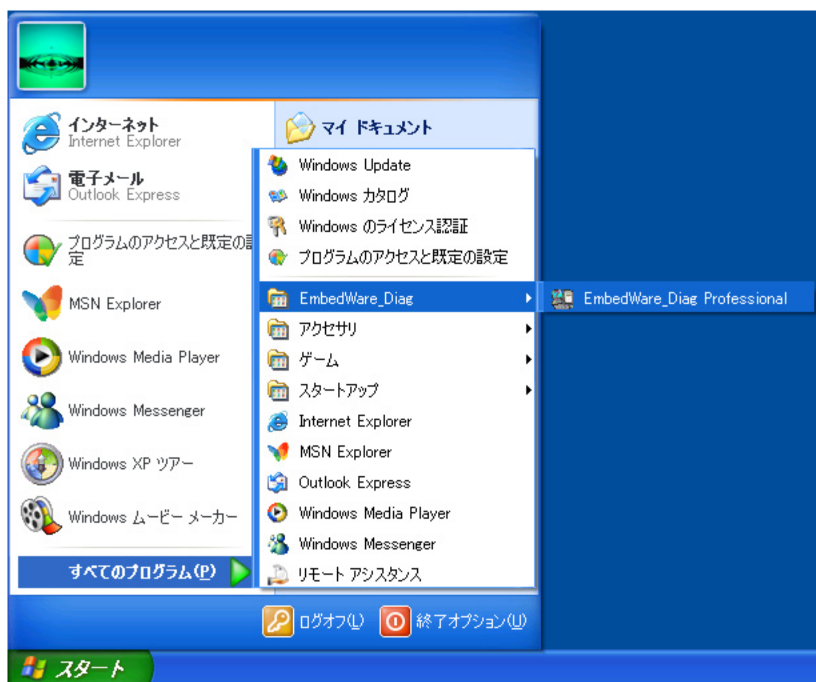
◇デスクトップの「EmbedWare_Diag Professional」をダブルクリックする

デスクトップの「EmbedWare_Diag Professional」ショートカットをダブルクリックします。



◇スタートメニューから起動する

「スタート」→「すべてのプログラム」→「EmbedWare_Diag」→「EmbedWare_Diag Professional」をクリックします。



3.2　メイン画面



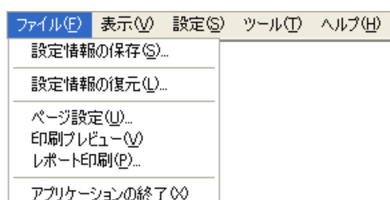
メイン画面は以下で構成されます。
①メニュー
②デバイス選択ウィンドウ
③テストプログラム選択ウィンドウ
④インフォメーションウィンドウ
⑤ボタン

EmbedWare/Diag Professional を起動すると、接続装置の自動認識を行い、デバイス選択ウィンドウに接続されているデバイスを表示します。同時に、認識されたデバイスに対応するテストプログラムを自動選択し、テストプログラム選択ウィンドウに表示します。
初期状態では、テストプログラムが動作可能なデバイスが選択状態となり、またそのデバイスに対応するテストプログラムが選択状態となります。インフォメーションウィンドウには、操作方法が表示されます。
ここで［開始］ボタンをクリックすると右上のテストプログラム選択ウィンドウで選択されているテストプログラムが、診断動作モードに従い実行されます。

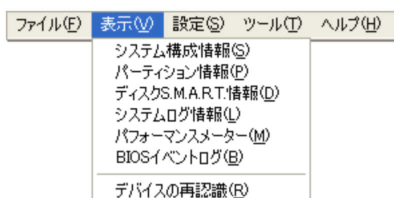
3.2.1 メニュー

メニューは下記のとおりに構成されています。詳細については、「メニュー」（27 ページ）を参照してください。

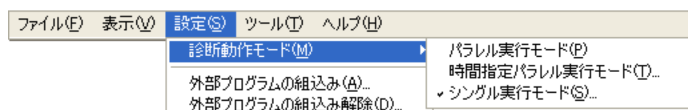
「ファイル」メニュー



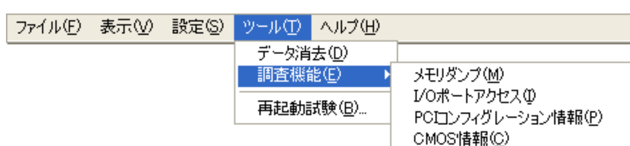
「表示」メニュー



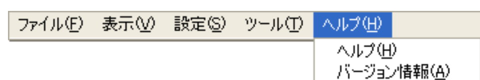
「設定」メニュー



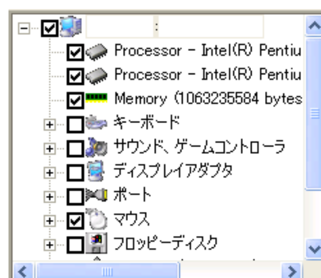
「ツール」メニュー



「ヘルプ」メニュー



3.2.2 デバイス選択ウィンドウ



接続されているデバイスを自動認識して表示します。デバイスをチェックボックスで選択できます。初期状態では、テストプログラムが動作可能なデバイスが選択状態となります。
⊟をクリックすることでツリーを閉じることができます。
⊞をクリックすることでツリーを開くことができます。
チェックボックスをクリックすると☑と☐が切り替わります。☑で選択状態、☐で非選択状態となり、テストプログラム選択ウィンドウの対応するテストプログラムも連動します。デバイスをクリックすることでテストプログラム選択ウィンドウには対応するテストプログラムのみの表示となります。



目的のデバイスが一覧に表示されていない場合、ドライバがインストールされてない、または、デバイスマネージャで無効化されているなどが考えられます。「表示」→「デバイスの再認識」を行っても、目的のデバイスが一覧に表示されない場合は、デバイスマネージャにて該当するデバイスの状態をご確認ください。

3.2.3 テストプログラム選択ウィンドウ

	診断対象	診断概要	ループ回数	状態
☑	Processor	キャッシュテスト	0/1	−
☑	Processor	演算テスト	0/1	−
☑	Memory	メモリリードテスト	0/1	−
☑	Memory	メモリライトテスト	0/1	−
□	LPT1	パラレルポートテスト	0/1	−
□	COM1	シリアルポートテスト	0/1	−
□	COM2	シリアルポートテスト	0/1	−
□	Mouse	タッチテスト	0/1	−
□	A:	フロッピーテスト	0/1	−
□	G:	CDサウンド再生テスト	0/1	−
□	G:	CDRW書込みテスト	0/1	−

デバイスに対して必要なテストプログラムを自動選択して表示します。テストプログラムをチェックボックスで選択できます。初期状態では、動作可能なテストプログラムが選択状態となります。チェックボックスをクリックすると☑と□が切り替わります。☑で選択状態となります。□で非選択状態となります。

「診断対象」

テスト対象となるデバイスをアイコンと名称で表示します。

「診断概要」

テスト対象となるデバイスに対して行うテスト概要を表示します。

「ループ回数」

テストプログラムの実行回数／ループ回数を表示します。



実行回数に実行した回数が反映されている状態（たとえば 3 ／ 3 と表示）で、テストプログラムの「設定」でループ回数を変更しても、実行回数の情報はクリアされません。これは、前に実行した回数が確認できるようにしているためであり、動作には問題ありません。

「状態」

テストプログラムの実行状況または、実行結果を表示します。

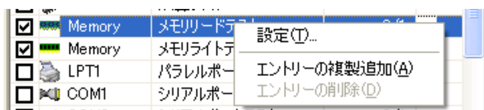
実行状況　　− ：未実行　　：実行中　　：エラー継続

実行結果　　：OK　　：NG　　STOP：実行停止



- EmbedWare/Diag Professional Ver1.0 では、キーボードに対応するテストプログラムを提供していません。
- AR2000、AR3000 シリーズでは、"IEEE1394 ネットワークデバイス " がデバイス選択ウィンドウに表示されますが、このデバイスに対するテストプログラムはありません。IEEE1394 ディスク装置を接続して診断を行ってください。
- テストプログラム選択ウィンドウでは、ネットワークアダプタ用の診断デバイスの表示が link の状態により異なります。
  link up　：ネットワークアダプタに設定されている IP アドレス
  link down：0.0.0.0

表示されているテストプログラムをマウスで右クリックするとテストプログラムの設定、エントリーの複製追加およびエントリーの削除を行えます。



「設定」を選択すると、各テストのパラメータを設定・変更することができます。

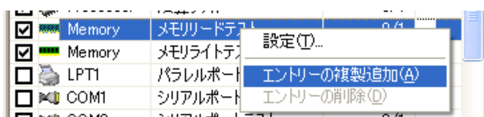


各テストプログラムの設定については、「テストプログラム概要」（57 ページ）を参照してください。

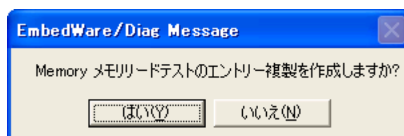
「エントリーの複製追加」を選択すると、テストプログラムの複製を追加することができます。同じデバイスに対して複数のテストプログラムを用いて、負荷をかけたりすることができます。



「エントリーの複製追加」が行えないテストプログラムは、「エントリーの複製追加」が非選択状態になっています。



「エントリーの複製追加」を選択すると、以下のメッセージボックスが表示されます。



［はい］ボタンをクリックすると、選択したテストプログラムの複製が追加されます。［いいえ］ボタンをクリックすると、テストプログラムの複製は行いません。

Memory	メモリードテスト	0/1	–
Memory	メモリードテスト#2	0/1	–
Memory	メモリライトテスト	0/1	–
LPT1	パラレルポートテスト	0/1	–

追加されたテストプログラムは、後ろに " ＃番号 " が付加されます。

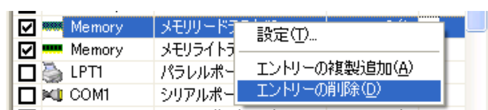


複製したテストプログラムのパラメータは複製元のテストプログラムのものが引き継がれます。



「エントリーの複製追加」で追加できるテストプログラム数は、ひとつのデバイスに対して最大 31 個までです。また EmbedWare/Diag Professional 全体では、既に登録されているテストプログラムを含めて最大 200 個までです。
上記上限に達した場合は、「エントリーの複製追加」は非選択状態になります。

「エントリーの削除」を選択すると「エントリーの複製追加」で追加したテストプログラムの削除を行うことができます。





エントリーの削除の選択が行えるのは、"# 番号 " の付くテストプログラムの複製に対してのみです。

「エントリーの削除」を選択すると、以下のメッセージボックスが表示されます。

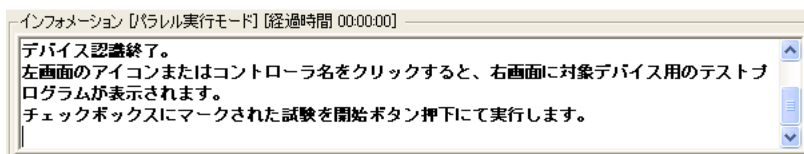


［はい］ボタンをクリックすると、選択したテストプログラムが削除されます。［いいえ］ボタンをクリックすると、削除は行いません。



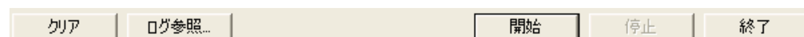
エントリーの複製追加によって追加したテストプログラムは、EmbedWare/Diag Professional を終了すると消滅します。
追加したエントリーの複製などの情報の保存・復元は、「ファイル」→「設定情報の保存」、「ファイル」→「設定情報の復元」を行ってください。

3.2.4 インフォメーションウィンドウ



ウィンドウ上部に診断動作モード、ウィンドウ内にテストプログラムの実行状態やテストのエラーメッセージを表示します。
インフォメーションウィンドウに表示されている内容については、マウスの右クリックで、内容をクリップボードにコピーしたり、切り取ったりすることができます。
診断動作モードについては、「「設定」メニュー」（38 ページ）を参照ください。

3.2.5 ボタン



［クリア］ボタン

インフォメーションウィンドウ内に表示されている情報をクリアします。
［クリア］ボタンをクリックすると、確認のメッセージが表示されます。



［はい］ボタンをクリックすると、インフォメーションウィンドウをクリアしメイン画面に戻ります。［いいえ］ボタンをクリックすると、クリアは行わずにメイン画面に戻ります。

［ログ参照］ボタン

「ログ参照」画面が表示され、ログを参照できます。ログ参照に関しては、「ログ参照」（22 ページ）を参照ください。

［開始］ボタン

テストプログラム選択ウィンドウで選択されているテストプログラムの実行を開始します。テストプログラムが選択されていない場合やテストプログラム実行中は、非選択状態になります。

［停止］ボタン

テストプログラムの実行を停止します。テストプログラム実行中のみ選択可能状態となります。

［終了］ボタン

EmbedWare/Diag Professional を終了します。

3.3　ログ参照

各テストプログラムが検出したエラー情報を確認することができます。
メイン画面より、［ログ参照］ボタンをクリックすると、「ログ参照」画面が表示されます。



ログ参照画面は以下で構成されます。
①ログインデックスウィンドウ
②ログ内容ウィンドウ
③ボタン

テストプログラムがエラー終了した場合に出力されるエラーメッセージファイルをログインデックスウィンドウに一覧表示し、また選択したログの詳細をログ内容ウィンドウに表示します。
画面左上には、エラーログの数が表示されます。上記例では、「ログ数：12」とエラーログが 12 個あることを示しています。

3.3.1 ログインデックスウィンドウ

番号	発生日時	診断対象	診断概要	エラー概要
1	2006.06.05 08:49:06	LPT1	パラレルポートテスト	ステータスレジスタエラー。[試験ポート:0x378](実際...
2	2006.06.05 08:49:08	A:	フロッピーテスト	メディアの認識に失敗しました。[A:]
3	2006.06.05 08:49:14	Sound0	録音テスト	ノコギリ波[8ビット,左262Hz,右0Hz]の録音にて、左...
4	2006.06.05 08:49:36	D:	CDサウンド再生テスト	メディアが見つかりません。
5	2006.06.05 08:50:21	D:	CDRW書込みテスト	ブランクメディアが見つかりません。
6	2006.06.05 08:50:40	D:	DVD再生テスト	メディア情報の取得に失敗しました。
7	2006.06.05 09:36:27	LPT1	パラレルポートテスト	ステータスレジスタエラー。[試験ポート:0x378](実際...
8	2006.06.05 09:36:27	COM1	シリアルポートテスト	COM1:Ring Indicator(被呼表示)が検出されません...
9	2006.06.05 09:36:28	A:	フロッピーテスト	メディアの認識に失敗しました。[A:]
10	2006.06.05 09:36:48	D:	CDサウンド再生テスト	メディアが見つかりません。

全ログが表として表示されます。タイトル（番号、発生日時、診断対象、診断概要、エラー概要）をクリックすることで、ログがクリックした項目で降順にソートされます。再度同じ項目をクリックすると昇順にソートされます。
ログインデックスウィンドウからは、後述する選択印刷のためにログの複数選択を行うことができます。

(1) 特定の範囲のログを選択する場合

番号	発生日時	診断対象	診断概要	エラー概要
1	2006.06.05 08:49:06	LPT1	パラレルポートテスト	ステータスレジスタエラー。[試験ポート:0x378](実際...
2	2006.06.05 08:49:08	A:	フロッピーテスト	メディアの認識に失敗しました。[A:]
3	2006.06.05 08:49:14	Sound0	録音テスト	ノコギリ波[8ビット,左262Hz,右0Hz]の録音にて、左...
4	2006.06.05 08:49:36	D:	CDサウンド再生テスト	メディアが見つかりません。
5	2006.06.05 08:50:21	D:	CDRW書込みテスト	ブランクメディアが見つかりません。
6	2006.06.05 08:50:40	D:	DVD再生テスト	メディア情報の取得に失敗しました。
7	2006.06.05 09:36:27	LPT1	パラレルポートテスト	ステータスレジスタエラー。[試験ポート:0x378](実際...
8	2006.06.05 09:36:27	COM1	シリアルポートテスト	COM1:Ring Indicator(被呼表示)が検出されません...
9	2006.06.05 09:36:28	A:	フロッピーテスト	メディアの認識に失敗しました。[A:]
10	2006.06.05 09:36:48	D:	CDサウンド再生テスト	メディアが見つかりません。
11	2006.06.05 09:36:57	D:	DVD再生テスト	メディア情報の取得に失敗しました。

選択範囲の先頭ログの行をクリックします。（上記例では、4 番のログの行をクリックします）
次に選択範囲の最終ログの行を、［Shift］キーを押しながら、クリックします。（上記例では、10 番のログの行をクリックします）
これにより、4 番～ 10 番のログが選択されたことになります。

(2) 特定のログを複数選択する場合

番号	発生日時	診断対象	診断概要	エラー概要
1	2006.06.05 08:49:06	LPT1	パラレルポートテスト	ステータスレジスタエラー。[試験ポート:0x378](実際...
2	2006.06.05 08:49:08	A:	フロッピーテスト	メディアの認識に失敗しました。[A:]
3	2006.06.05 08:49:14	Sound0	録音テスト	ノコギリ波[8ビット,左262Hz,右0Hz]の録音にて、左...
4	2006.06.05 08:49:36	D:	CDサウンド再生テスト	メディアが見つかりません。
5	2006.06.05 08:50:21	D:	CDRW書込みテスト	ブランクメディアが見つかりません。
6	2006.06.05 08:50:40	D:	DVD再生テスト	メディア情報の取得に失敗しました。
7	2006.06.05 09:36:27	LPT1	パラレルポートテスト	ステータスレジスタエラー。[試験ポート:0x378](実際...
8	2006.06.05 09:36:27	COM1	シリアルポートテスト	COM1:Ring Indicator(被呼表示)が検出されません...
9	2006.06.05 09:36:28	A:	フロッピーテスト	メディアの認識に失敗しました。[A:]
10	2006.06.05 09:36:48	D:	CDサウンド再生テスト	メディアが見つかりません。
11	2006.06.05 09:36:57	D:	DVD再生テスト	メディア情報の取得に失敗しました。

［Ctrl］キーを押下しながら、ログの行を選択することで特定のログを複数選択することができます。

3.3.2 ログ内容ウィンドウ

```
Program Name:paratest        Diag Name:パラレルポートテスト
Device Name:LPT1
Date:2006.06.05 08:49:06       Loop:00000 (00001)
Error Code:08102
Error Message:
ステータスレジスタエラー。[試験ポート:0x378](実際値:0x78,期待値:0x20)
試験ポートに接続した折返しコネクタの接続をご確認ください。
```

ログインデックスウィンドウで最後に選択したログの内容がログ内容ウィンドウに表示されます。
各行の意味は以下のとおりです。

・ Program Name　　：エラーを検出したテストプログラム名
・ Diag Name　　：エラーを検出したテストプログラム名（診断概要）
・ Device Name　　：エラーを検出したデバイス
・ Date　　：エラーを検出したときの日付・時刻
・ Loop　　：エラーを検出したときの実行回数とループ回数
・ Error Code　　：テストプログラムのエラーコード（復帰コード）
・ Error Message　　：エラーメッセージ



テストプログラムのエラーコードやエラーメッセージの詳細については、「テストプログラム　エラーメッセージ・復帰コード一覧」（103 ページ）　を参照ください。

3.3.3 ボタン

ログ数:1028　<<　<　>　>>

ボタンの左側に現在のログの数が表示されます。
ボタンは、ログが 1000 件以上ある場合に選択可能状態になります。1000 件未満の場合は非選択状態となっています。

[>］ボタン

次の 1000 件のログを一覧表示します。

[<］ボタン

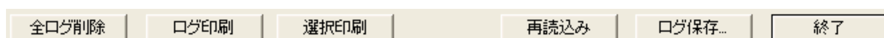
前の 1000 件のログを一覧表示します。

[>>］ボタン

最終ログを含むログを一覧表示します。

[<<］ボタン

先頭ログを含むログを一覧表示します。



[全ログ削除］ボタン

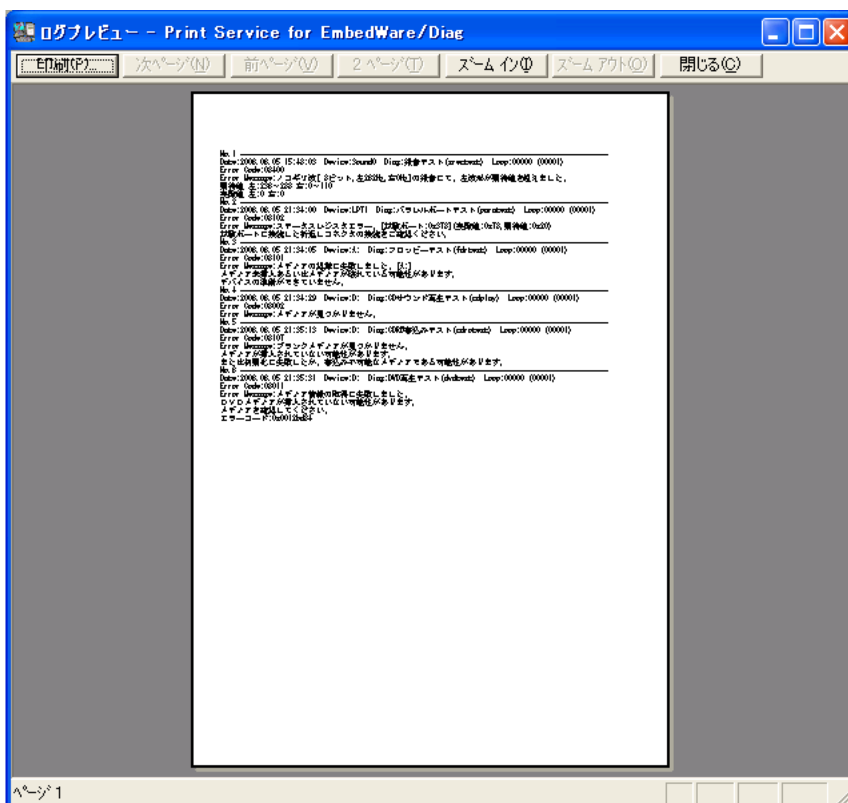
ログを全部削除します。以下のメッセージが表示されます。



［はい］ボタンをクリックすると、ログを全部削除します。［いいえ］ボタンをクリックするとログ削除を中断し、「ログ参照」画面に戻ります。

[ログ印刷］ボタン

ログインデックスウィンドウに表示しているログをすべて印刷します。「ログプレビュー」画面が開き内容を確認できます。次に印刷ダイアログが開かれプリンタを選択、設定することができます。



［選択印刷］ボタン

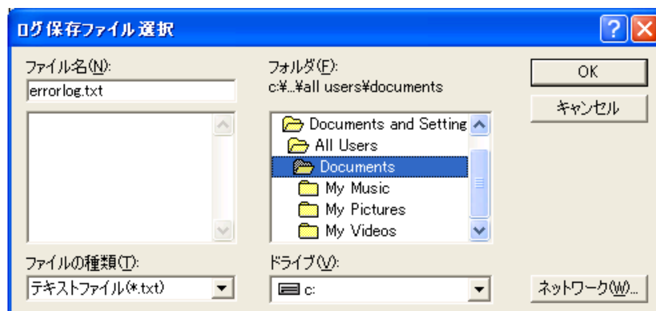
ログインデックスウィンドウで選択しているログを印刷します。「ログプレビュー」画面が開き内容を確認できます。次に印刷ダイアログが開きプリンタを選択、設定することができます。

［再読込み］ボタン

ログを再読込みします。

［ログ保存］ボタン

「ログ保存ファイル選択」ダイアログが開き、ログを別ファイルに保存できます。



［OK］ボタンをクリックすると指定したフォルダ、ファイル名でエラーログを保存します。［キャンセル］ボタンをクリックすると、ログ保存を中断し、「ログ参照」画面に戻ります。

［終了］ボタン

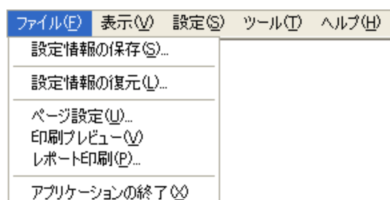
「ログ参照」画面を閉じます。

3.4　メニュー

EmbedWare/Diag Professional では、テスト環境の保存や復元、各種ユーティリティ、ツールをメニューから起動することができます。

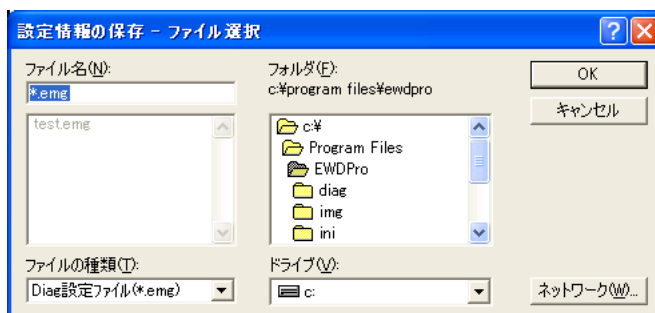
3.4.1「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューから以下の機能を指定できます。

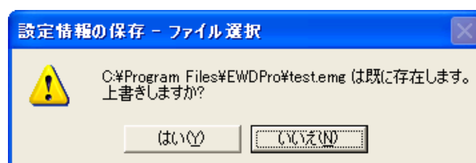


（1） 設定情報の保存

現在のシステム構成・選択したテストおよびパラメータ情報を保存します。
「ファイル」→「設定情報の保存」を選択すると、「設定情報の保存－ファイル選択」ダイアログが表示されますので、ファイル名（拡張子は、"*.emg" になります）を指定して［OK］ボタンをクリックして保存してください。［キャンセル］ボタンをクリックすると、設定情報の保存は行わず、メイン画面に戻ります。

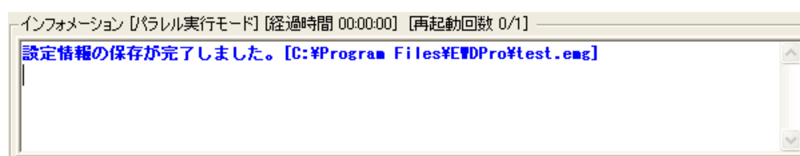


指定した名前の設定情報保存ファイルが指定されたフォルダにすでに存在する場合は、以下のメッセージボックスが表示されます。



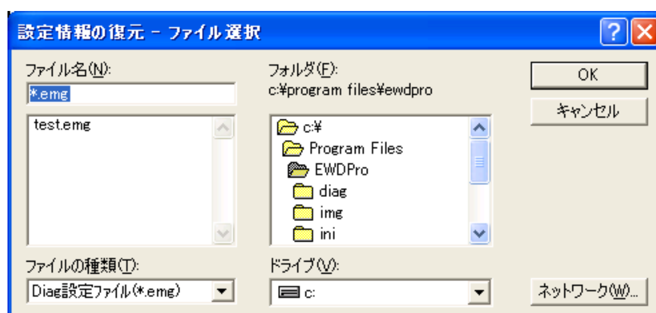
［はい］ボタンをクリックすると上書きします。［いいえ］ボタンをクリックすると、「設定情報の保存－ファイル選択」ダイアログに戻ります。

設定情報の保存が完了すると、インフォメーションウィンドウに以下のメッセージが表示されます。

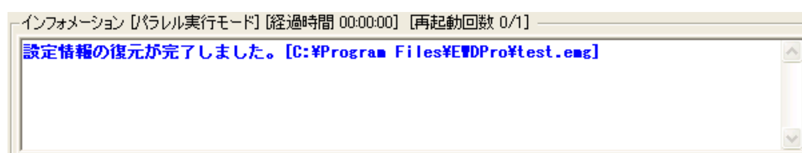


(2) 設定情報の復元

保存したシステム構成を読み込み、パラメータ情報を復元します。
「ファイル」→「設定情報の復元」を選択すると、「設定情報の復元－ファイル選択」ダイアログが表示されますので、設定保存ファイル名（拡張子は、"*.emg" になります）を選択して［OK］ボタンをクリックしてください。［キャンセル］ボタンをクリックすると、設定情報の復元は行わず、メイン画面に戻ります。



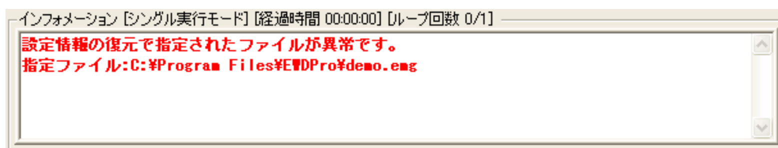
設定情報の復元が完了すると、インフォメーションウィンドウに以下のメッセージが表示されます。



また、選択した設定情報ファイルが、「ツール」→「再起動試験」にて保存したファイルの場合、ファイル選択することにより、再起動試験が実行されます。

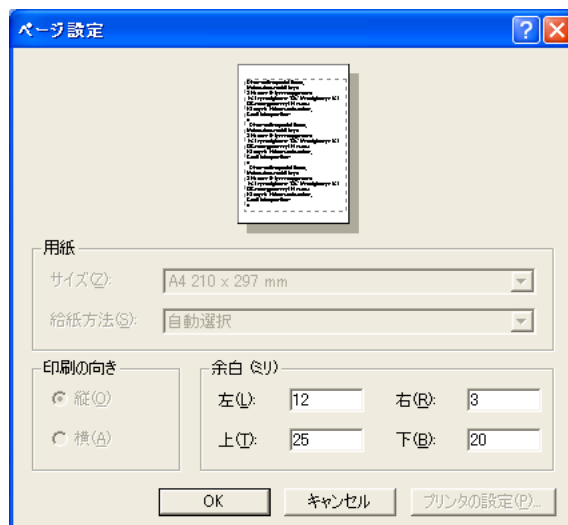


現在実行している EmbedWare/Diag Professional のバージョンと異なるバージョンで保存された設定情報を読み込むことはできません。このような場合や何らかの要因で設定情報内容が異常となっている設定情報を読み込んだ場合は、インフォメーションウィンドウに以下のメッセージが表示されます。



(3) ページ設定

レポート印刷の余白を設定します。
「ファイル」→「ページ設定」を選択すると、「ページ設定」ダイアログが表示されますので余白を指定して［OK］ボタンをクリックしてください。［キャンセル］ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。



	「ページ設定」で行えるのは、余白の設定のみです。使用するプリンタや用紙、給紙方法、印刷の向きなどに関しては、事前にプリンタのプロパティで設定してください。

(4) 印刷プレビュー

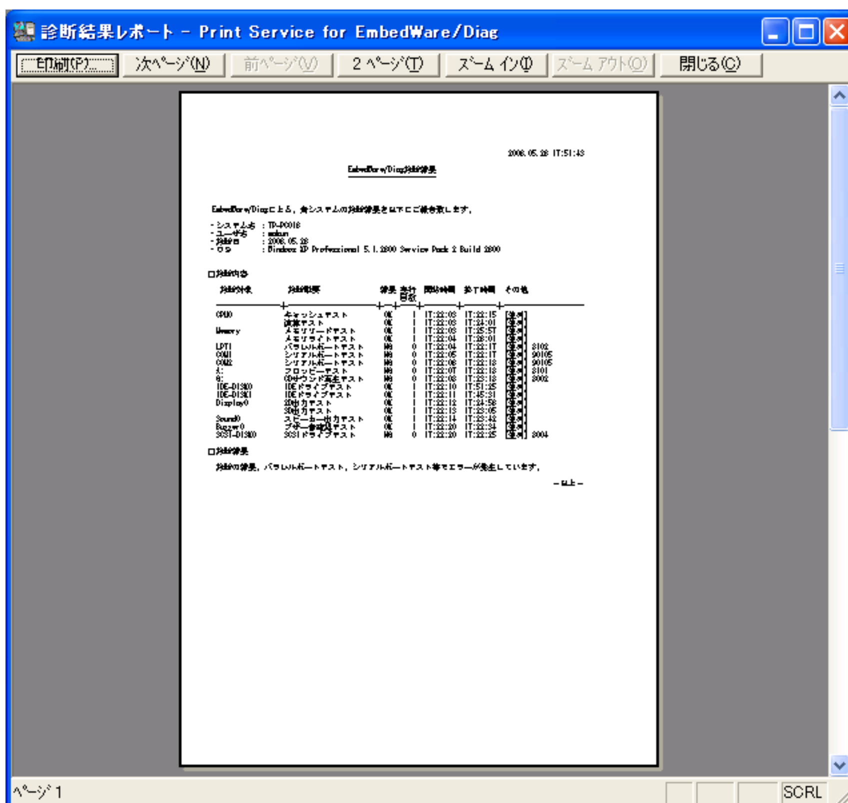
レポート印刷のプレビュー画面を表示します。
出力されるページの内容を事前に確認することができます。



「印刷プレビュー」は、すでにいくつかのテストを実行し、結果が出力できる状態になっている場合に選択できます。テストが実行されていない場合は非選択状態になります。

「ファイル」→「印刷プレビュー」を選択すると、「診断結果レポート」画面が表示されます。

印刷する場合は、［印刷］ボタンをクリックしてください。
［閉じる］ボタンをクリックすると、印刷を行わず、メイン画面に戻ります。



(5) レポート印刷

診断結果をレポート印刷します。

	レポート印刷は、すでにいくつかのテストを実行し、結果が出力できる状態になっている場合に選択できます。テストが実行されていない場合は非選択状態になります。

「ファイル」→「レポート印刷」を選択すると、「印刷」ダイアログが表示されますので、プリンタの選択、プリンタ詳細設定、印刷範囲、部数の設定を行い、［印刷］ボタンをクリックすると、指定のプリンタに診断結果レポートが印刷されます。［キャンセル］ボタンをクリックすると、診断結果レポートは印刷せず、メイン画面に戻ります。

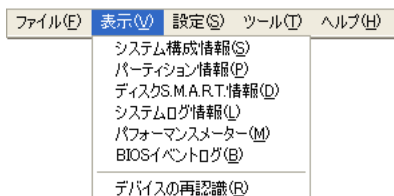
	プリンタの詳細設定に関しては、ご使用のプリンタの説明書をご覧ください。

(6) アプリケーションの終了

「ファイル」→「アプリケーションの終了」を選択することで、EmbedWare/Diag Professional を終了します。

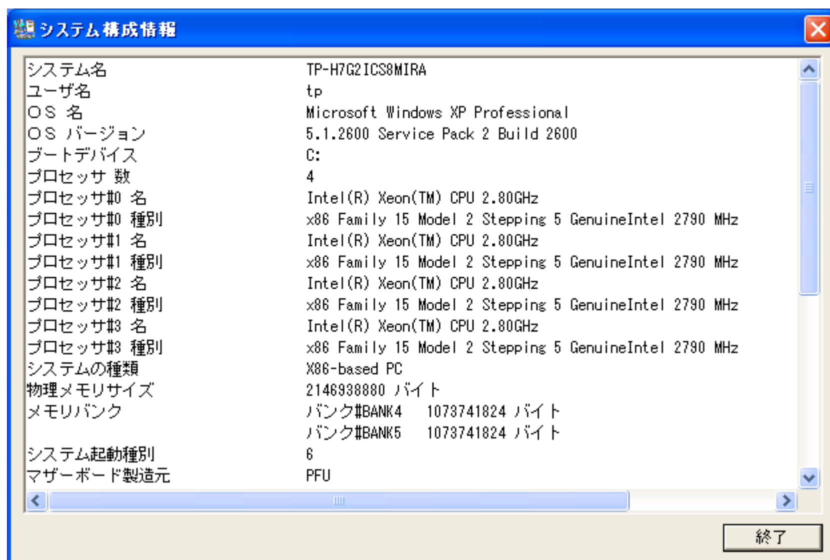
3.4.2 「表示」メニュー

「表示」メニューから以下の機能を指定できます。



(1) システム構成情報

ディスクにインストールされている Windows システム情報および本体装置情報を表示します。
「表示」→「システム構成情報」を選択すると、「システム構成情報」画面が表示されます。



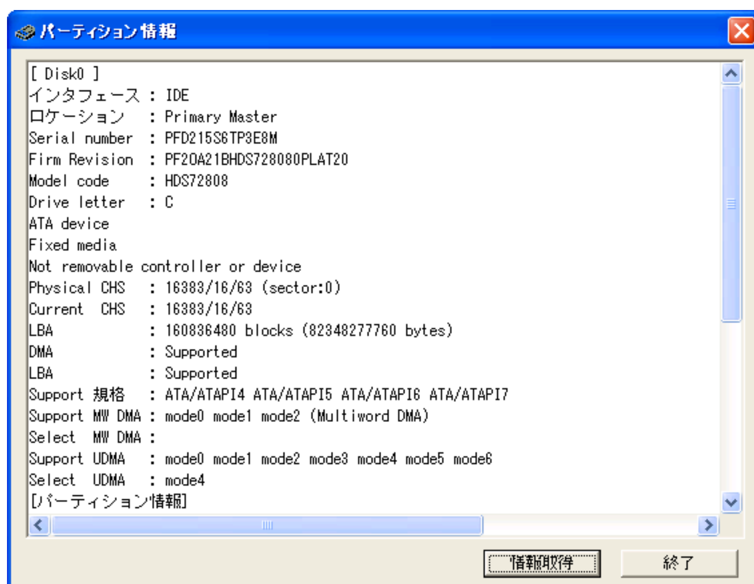
［終了］ボタン

「システム構成情報」画面を閉じます。

	表示される内容は、EmbedWare/Diag Professional 起動時に認識した情報が表示されます。起動後にハードウェアを追加した場合は表示されない場合があります。その場合は、「表示」→「デバイスの再認識」を選択して、再度 EmbedWare/Diag Professional にシステム構成状態を認識させ、再度表示してください。

(2) パーティション情報

本体装置に接続されているディスク装置のパーティション構成情報を表示します。
「表示」→「パーティション情報」を選択すると、「パーティション情報」画面が表示されます。



［情報取得］ボタン

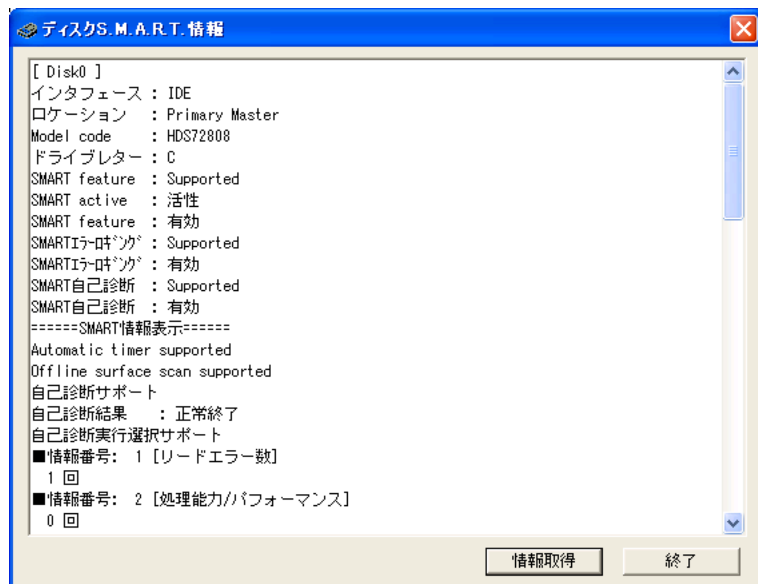
再度接続されているディスク装置のパーティション構成情報の読み込みと表示を行います。

［終了］ボタン

「パーティション情報」画面を閉じます。

(3) ディスク S.M.A.R.T. 情報

本体装置に接続されているディスク装置について、S.M.A.R.T. 情報の表示を行います。「表示」→「ディスク S.M.A.R.T. 情報」を選択すると、「ディスク S.M.A.R.T. 情報」画面が表示されます。



[情報取得] ボタン

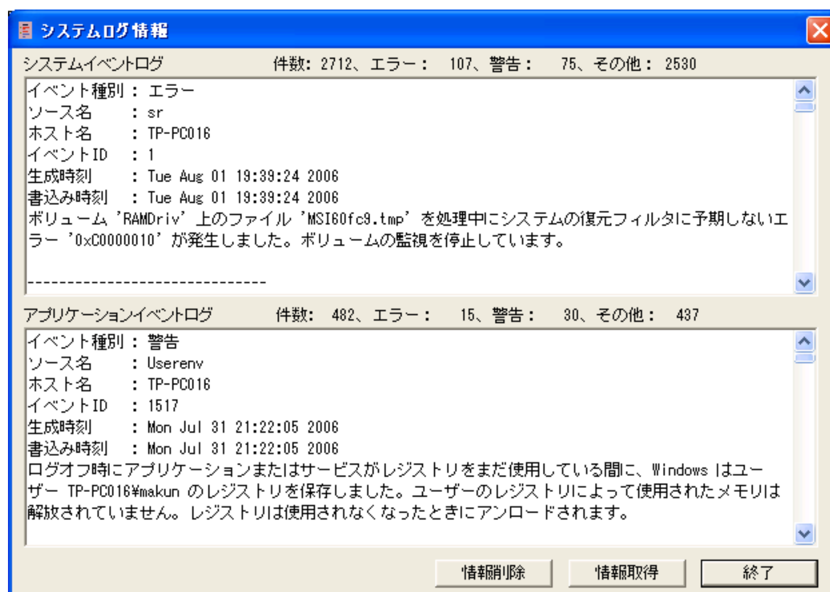
再度接続されているディスク装置の S.M.A.R.T. 情報の読み込みと表示を行います。

[終了] ボタン

「ディスク S.M.A.R.T. 情報」画面を閉じます。

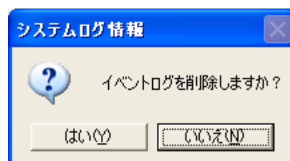
(4) システムログ情報

Windows がディスク内に格納するログのうち、システムイベントログ、アプリケーションイベントログの表示を行います。
「表示」→「システムログ情報」を選択すると、「システムログ情報」画面が表示されます。



[情報削除] ボタン

Windows ログの削除を行います。以下のメッセージが表示されます。



[はい] ボタンをクリックすると、Windows イベントログを削除します。[いいえ] ボタンをクリックすると、イベントログ削除を中断し、「システムログ情報」画面に戻ります。

[情報取得] ボタン

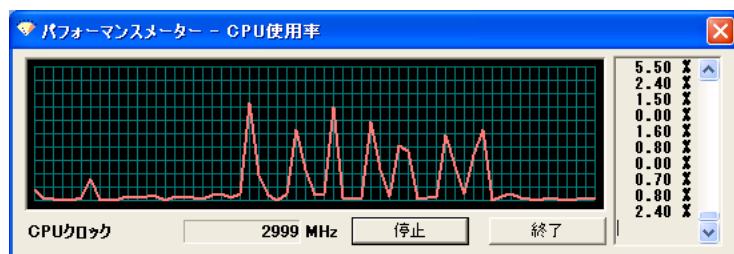
再度 Windows イベントログの読み込みと表示を行います。

[終了] ボタン

「システムログ情報」画面を閉じます。

(5) パフォーマンスメーター

CPU 使用率をグラフと数値で、また CPU 動作周波数を数値で表示します。
「表示」→「パフォーマンスメーター」を選択すると、「パフォーマンスメーター ―　CPU 使用率」画面が表示されます。



画面内には、CPU 使用率と、CPU の動作周波数が表示されます。

［停止］［再開］ボタン

グラフ表示および周波数表示を停止します。停止した場合は［再開］ボタンに変わります。再度選択すると、表示を再開します。

［終了］ボタン

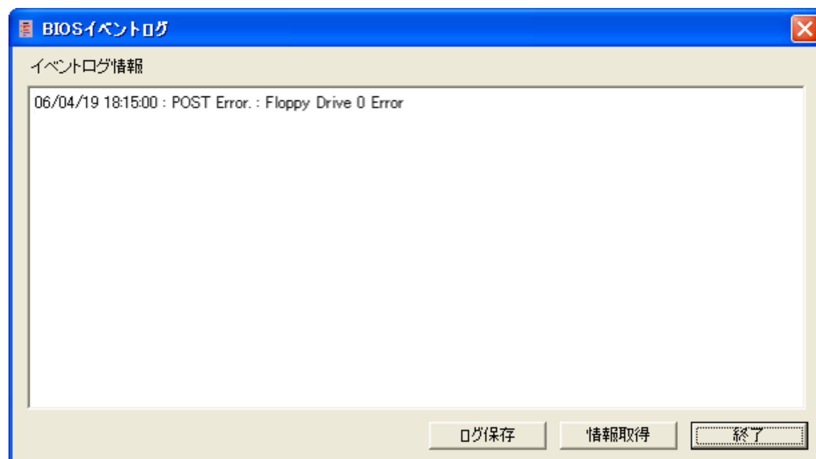
「パフォーマンスメーター　―　CPU 使用率」画面を閉じます。

(6) BIOS イベントログ

BIOS イベントログを表示します。

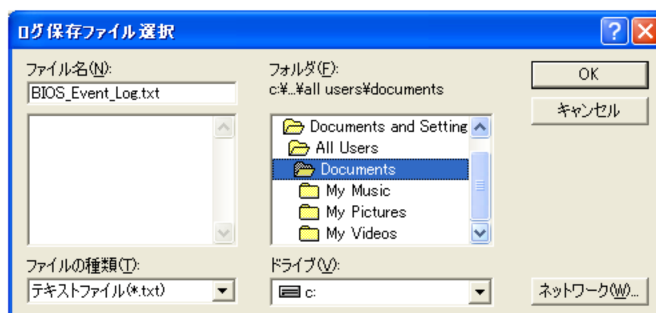
	当社ハードウェア製品以外では、BIOS イベントログ表示は未サポートです。

「表示」→「BIOS イベントログ」を選択すると、「BIOS イベントログ」画面が表示されます。



［ログ保存］ボタン

BIOS イベントログをファイルに出力します。
［ログ保存］ボタンをクリックすると、「ログ保存ファイル選択」ダイアログが表示されます。



「フォルダ」および「ファイル名」を指定して、［OK］ボタンをクリックするとファイルが保存されます。［キャンセル］ボタンをクリックすると、「BIOS イベントログ」画面に戻ります。

［情報取得］ボタン

再度 BIOS イベントログの読み込みと表示を行います。

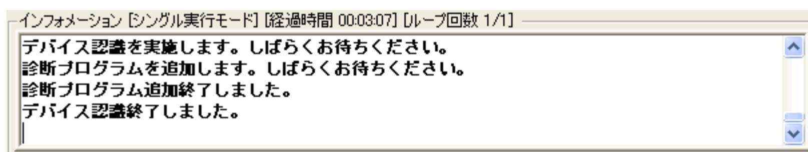
［終了］ボタン

「BIOS イベントログ」画面を閉じます。

(7) デバイスの再認識

EmbedWare/Diag Professional を起動してから、USB デバイスなどを追加した場合や再度システム情報の認識を行いたい場合に選択することで最新の状態にすることができます。

「表示」→「デバイスの再認識」を選択すると、インフォメーションウィンドウに以下のメッセージが表示されます。

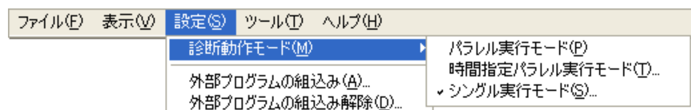




「デバイスの再認識」を行った場合、デバイス選択状態、テストプログラム選択状態は初期状態に戻ります。また、エントリーの複製追加を行った情報はすべてクリアされます。再度パラメータ設定やエントリーの追加を行ってください。

3.4.3 「設定」メニュー

「設定」メニューから以下の機能を指定できます。



(1) 診断動作モード

診断時の動作モードを指定します。動作モードは以下の 3 種類から選択できます。
どのモードが選択されているかは、インフォメーションウィンドウ上部に表示されます。

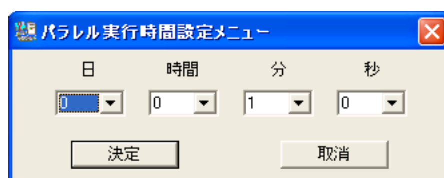
インフォメーション [パラレル実行モード] [経過時間 00:00:00]

パラレル実行モード

テストプログラム選択ウィンドウで選択したプログラムを同時実行します。
インフォメーションウィンドウ上部には以下のメッセージが表示されます。

時間指定パラレル実行モード

テストプログラム選択ウィンドウで選択したテストプログラムが指定した実行時間、繰り返し動作し続けます。
「設定」→「診断動作モード」→「時間指定パラレル実行モード」を選択すると、「パラレル実行時間設定メニュー」ダイアログが表示されますので、実行時間を設定します。



［決定］ボタンをクリックすると、時間が設定されます。［取消］ボタンをクリックすると、指定した時間は取り消されます。

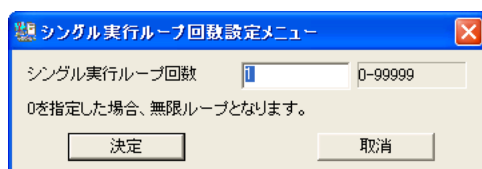
設定後は、インフォメーションウィンドウ上部には以下のメッセージが表示されます。

インフォメーション [時間指定パラレル実行モード] [経過時間 00:00:00/00:01:00]

	• 時間指定パラレル実行モードでテストプログラムを実行した場合は、各テストプログラムで指定したループ回数は無効となります。 • 指定した時間を過ぎると各テストは終了します。指定した実行時間までに 1 回以上正常終了したテストがあった場合は、テストプログラム選択ウィンドウ内の「状態」欄は、が表示されます。1 回以上実行できなかった場合は、STOP、エラーを検出した場合は、が表示されます。

シングル実行モード

テストプログラム選択ウィンドウで選択したプログラムを 1 本ずつ順次実行します。
「設定」→「診断動作モード」→「シングル実行モード」を選択すると、「シングル実行ループ回数設定メニュー」ダイアログが表示されますので、実行したいループ回数を設定します。



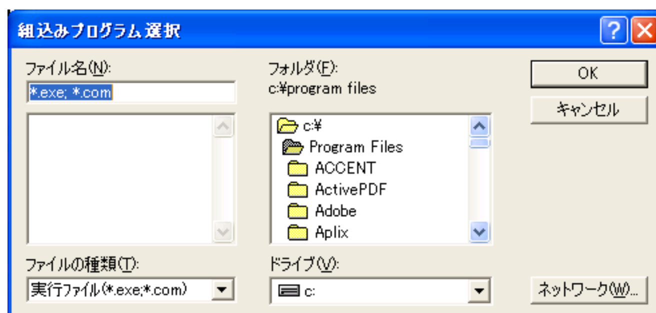
［決定］ボタンをクリックするとシングル実行ループ回数で指定した回数分、テストプログラム選択ウィンドウで選択したプログラムを 1 本ずつ順次実行するようになります。［取消］ボタンをクリックすると指定した回数は取り消されます。

設定後は、インフォメーションウィンドウ上部には以下のメッセージが表示されます。

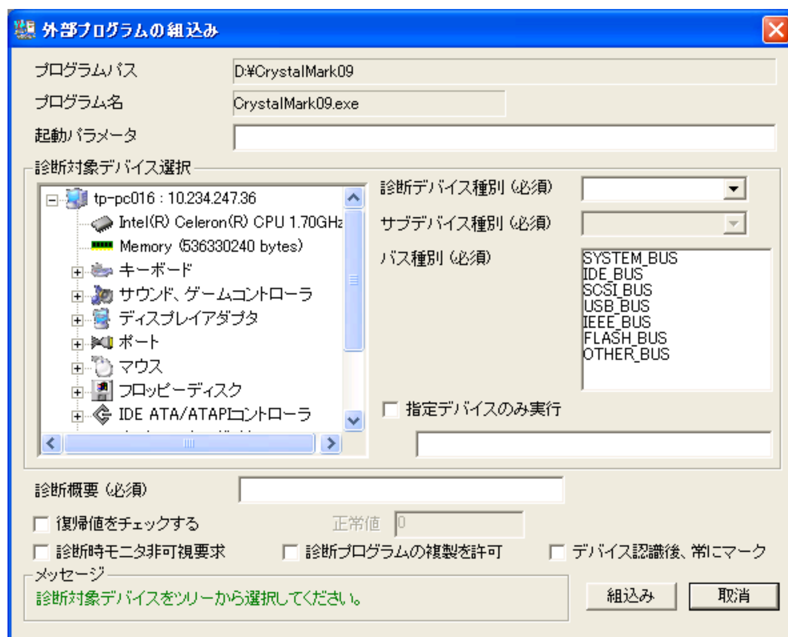
インフォメーション [シングル実行モード] [経過時間 00:00:00] [ループ回数 0/1]

(2) 外部プログラムの組込み

EmbedWare/Diag Professional で提供しているテストプログラム以外に、お客さまが作成したプログラムを組み込んで実行することができます。
「設定」→「外部プログラムの組込み」を選択すると、「組込みプログラム選択」ダイアログが表示されます。



EmbedWare/Diag Professional に組み込むプログラムを選択し［OK］ボタンをクリックすると、「外部プログラムの組み込み」画面が表示されますので、EmbedWare/Diag Professional 上で動作させるためのパラメータの設定を行います。
［キャンセル］ボタンをクリックするとメイン画面に戻ります。



[起動パラメータ]

外部プログラムに起動パラメータを指定できる場合は、設定したいパラメータを記述します。

[診断対象デバイス選択]

外部プログラムを組み込むデバイスを選択します。指定するデバイスは、対象となるデバイスの最下位レベルのデバイスを選択してください。
デバイスツリーから選択した場合は、診断デバイス種別、サブデバイス種別、バス種別は自動的に設定されます。
通常は、診断対象となるデバイスが認識されている状態で使用しますので、デバイ

スツリーからの選択で外部プログラムを登録することを推奨します。
（診断対象となるデバイスが接続されていない場合でも、後述する各種別を指定することで外部プログラムを登録することは可能ですが、調査向け機能として実装されているものであり、EmbedWare/Diag Professional が認識できないデバイスに関しては外部プログラムの起動を行うことはできません。あらかじめご了承ください。）

[診断デバイス種別]

外部プログラムがテスト対象とする診断デバイス種別を一覧から選択します。
デバイスツリーからデバイスを選択した場合は、自動的に診断デバイス種別が選択・設定されます。

[サブデバイス種別]

診断デバイス種別に、"DRIVELETTER" を選択した場合、サブデバイス種別を一覧から選択します。診断デバイス種別が "DRIVELETTER" 以外の場合は、サブデバイス種別は、診断デバイス種別と同じものを選択します。
デバイスツリーからデバイスを選択した場合は、自動的にサブデバイス種別が選択・設定されます。

[バス種別]

外部プログラムがテスト対象とするバス種別を一覧より選択します。一覧に該当しないデバイスについては、"SYSTEM BUS" を選択します。
デバイスツリーからデバイスを選択した場合は、自動的にバス種別が選択・設定されます。

[指定デバイスのみ実行]

チェックボックスにチェックすると、チェックボックス配下に表示されるデバイスの場合のみに外部プログラムを実行するようになります。チェックボックスにチェックしないと、診断デバイス種別、サブデバイス種別、バス種別に該当するテスト対象デバイスを検出した場合に外部プログラムを実行するようになります。

[診断概要]

テストプログラム選択ウィンドウの［診断概要］欄に表示する名称を指定します。

[復帰値をチェックする]

外部プログラムが復帰値を持ち、正常・異常を判断することが可能な場合は、チェックボックスにチェックし、正常値を設定します。

[診断時モニタ非可視要求]

外部プログラム起動時にモニタ画面の表示を抑止する場合はチェックボックスにチェックします。

[診断プログラムの複製を許可]

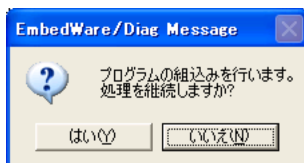
テストプログラム選択ウィンドウの右クリックでエントリーの複製追加を許可する場合は、チェックボックスにチェックします。

[デバイス認識後、常にマーク]

EmbedWare/Diag Professional を起動し装置の自動認識した後、または、「表示」→「デバイスの再認識」を選択した後に、テストプログラム選択ウィンドウに表示する外部プログラムを実行可能状態にするかしないかを設定します。チェックボックスにチェックすると、実行可能状態になります。

[組込み］ボタン

上記パラメータを設定後、［組込み］ボタンをクリックすると、以下が表示されます。



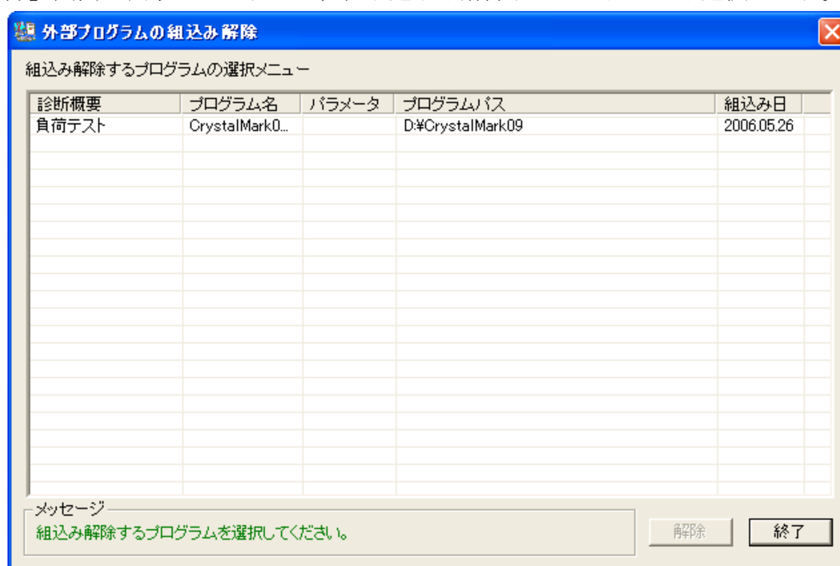
［はい］ボタンをクリックすると、外部プログラムが組み込まれます。［いいえ］ボタンを選択すると、外部プログラムの組み込みを中断し、メイン画面に戻ります。

［取消］ボタン

外部プログラムの組み込みを中断し、メイン画面に戻ります。

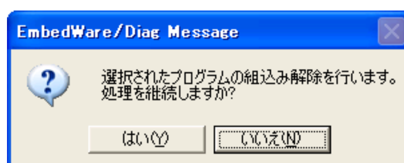
(3) 外部プログラムの組込み解除

「設定」→「外部プログラムの組込み」で組み込んだ外部プログラムを解除します。
「設定」→「外部プログラムの組込み解除」を選択すると、「外部プログラムの組込み解除」画面が表示されますので、組み込みを解除するプログラムを選択します。



［解除］ボタン

組み込み解除を行うプログラムを選択し、［解除］ボタンをクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



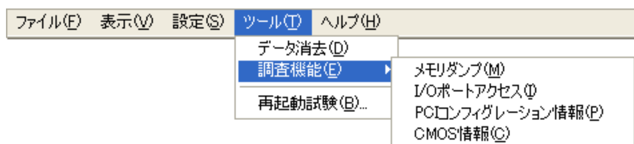
［はい］ボタンをクリックすると、選択したプログラムの組み込みを解除し、「外部プログラムの組込み解除」画面に戻ります。［いいえ］ボタンを選択すると、選択したプログラムの組み込みの解除は行わず、「外部プログラムの組込み解除」画面に戻ります。

［終了］ボタン

外部プログラムの組み込み解除を中断し、メイン画面に戻ります。

3.4.4 「ツール」メニュー

「ツール」メニューから以下の機能を指定できます。





「データ消去」について

- 本ツールは、現在 Windows システムとして使用されているボリューム以外のデバイスのデータ消去を行います。
- 選択したデバイスに対して、データ消去処理を実行してしまうと、データ内容を元に戻すことが出来ませんので、十分ご注意ください。
- 本機能を使用することによるデータ損失等については責任を負いかねます。

「調査機能」について

- 本機能は、技術者向け機能として提供されているものです。また本機能はユーザ資産保護の観点から読取専用となっています。書込機能を必要とする場合は別途担当営業員にお問い合わせください。
- 本機能を使用することによる動作不具合等については責任を負いかねます。

「再起動試験」について

- 本機能を使用する場合、BIOS パスワード設定や、Windows パスワード設定が行われている場合は、パスワード入力を解除する必要があります。

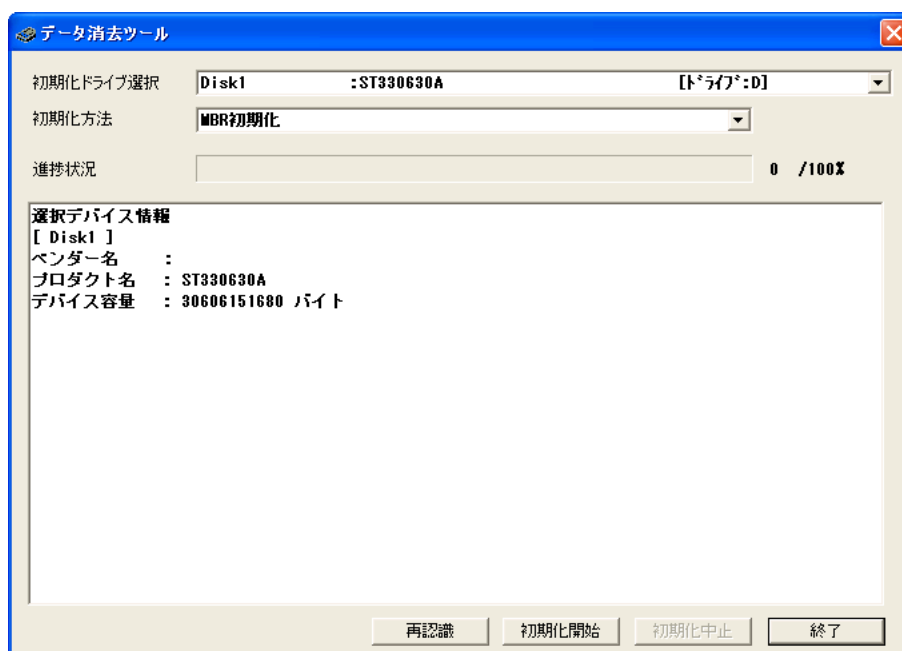
（1） データ消去

指定したデバイスのデータ消去を行います。



- 本ツールは、現在 Windows システムとして使用されているボリューム以外のデバイスのデータ消去を行います。
- 選択したデバイスに対して、データ消去処理を実行してしまうと、データ内容を元に戻すことが出来ませんので、十分ご注意ください。
- 本機能を使用することによるデータ損失等については責任を負いかねます。

「ツール」→「データ消去」を選択すると、「データ消去ツール」画面が表示されます。

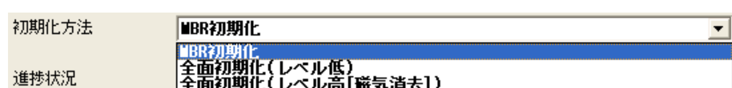


[初期化ドライブ選択]

初期化対象となるドライブを一覧から選択します。なお、Windows システムとして使用されているデバイスについては一覧には表示されません。（C ドライブに Windows システムがインストールされており、C ドライブより起動されている状態では、C ドライブは一覧には表示されません）

[初期化方法]

初期化方法を一覧から選択します。



初期化レベルは 3 つあります。

・MBR 初期化

ドライブ先頭の MBR（MasterBootRecord）をゼロクリアします。
消去時間は、数秒です。

・全面初期化（レベル低）

ドライブ全面に対してオールゼロ（0ｘ00）のデータを書込みます。
消去時間は、一般的な IDE ディスクで、約 1 分／ GB（40GB ディスクの場合は、約 40 分）かかります。

・全面初期化（レベル高［磁気消去］）

ドライブ全面に対してランダムデータを 2 回書込み、オールゼロ（0ｘ00）を書込みます。
消去時間は、一般的な IDE ディスクで、約 3 分／ GB（40GB ディスクの場合は、約 120 分）かかります。

［進捗状況］

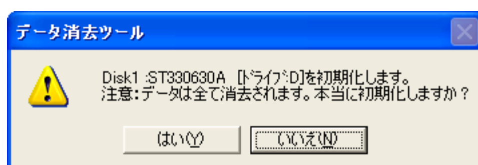
ディスク消去の進捗状況をプログレスバーで示します。

［再認識］ボタン

接続されているデバイスの再認識を行います。

［初期化開始］ボタン

選択したデバイスに対して初期化を行います。
［初期化開始］ボタンをクリックすると、以下のメッセージボックスが表示されます。



［はい］ボタンをクリックすると、初期化を開始します。［いいえ］ボタンをクリックすると、「データ消去ツール」画面に戻ります。

［初期化中止］ボタン

初期化処理を中止します。

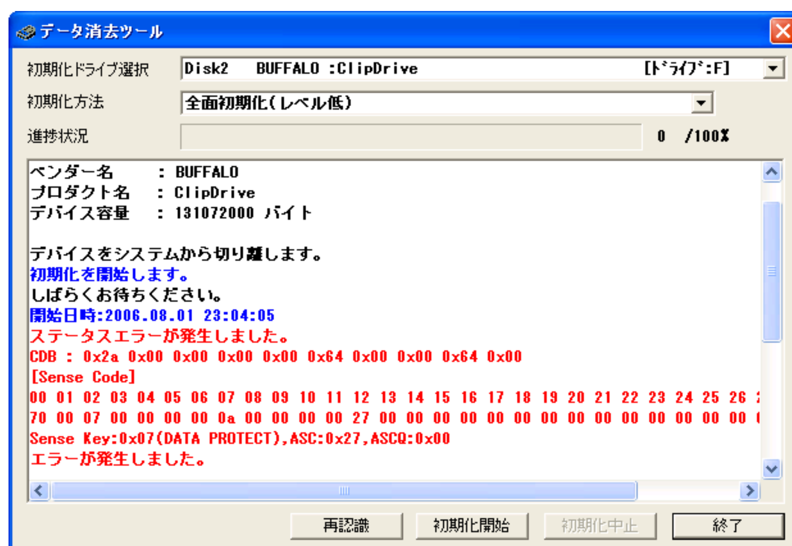


［初期化中止］ボタンをクリックして、データ消去処理を中止しても、消去したデータは元に戻りません。

［終了］ボタン

「データ消去ツール」画面を閉じます。

データ消去処理中に、以下に示すエラーメッセージが表示されることがあります。



この場合、Sense Key で始まる行に要因を表示しますので、以下の対処を行ってください。

・ Sense Key:0x03(MEDIUM ERROR)

書込み中、または読み込み中に媒体エラーを検出しました。
スキャンディスクでトラックの復旧にて回復する場合があります。

・ Sense Key:0x04(HARDWARE ERROR)

ドライブの異常が検出されました。ケーブルの接続状態などを確認し、再度初期化をおこなっても同一のエラーとなる場合は、ドライブの異常が考えられます。

・ Sense Key:0x07(DATA PROTECTION)

USB メモリなどで、ライトプロテクトスイッチにより書込み禁止になっている場合が考えられます。プロテクトスイッチの状態を確認してください。

(2) メモリダンプ

物理メモリの読み込み・表示を行います。
「ツール」→「調査機能」→「メモリダンプ」を選択すると、「メモリダンプ」画面が表示されます。



[アドレス]

対象アドレスを 16 進数で入力します。

[アクセスサイズ]

アクセスサイズを入力します。(1 ～ 192)

[アクセス単位]

BYTE、WORD、DWORD から選択します。

[前方読込み] ボタン

対象アドレスの前方を読込み表示します。

[読込み] ボタン

対象アドレスを読込み表示します。

[後方読込み] ボタン

対象アドレスの後方を読込み表示します。

[終了] ボタン

「メモリダンプ」画面を閉じます。

(3) I/O ポートアクセス

I/O ポートへのアクセスを行うことができます。
「ツール」→「調査機能」→「I/O ポートアクセス」を選択すると、「I/O ポートアクセス」画面が表示されます。
最大 5 つの I/O ポートへの連続アクセスが可能で、上方から順次待ち時間後に I/O ポートへのアクセスを行います。

I/Oポートアクセス

I/Oポートアクセス 1
ポート(16進) 0x　◉ 読込み ○ 書込み　◉ 論理和 ○ 論理積 ○ 値 0x
結果：　◉ バイト ○ ワード ○ ダブルワード　待ち時間(ミリ秒) 0

I/Oポートアクセス 2
ポート(16進) 0x　◉ 読込み ○ 書込み　◉ 論理和 ○ 論理積 ○ 値 0x
結果：　◉ バイト ○ ワード ○ ダブルワード　待ち時間(ミリ秒) 0

I/Oポートアクセス 3
ポート(16進) 0x　◉ 読込み ○ 書込み　◉ 論理和 ○ 論理積 ○ 値 0x
結果：　◉ バイト ○ ワード ○ ダブルワード　待ち時間(ミリ秒) 0

I/Oポートアクセス 4
ポート(16進) 0x　◉ 読込み ○ 書込み　◉ 論理和 ○ 論理積 ○ 値 0x
結果：　◉ バイト ○ ワード ○ ダブルワード　待ち時間(ミリ秒) 0

I/Oポートアクセス 5
ポート(16進) 0x　◉ 読込み ○ 書込み　◉ 論理和 ○ 論理積 ○ 値 0x
結果：　◉ バイト ○ ワード ○ ダブルワード　待ち時間(ミリ秒) 0

アクセス開始　終了



- I/O ポートアドレス指定を誤ると、システム動作が不定・不安定となる場合があります。I/O ポートアドレスや読込み／書込みの指定には、十分ご注意ください。
- 本機能を使用することによる動作不具合等については責任を負いかねます。

[ポート（16 進）]

対象ポートを 16 進数で入力します。

[結果]

アクセスした結果を 16 進数で表示します。

[読込み] ／ [書込み] ラジオボタン

[読込み]、[書込み] のいずれかを指定します。

[論理和] ／ [論理積] ／ [値] ラジオボタン

[書込み] を指定した場合のみ有効化されます。
[論理和]、[論理積]、[値] のいずれかを指定します。
[値] を選択した場合、[値] 右隣の入力域に、設定値を 16 進数で入力します。

[バイト] ／ [ワード] ／ [ダブルワード] ラジオボタン

[バイト]、[ワード]、[ダブルワード] のいずれかを指定します。

[待ち時間（ミリ秒）]

次の IO ポートアクセスの間に待ち時間を入れる場合、その時間をミリ秒単位で入力します。

[アクセス開始] ボタン

設定した内容で対象ポートにアクセスを開始します。

［終了］ボタン

「I/O ポートアクセス」画面を閉じます。

(4) PCI コンフィグレーション情報

PCI コンフィグレーション情報を表示します。

「ツール」→「調査機能」→「PCI コンフィグレーション情報」を選択すると、「PCI コンフィグレーション情報」画面が表示されます。

PCIコンフィグレーション情報

PCIデバイス　BUS#0,DEV#1,FUNC#0 : Intel Corporation 82845 845 (Brookdale) Chipset AGP Bridge

ベンダID [00-01H]	0x8086	デバイスID [02-03H]	0x1a31	デバイス制御 [04-05H]	0x0107	ステータス [06-07H]	0x00a0
リビジョンID [08H]	0x11	プログラムI/F [09H]	0x00	サブクラス [0AH]	0x04	基本クラス [0BH]	0x06
キャッシュライン [0CH]	0x00	レイテンシタイマ [0DH]	0x40	ヘッダタイプ [0EH]	0x01	セルフテスト [0FH]	0x00

ベースアドレス 1 [10-13H]	0x00000000	ベースアドレス 2 [14-17H]	0x00000000	ベースアドレス 3 [18-1BH]	0x20010100
ベースアドレス 4 [1C-1FH]	0x22a000f0	ベースアドレス 5 [20-23H]	0xe8f0e600	ベースアドレス 6 [24-27H]	0xe5f0e400

CardBus CISポインタ [28-2BH]　0x00000000

サブシステムベンダID [2C-2DH]　0x0000　サブシステムID [2E-2FH]　0x0000

拡張ROMベースアドレス [30-33H]　0x00000000

新機能ポインタ [34H]　0x00　予約 1 [35-37H]　0x000000　予約 2 [38-3BH]　0x00000000

インタラプトライン [3CH]　0x00　PCIインタラプトピン [3DH]　0x00　最小グラント [3EH]　0x0e　最大レイテンシ [3FH]　0x00

デバイス固有レジスタ領域 [40-FFH]

40-4FH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000	50-5FH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000
60-6FH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000	70-7FH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000
80-8FH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000	90-9FH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000
A0-AFH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000	B0-BFH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000
C0-CFH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000	D0-DFH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000
E0-EFH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000	F0-FFH	0x00000000	0x00000000	0x00000000	0x00000000

終了

［PCI デバイス］

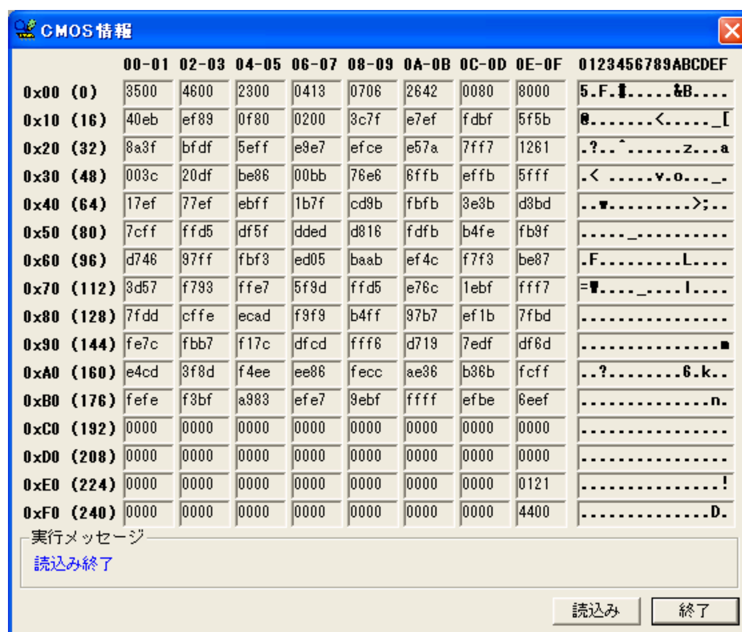
PCI デバイスとして認識、割付けが行われているものを一覧から選択できます。その下には、選択した PCI デバイスのベンダ ID、デバイス ID などの情報を表示します。

［終了］ボタン

「PCI コンフィグレーション情報」画面を閉じます。

(5) CMOS 情報

CMOS（Complementary Metal Oxide Semiconductor）情報を表示します。
「ツール」→「調査機能」→「CMOS 情報」を選択すると、「CMOS 情報」画面が表示されます。



［読込み］ボタン

CMOS データを読込み表示します。

［終了］ボタン

「CMOS 情報」画面を閉じます。

（6） 再起動試験

EmbedWare/Diag Professional で再起動試験を行うことができます。

	本機能を使用する際、BIOS パスワード設定や Windows パスワード設定が行なわれている場合は、パスワード入力を解除する必要があります、

「ツール」→「再起動試験」を選択すると、「再起動試験」画面が表示されます。

再起動試験
起動設定
再起動　電源切断　VPOSTを使用する
実施回数 1
Windows起動後の診断システム起動待ち時間(秒) 10
VPOST接続ポート
転送レート 9600
パリティ EVEN
電源切断時間(システムダウンを含む秒数) 180
電源投入時間(電源切断からの秒数) 120
デバイス認識確認・試験設定
デバイス認識確認する
試験する　試験時間(秒) 600
認識・試験設定ファイル　選択...
エラー発生時、再起動試験を継続する
メッセージ
保存...　開始　取消

［起動設定］グループでは、再起動試験を行うための詳細情報を設定します。
［デバイス認識確認・試験設定］グループでは、再起動試験で行う試験内容の詳細を設定します。

［再起動］／［電源切断］ラジオボタン

［再起動］、［電源切断］のいずれかを選択します。

	［電源切断］、［VPOST を使用する］の機能については担当営業員にお問い合わせください。

［実施回数］

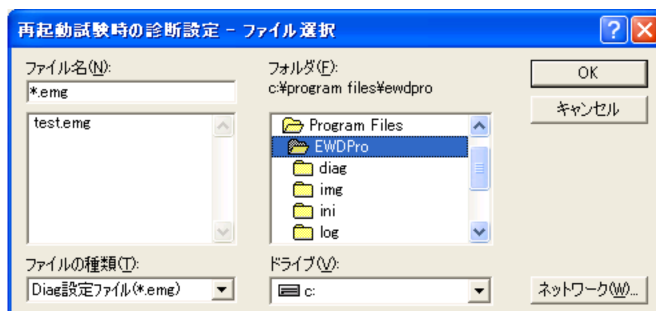
再起動試験を何回行うかを 10 進数で指定します。

［Windows 起動後の診断システム起動待ち時間（秒）］

再起動試験で Windows システムが起動されてから EmbedWare/Diag Professional を起動する待ち時間を秒単位で指定します。

［認識・試験設定ファイル］

試験を行う設定情報を指定します。設定情報は、「ファイル」→「設定情報の保存」で保存した設定情報を使用します。設定情報ファイルをフルパスで指定してください。または［選択］ボタンをクリックすると、「再起動試験時の診断設定－ファイル選択」ダイアログが表示されますので、設定情報を選択し［OK］ボタンをクリックすることで設定できます。

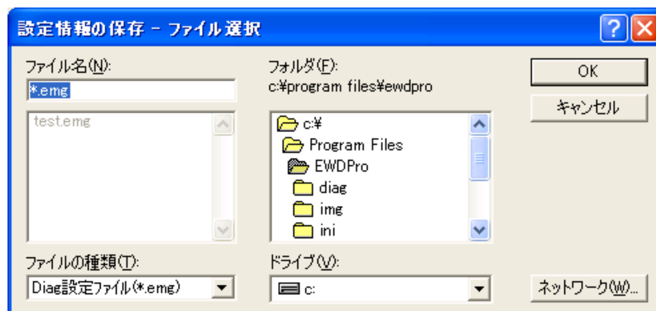


［エラー発生時、再起動試験を継続する］チェックボックス

再起動試験でエラーを検出した場合、試験を継続するかどうかを指定します。継続する場合はチェックします。

［保存］ボタン

［保存］ボタンをクリックすると、「設定情報の保存－ファイル選択」ダイアログが表示されますので、保存するフォルダ、ファイル名を指定してください。
また、この保存した設定情報を「ファイル」→「設定情報の復元」で選択することで、設定した情報にて再起動試験が実行されます。



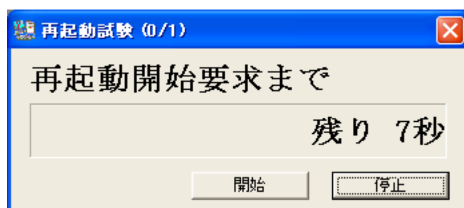
［OK］ボタンをクリックすると、設定情報が保存され、「再起動試験」画面に戻ります。［キャンセル］ボタンをクリックすると、設定情報の保存は行わず、「再起動試験」画面に戻ります。

［開始］ボタン

設定した情報で、再起動試験を開始します。
［開始］ボタンをクリックすると、再起動試験実施の確認メッセージが表示されます。



［いいえ］ボタンをクリックすると、再起動試験は行わず、「再起動試験」画面に戻ります。
［はい］ボタンをクリックすると、「再起動試験」画面が閉じ、以下のカウントダウンメッセージが表示されます。



［開始］ボタンをクリックするか、カウントダウンが終わると、再起動試験が開始されます。
カウントダウン中に［停止］ボタンをクリックすると、再起動試験を中断し、メイン画面に戻ります。

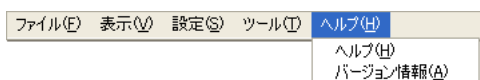
	カウントダウンメッセージは、再起動試験ごとに表示されますので、再起動試験を開始しても、途中で試験を停止することは可能です。

［取消］ボタン

「再起動試験」画面を閉じます。

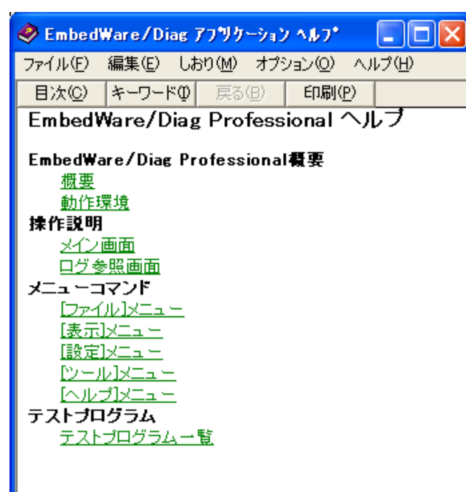
3.4.5 「ヘルプ」メニュー

ヘルプメニューから以下の機能を指定できます。



(1) ヘルプ

「ヘルプ」→「ヘルプ」を選択すると、EmbedWare/Diag Professional のヘルプを表示します。



(2) バージョン情報

「ヘルプ」→「バージョン情報」を選択すると、EmbedWare/Diag Professional のバージョンや版権などについての情報を表示します。



第 4 章　テストプログラム概要

この章では EmbedWare/Diag Professional で実行するテストプログラムの概要について説明します。

	下記、メモリ使用量（概算）は、使用するメモリが最大になるパラメータで測定したものですが、常時メモリが使用された状態になるわけではありません。 また、装置構成（メモリ容量、ディスク（スワップ）容量、Windows システム、ドライバの違いなど）で変わります。空きメモリ容量、空きディスク容量を確認した上で、下記メモリ使用量を参考にテストを実行してください。

項	ハード分類	診断モジュール概要 メモリ使用量（概算）	テスト概要
1	CPU	キャッシュテスト 約 10500 KB	CPU の 2 次キャッシュでキャッシュリプレースが発生するようにメモリに対してテストデータのライト／リードを行い、コヒーレンシ制御の正常性とキャッシュの有効性を確認します。
2		演算テスト 約 8300 KB	四則演算、浮動小数点演算（π 計算）を行うことで、CPU の演算機能・浮動小数点演算機能の正常性を確認します。
3	メモリ	メモリリードテスト 約 6000 KB	ダイレクトにマッピングしたメモリの全物理アドレスに対して、ブロック転送によるリードアクセスの正常性を確認します。 注意 4Gbyte 以上の領域は未サポートです。
4		メモリライトテスト 約 80000 KB	論理メモリの空きメモリ空間を複数のプロセス（スレッド）が獲得・アクセスすることで、論理・物理変換機能を含めたメモリアクセスの正常性を確認します。
5	CD ドライブ	CD サウンド再生テスト 約 6400 KB	CD ドライブで再生した音源をスピーカーから出力することで CD ドライブの音声再生機能の正常性を確認します。 当テストは、お客さまに再生された音源を試聴し、正常性を確認していただく必要があります。
6		CD-RW 書込みテスト 約 6300 KB	CD-R ／ CD-RW ドライブで CD-R ／ CD-RW 媒体に対してテスト用イメージデータのライト、リード、コンペアを行うことで、CD-R ／ CD-RW ドライブの正常性を確認します。

項	ハード分類	診断モジュール概要 メモリ使用量（概算）	テスト概要
7	DVD ドライブ	DVD 再生テスト 約 20000 KB	DVD ドライブでテスト用 DVD ディスクを再生し、ディスプレイに出力することで DVD ドライブの映像再生機能の正常性を確認します。当テストは、お客さまにディスプレイを目視し、正常性を確認していただく必要があります。
8	フロッピードライブ	フロッピーテスト 約 5200 KB	フロッピードライブに実装されたフロッピーディスクへの全面リードアクセスを行うことで、ドライブの正常性を確認します。
9	ディスクドライブ	ファイルシステムテスト 約 6500 KB	ディスク内のパーティションにデータがテストデータであるファイルを作成し、ファイルの内容をチェックすることで、ファイルシステム、ドライブの正常性を確認します。
10	IDE ディスク	IDE ドライブテスト 約 5300 KB	IDE 接続ディスクへの全面リードアクセスを行うことで、ドライブの正常性を確認します。
11	USB	USB ドライブテスト 約 5300 KB	USB メモリや USB 接続ディスクへの全面リードアクセスを行うことで、ドライブの正常性を確認します。
12	IEEE1394 ディスク	IEEE ドライブテスト 約 5400 KB	IEEE1394 接続ディスクへの全面リードアクセスを行うことで、ドライブの正常性を確認します。
13	SCSI ディスク	SCSI ドライブテスト 約 5300 KB	SCSI 接続ディスクへの全面リードアクセスを行うことで、ドライブの正常性を確認します。

項	ハード分類	診断モジュール概要	メモリ使用量（概算）	テスト概要
14	ディスプレイ	ビデオテスト	約 6500 KB	ディプレイにテストパターンを出力します。テストパターンとして、赤・緑・青・黒・灰色・白・中間灰色、クロスライン、長方形出力、H パターン、反転 H パターンを出力します。 当テストは、お客さまにディスプレイを目視し、正常性を確認していただく必要があります。確認内容は、色むら、輝点、欠点の有無の確認となります。
15		2D 出力テスト	約 6500 KB	Microsoft Class ライブラリの GDI オブジェクトを用いた描画を行い、ディスプレイが正常であることをテストします。パターンとして、文字表示、線と曲線の表示、正方形表示、正方形表示（縁あり）、円表示（縁あり）、多角形表示（縁あり）、スクロール、図形合成があります。 当テストは、お客さまにディスプレイを目視し、正常性を確認していただく必要があります。確認内容は、GDI オブジェクトの機能により各パターンが正常に描画されることの確認となります。
16		3D 出力テスト	約 13000 KB	DirectX を使用してテストデータをディスプレイに 3D 出力します。 当テストは、お客さまにディスプレイを目視し、正常性を確認していただく必要があります。確認内容は、DirectX の機能により画像が正常に描画されることの確認となります。
17	キーボード	－	－	－
18	マウス、タッチパネル	タッチテスト	約 22300 KB	画面に表示される格子内をマウスでクリックする、またはタッチパネルでさわり、その座標が規定の範囲に収まっているかを確認します。
19	LAN	FTP 転送テスト	約 57000 KB	TCP/IP の FTP プロトコルを使用して対向機（相手局）とファイルの送受信を行うことで、LAN 機能の正常性を確認します。
20		PING 送受信テスト	約 5600 KB	自局テスト対象の LAN ポートと対向機（相手局）の LAN ポート間で ping（ICMP プロトコル）を使用した 1 対 1 のテストを行うことで、ネットワーク経路の確認、および LAN 機能の正常性を確認します。

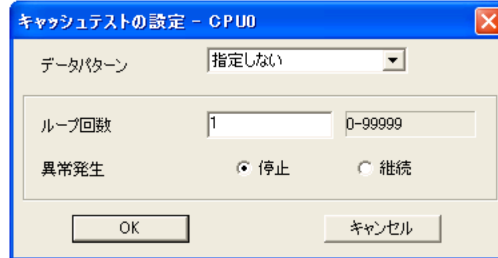
項	ハード分類	診断モジュール概要	テスト概要
		メモリ使用量（概算）	
21	パラレルポート	パラレルポートテスト	パラレルポートのコントロールレジスタおよびデータレジスタに対してテストデータのライト／リード／コンペアを行うことで、パラレルポートの正常性を確認します。
		約 5500 KB	
22	シリアルポート	シリアルポートテスト	シリアルポートにてテストデータの折り返し転送を行うことで、シリアルポートの正常性を確認します。
		約 5900 KB	
23	DIO	DIO テスト	DIO カードの接点ポートの動作確認を行います。指定の監視時間内に任意の入力接点ポートの状態の変化を確認することで、DIO カードの正常性を確認します。
		約 5900 KB	
24	サウンド	スピーカー出力テスト	テストデータ（WAV ファイル）を再生しスピーカーから出力してスピーカーが正常に動作することを確認します。 当テストは、お客さまに再生されたテストデータを試聴し、正常性を確認していただく必要があります。 確認内容は、左右のスピーカーからの音声出力が正しいこと、音割れが発生していないことの確認となります。
		約 6600 KB	
25		録音テスト	テストデータ（WAV ファイル）を再生し、出力ピン（Line-out）から出力された音声データを入力ピン（mic、Line-in）で録音し、録音データを確認します。 当テストは、出力ピンから出力されるテストデータをオーディオケーブルにてテスト対象入力ピンに折り返す必要があります。 確認内容は、入力ピンの入力の有無、録音された波形の崩れが許容値以内であることです。
		約 6600 KB	
26	ブザー	ブザー音確認テスト	マザーボードに搭載されているブザーが、正常に鳴動することを確認します。 当テストは、お客さまにブザーの鳴動を試聴し、正常性を確認していただく必要があります。 確認内容は、ブザーが " ドレミファソラシド " の音階で鳴動することの確認となります。
		約 5200 KB	

4.1　キャッシュテスト

(1)　テスト概要

CPU の 2 次キャッシュでキャッシュリプレースが発生するようにメモリに対してテストデータのライト／リードを行い、コヒーレンシ制御の正常性とキャッシュの有効性を確認します。

(2)　ダイアログ画面とパラメータ説明



[データパターン]

メモリへ書込むデータパターンを選択します。

・昇順	・クロストーク（8 ビット）
・降順	・クロストーク（16 ビット）
・すべて FF	・クロストーク（32 ビット）
・すべて 00	・クロストーク（64 ビット）
・すべて 55	・ビットシフト（8 ビット）
・すべて AA	・ビットシフト（16 ビット）
・すべて A5	・ビットシフト（32 ビット）
・すべて ’X’	・ビットシフト（64 ビット）

" 指定しない " を選択した場合は、上記パターンを 1 ループごとに順に変えながらテストを行います。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

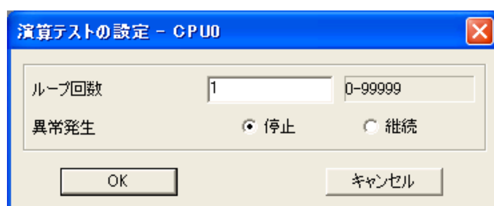
テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.2　演算テスト

(1) テスト概要

四則演算、浮動小数点演算（π 計算）を行うことで、CPU の演算機能・浮動小数点演算機能の正常性を確認します。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.3　メモリリードテスト

(1)　テスト概要

ダイレクトにマッピングしたメモリの全物理アドレスに対して、ブロック転送によるリードアクセスの正常性を確認します。

⚠ 注意	4Gbyte 以上の領域は未サポートです。

(2)　ダイアログ画面とパラメータ説明



[開始アドレス]

リードするメモリの開始アドレスをバイトで指定します。指定できるサイズの範囲は入力域右横に表示されていますので、その範囲で指定してください。

[終了アドレス]

リードするメモリの最終アドレスをバイトで指定します。指定できるサイズの範囲は入力域右横に表示されていますので、その範囲で指定してください。

[リード単位（バイト)]

一度にリードするバイト数を指定します。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.4　メモリライトテスト

(1)　テスト概要

Windows システムが管理している論理メモリの空きメモリ空間を複数のスレッド（プロセス）が獲得・アクセスすることで、論理・物理変換機能を含めたメモリアクセスの正常性を確認します。

(2)　ダイアログ画面とパラメータ説明



- **メモリ書込み試験の設定**

1 つのスレッド（プロセス）で論理メモリの取得、データのライト・リード・コンペアを行い、簡易的な動作確認を行います。

[書込みバッファサイズ]

一度に取得する書込みバッファのサイズを選択します。

・4KB	・128KB
・8KB	・256KB
・16KB	・512KB
・32KB	・1MB
・64KB	

[書込みバッファ数]

書込みバッファをどのくらい用意するかを選択します。

・8	・32
・16	・64

[データパターン]

メモリへ書込むデータパターンを選択します。

・昇順	・クロストーク（8 ビット）
・降順	・クロストーク（16 ビット）
・すべて FF	・クロストーク（32 ビット）
・すべて 00	・クロストーク（64 ビット）
・すべて 55	・ビットシフト（8 ビット）
・すべて AA	・ビットシフト（16 ビット）
・すべて A5	・ビットシフト（32 ビット）
・すべて ’X’	・ビットシフト（64 ビット）

" 指定しない " を選択した場合は、上記パターンを 1 ループごとに順に変えながらテストを行います。

- **複数スレッド同時書込み試験の設定**

複数のスレッド（プロセス）が同時に論理メモリを取得、ライト・リード・コンペアを行いメモリアクセスの頻度を高めることで、メモリを含むシステムの負荷をかけます。

[スレッド数]

メモリへ書込みを行うスレッドをいくつ作成するかを選択します。

・2　・32
・4　・64
・8　・128

[書込みバッファサイズ]

1 スレッドが確保するメモリへ書込むバッファサイズを選択します。

・512B　・32KB
・1KB　・64KB
・2KB　・128KB
・4KB　・256KB
・8KB　・512KB
・16KB　・1MB

[書込み回数]

各スレッドが書込みを行う回数を選択します。

・10　・200
・20　・300
・30　・400
・40　・500
・50　・750
・75　・1000
・100

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.5　CD サウンド再生テスト

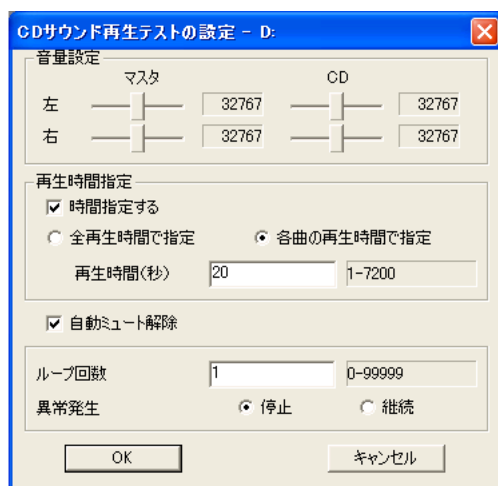
(1) テスト概要

CD ドライブで再生した音源をスピーカーから出力することで、CD ドライブの音声再生機能の正常性を確認します。
当テストはお客さまに再生された音源を試聴し、正常性を確認して頂く必要があります。
当テストでは、CD プレイヤーで再生できる音楽 CD をテスト媒体（以降 CD 媒体と記します）として使用します。あらかじめご準備ください。



- テストで使用した CD 媒体の取り忘れにご注意ください。
- CCCD（コピーコントロール CD）など、コピー対策が施されている CD 媒体は使用しないでください。正しく再生できずエラーとなる場合があります。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[音量設定]

出力ラインの音量を設定します。
音量は、マスタボリュームと、CD ボリュームの 2 種類があります。

- マスタボリューム　：WAVE、CD、MIDI など含め、すべての出力音量をコントロールするボリューム
- CD ボリューム　　：CD 出力音量をコントロールするボリューム

[再生時間指定]

サウンド CD 再生時間を指定する場合、チェックをつけてください。
チェックをつけない場合、CD 媒体に記録された全ての曲を再生します。
また、「全再生時間で指定」を選択した場合、CD 媒体の先頭曲から「再生時間」で指定した時間だけ再生します。「各曲の再生時間で指定」を選択した場合、曲ごとに「再生時間」で指定した時間分だけ再生します。

[自動ミュート解除]

CD 再生前にサウンドカードのマスタボリュームのミュートを解除する場合、チェックをつけてください。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

［異常発生］

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.6　CD-RW 書込みテスト

(1) テスト概要

CD-R ／ CD-RW ドライブで CD-R ／ CD-RW 媒体に対してテスト用イメージデータのライト、リード、コンペアを行うことで、CD-R ／ C-RW ドライブの正常性を確認します。
当テストは、以下に示す CD-R または CD-RW 媒体をテスト用媒体として使用します。あらかじめご準備ください。

・CD-R（650MB、700MB）の新品（未書込みのもの）

・CD-RW（650MB、700MB）



- 当テストは、単独で実行することを推奨します。他のテストと同時に実行した場合、システムの負荷により CD-R ／ CD-RW ドライブへのデータ送信遅延により書込みに失敗する場合があります。
- 書込み済みの CD-R 媒体でテストを行うことはできません。
- CD-R 媒体でテストを行った場合は、その媒体は、他の用途に使用することはできません。
- CD-RW 媒体で書込み済みの媒体を使用される場合は、当テストで初期化を行いますので、お客さまが書込まれたデータは消去されます。新品以外を使用される場合は、書込まれているデータの内容を十分ご確認ください。
- CD-RW 媒体は書込み回数に制限があります（媒体ごとに異なります）。当テストで書込みエラー等が発生する場合は、CD-RW 媒体の交換を行い、再度確認を行ってくださいますようお願い致します。
- 当テストのダイアログ画面の設定で、「試験終了後、イジェクトする」にマークしない場合、CD ドライブから CD-R ／ CD-RW 媒体はイジェクトされません。媒体の取り忘れにご注意ください。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[書込みイメージ]

CD-R ／ CD-RW 媒体へ書込む CDROM RAW イメージ、または ISO MODE1 のイメージファイルを指定します。「選択…」ボタンをクリックし、お客さまが準備されたイメージファイルを選択してください。直接イメージファイルパスを入力する

場合で、相対パスによる入力を行う場合は、"EmbedWare/Diag Professional のインストールフォルダ "¥EWDPro¥diag からの相対パスで指定してください。

注意	指定するイメージファイルは、トラック 1 が ISO MODE1 のデータ CDROM 形式である必要があります。オーディオ形式には対応していません。また、ハイブリッドおよびマルチトラック形式のイメージを指定した場合、トラック 1 のみのテストとなります。

EmbedWare/Diag Professional は、CD-RW 書込みテスト用のイメージを持っており、［書込みイメージ］にそのパスが表示されています。書込みイメージは、"EmbedWare/Diag Professional のインストールフォルダ ¥EWDPro¥testdata" に格納されています。

［書込み速度］

CD-R ／ CD-RW 媒体へ書込む速度を選択します。

・最高速	・16
・1	・24
・2	・32
・4	・40
・8	・48
・10	・52
・12	

" 最高速 " を選択した場合は、CD-R ／ CD-RW ドライブが持つ最大速度で書込みが行われます。

備考	CD-R ／ CD-RW ドライブが持つ速度以上の値を選択しても、CD-R ／ CD-RW ドライブ側が持つ最高速度に丸められます。

［Power Calibration］

書込み前にレーザーレベルのテストを行う場合、チェックをつけてください。

［BURN PROOF］

処理速度が間に合わず、書込みが失敗することを防ぐための BURN PROOF 機能を有効にする場合、チェックをつけてください。
なお、本パラメータは、デバイスにその機能が存在しない場合は無視されます。

［JUST LINK］

JUST LINK 機能を有効にする場合、チェックをつけてください。
なお、本パラメータは、デバイスにその機能が存在しない場合は無視されます。

［JUST SPEED］

JUST SPEED 機能を有効にする場合、チェックをつけてください。
なお、本パラメータは、デバイスにその機能が存在しない場合は無視されます。

［媒体初期化後、イジェクトする］

CD-RW 媒体の初期化後、一度媒体のイジェクト／ロードを行う場合、チェックをつけてください。初期化後、イジェクトせずに書込んだ場合、エラーとなるデバイスについては、本パラメータにチェックをつけてください。

注意	
	● 本パラメータにチェックすると、CD-RW 媒体を一旦イジェクトしますので、テスト中は、CD ドライブ前に物を置かないようにしてください。 ● スロットインタイプの CD-R ／ CD-RW ドライブの場合は、ロードすることができませんので、本パラメータはチェックしないでください。

[書込み後、イジェクトする]

CD-R ／ CD-RW 媒体にテストデータを書込んだ後、CD-R ／ CD-RW 媒体のイジェクト／ロードを行う場合、チェックをつけてください。書込み後イジェクトせずにコンペアを行いエラーとなるデバイスについては、本パラメータにチェックをつけてください。

注意	
	● 本パラメータにチェックすると、CD-R ／ CD-RW 媒体を一旦イジェクトしますので、テスト中は、CD ドライブ前に物を置かないようにしてください。 ● スロットインタイプの CD-R ／ CD-RW ドライブの場合は、ロードすることができませんので、本パラメータはチェックしないでください。

[試験終了後、イジェクトする]

CD-R ／ CD-RW 媒体をイジェクトしてテストを終了する場合、チェックをつけてください。

注意	
	● 本パラメータにチェックをつけないと、テスト完了後 CD-R ／ CD-RW 媒体がイジェクトされません。媒体の取り忘れにご注意ください。 ● スロットインタイプの CD-R ／ CD-RW ドライブの場合は、ロードすることができませんので、本パラメータはチェックしないでください。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.7　DVD 再生テスト

（1） テスト概要

DVD ドライブでテスト用 DVD 媒体を再生し、ディスプレイに出力することで DVD ドライブの映像再生機能の正常性を確認します。
当テストは、お客さまにディスプレイを目視し、正常性を確認して頂く必要があります。

当テストは、MPEG2/AC3 にて再生できる映像（音楽）を含む DVD 媒体をテスト用媒体として使用します。あらかじめご準備ください。
また、以下の Microsoft DirectShow をサポートするコーデックおよび Microsoft 社製 DirectX 9.0 以上がインストールされている必要があります。

・ MPEG2 コーデック

・ AC3 コーデック

上記コーデックは、本ソフトウェアには含まれていませんので別途インストールしてください。

	すでにインストールされた MPEG2/AC3 コーデックが、Microsoft DirectShow をサポートしていない場合、エラーが発生することがあります。この場合、Microsoft DirectShow をサポートするコーデックのメリット値を上げ、コーデック使用優先度を上げる必要があります。メリット値変更ツール（DirectShow Filter Tool 等）をお持ちでない場合、メリット値に関係なくコーデック優先される FFDShow をご利用いただくことで、解決することができます。 当社にて確認がとれている Microsoft DirectShow をサポートする有料コーデックは、Cyberlink 社製 PowerDVD にてインストールされるコーデックがあります。 また、Microsoft DirectShow をサポートする MPEG2/AC3 コーデックをすでにインストールしていて、DVD 再生にてアプリケーションエラーまたはエラーが発生する場合、ディスプレイカードドライバまたはその設定に問題がある可能性があります。この場合、画面プロパティより解像度の色数を下げる、または画面プロパティの設定タブの詳細設定から、トラブルシューティングタブを開き、ハードウェアアクセラレータを最大に変更してからご利用ください。

これらのコーデックをお持ちでない場合、または DirectX 9.0 以上がインストールされていない場合、下記よりフリーコーデックおよび DirectX 9.0 以上を入手することが可能です。

◆ Microsoft DirectShow をサポートする MPEG2/AC3 コーデック
　http://www.free-codecs.com/FFDShow_download.htm （http://tnetsixenon.xrea.jp/ ）

	インストール時、Video decoder ダイアログにて MPEG2 にマークしてください。次に Audio decoder ダイアログにて AC3 にマークします。インストール完了後、プログラムメニューの Video decoder configuration を選択し、MPEG2 を選択することで、最下行に表示される DVD decoding にマークします。

◆ Microsoft DirectShow をサポートする MPEG2 コーデック
　http://sourceforge.net/projects/gplmpgdec/

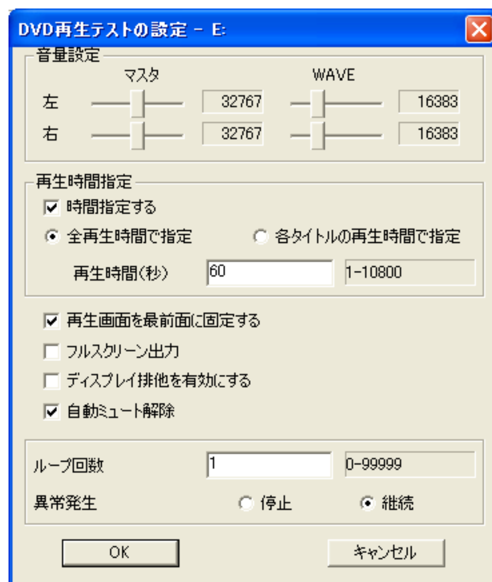
◆ Microsoft DirectShow をサポートする AC3 コーデック
　http://ac3filter.sourceforge.net/

◆ DirectX の入手については、Microsoft の以下のホームページをご覧ください。
　http://www.microsoft.com/japan/windows/directx/default.mspx



テストで使用した媒体の取り忘れにご注意ください。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[音量設定]

出力ラインの音量を設定します。
音量は、マスタボリュームと、WAVE ボリュームの 2 種類があります。

- マスタボリューム：WAVE、CD、MIDI など含め、すべての出力音量をコントロールするボリューム
- WAVE ボリューム：WAVE 出力音量をコントロールするボリューム

[再生時間指定]

DVD 再生時間を指定する場合、チェックをつけてください。
チェックをつけない場合、DVD 媒体に記録された全てのタイトルを再生します。
また、「全再生時間で指定」を選択した場合、DVD 媒体の先頭から「再生時間」で指定した時間だけ再生します。「各タイトルの再生時間で指定」を選択した場合、タイトル毎に「再生時間」指定した時間分だけ再生します。

[再生画面を最前面に固定する]

DVD 再生画面を常に最前面に表示する場合、チェックをつけてください。

[フルスクリーン出力]

DVD 再生画面をフルスクリーン表示する場合、チェックをつけてください。
チェックをつけなかった場合は、ウィンドウ画面で表示します。

[ディスプレイ排他を有効にする]

他のディスプレイを操作するテストプログラムと排他しながら動作する場合、チェックをつけてください。

備考	ディスプレイの排他処理を有効にすると、他のディスプレイ排他処理を持つテストプログラムと同時起動を行った場合、最初にディスプレイを取得したテストプログラムがディスプレイを開放するまでは、動作は行われません。これは、ディスプレイ系のテストプログラムが同時に動いてしまうことで描画確認に支障を来すことのないようにするためです。 フルスクリーンで確認を行う場合は排他処理を有効にしてご使用ください。ディスプレイの排他処理を持つテストプログラムは以下の 4 種です。 • DVD 再生テスト • ビデオテスト • 2D 出力テスト • 3D 出力テスト

[自動ミュート解除]

DVD 再生前にサウンドカードのマスタボリュームのミュートを解除する場合、チェックをつけてください。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

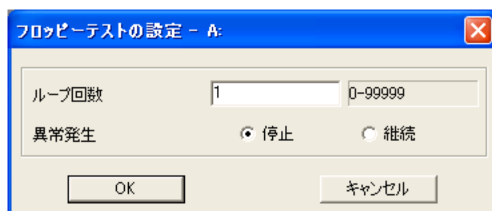
4.8　フロッピーテスト

(1) テスト概要

フロッピー装置に実装されたフロッピーディスクへの全面リードアクセスを行い、ドライブ及び媒体の正常性を確認します。
なお、使用するフロッピーディスクは、Windows でフォーマットしたものを使用してください。

	テストで使用した媒体の取り忘れにご注意ください。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.9　ファイルシステムテスト

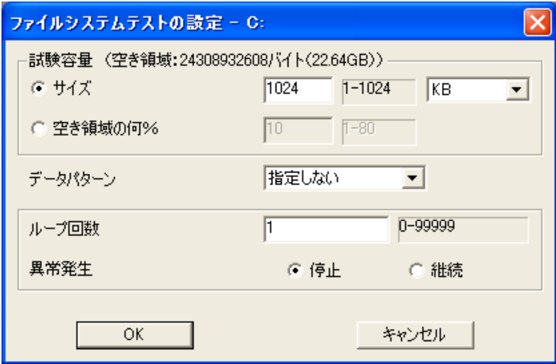
(1)　テスト概要

以下の 4 パターンのファイル操作テストを実行し、ファイルシステムを含むデバイスの正常性を確認します。

- ディスク内のパーティションにテスト用フォルダを作成（disk_testfolder で始まるトップフォルダ及びその配下に、folder1、folder2、directory_0001 ～ directory_0150）し、フォルダの作成とコピー、コピー先フォルダの削除を行う
- 作成したコピー元のフォルダにそれぞれファイルを作成し、ファイルのライト、リード、コンペアを行う
- コピー元フォルダの削除を行う
- パラメータで指定された試験容量とデータパターンのファイルを作成し、ライト、リード、コンペアを行う

注意	
注意	● 当テストを実行中に電源断やシステムリセット等が発生した場合、テスト対象のディスクドライブにテスト用フォルダが残る場合があります。その状態で再度テストを行ってもエラーとなりますので、事前にフォルダの削除（disk_testfolder で始まるフォルダ）を行ってください。 ● 当テストでは、テストで作成するデータファイルを含め、残り空き容量が 3MB ＋試験容量未満となる場合はエラーとなります。空き容量を確認の上テストを実施してください。

(2)　ダイアログ画面とパラメータ説明



[試験容量]

作成するファイルの大きさを、サイズで指定するか、ディスクドライブの空き容量の何%のサイズで指定するかを選択します。
グループタイトルには、テスト対象のディスクドライブの空き容量を表示します。
作成するファイルの大きさを数値と単位で指定する場合、「サイズ」にチェックをつけてください。
数値は、1 ～ 1024 の範囲で指定します。単位は、「KB」、「MB」、「GB」から選択します。
「空き領域の何%」にチェックをつけた場合、1 ～ 80 の範囲で数値を指定します。

注意	
注意	試験容量の割合を大きくすると、Windows システムやアプリケーション動作に影響を与える場合があります。

[データパターン]

診断に使用するテストデータのパターンを選択します。

・昇順	・クロストーク（8 ビット）
・降順	・クロストーク（16 ビット）
・すべて FF	・クロストーク（32 ビット）
・すべて 00	・クロストーク（64 ビット）
・すべて 55	・ビットシフト（8 ビット）
・すべて AA	・ビットシフト（16 ビット）
・すべて A5	・ビットシフト（32 ビット）
・すべて 'X'	・ビットシフト（64 ビット）

" 指定しない " を選択した場合は、上記パターンを 1 ループごとに順に変えながらテストを行います。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

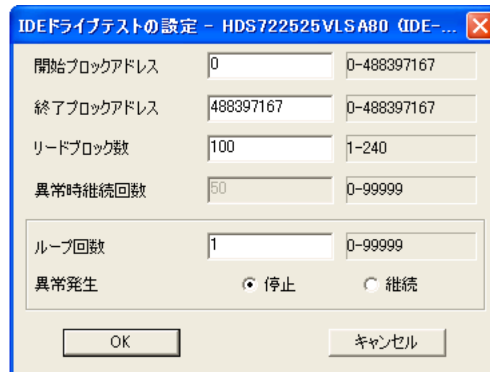
4.10 ドライブテスト

(1) テスト概要

IDE ／ SCSI ／ IEEE1394 ／ USB の各ポートに接続されるディスク装置・フラッシュメモリへの全面リードアクセスを行うことで、ドライブの正常性を確認します。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明

※ここでは、IDE ドライブテストの設定画面で説明します。SCSI ／ IEEE1394 ／ USB ドライブテストの画面も同様のパラメータを設定します。



[開始ブロックアドレス]

テスト開始ブロックアドレスを指定します。0 ～実装ブロック最終アドレスの範囲内で指定してください。(最大値はデバイス容量に依存します)

[終了ブロックアドレス]

テスト終了ブロックアドレスを指定します。0 ～実装ブロック最終アドレスの範囲内で指定してください。(最大値はデバイス容量に依存します)

[リードブロック数]

1 回にリードするブロックサイズを指定します。1 ～ 240 の範囲内で指定してください。(指定できる範囲はデバイスごとに異なります)

[異常時継続回数]

異常発生時の継続回数を指定します。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.11 ビデオテスト

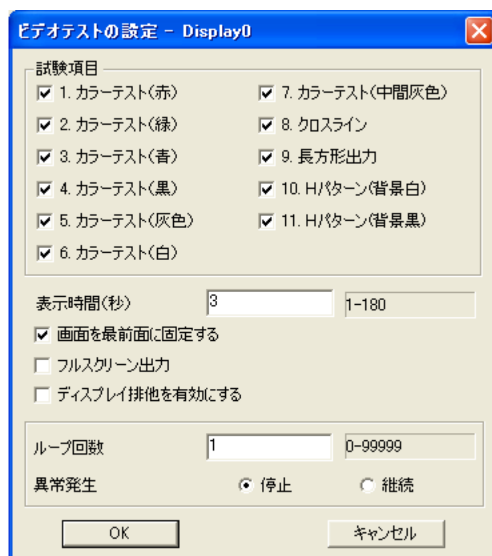
(1) テスト概要

ディスプレイにテストパターンとして、赤・緑・青・黒・灰色・白・中間灰色、クロスライン、長方形出力、H パターン、反転 H パターンを順に出力します。
当テストはお客さまがディスプレイを目視し、正常性を確認していただく必要があります。
確認内容は、色むら、輝点、欠点の有無の確認となります。



ビデオテストをフルスクリーンで実行中にテストを中断したい場合は、［ESC］キーを押下するか、マウスの右クリックで表示される［END］ボタンをクリックしてください。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[試験項目]

実施する試験パターンにチェックをつけてください。

- カラーテスト（赤）、（緑）、（青）、（黒）、（灰色）、（白）、（中間灰色）
  画面全体に選択した色を表示します。
- クロスライン
  左上から右下、左下から右上の直線を描画します。
- 長方形出力
  画面の一番外枠 4 辺に直線を描画します。
- H パターン（背景白）
  背景色を白で、"H" の文字を黒で画面全体に描画します。
- H パターン（背景黒）
  背景色を黒で、"H" の文字を白で画面全体に描画します。

[表示時間（秒）]

各テストパターンの切替え時間を秒単位で指定します。

[再生画面を最前面に固定する]

テスト画面を常に最前面に表示する場合、チェックをつけてください。

[フルスクリーン出力]

テスト画面をフルスクリーン表示する場合、チェックをつけてください。チェックをつけなかった場合は、テスト画面をウィンドウ画面で表示します。

[ディスプレイ排他を有効にする]

他のディスプレイを操作するテストプログラムと排他しながら動作させる場合、チェックをつけてください。


備考

ディスプレイの排他処理を有効にすると、他のディスプレイ排他処理を持つテストプロラムと同時起動を行った場合、最初にディスプレイを取得したテストプログラムがディスプレイを開放するまでは、動作は行われません。これは、ディスプレイ系のテストプログラムが同時に動いてしまうことで描画確認に支障を来すことのないようにするためです。
フルスクリーンで確認を行う場合は排他処理を有効にしてご使用ください。ディスプレイの排他処理を持つテストプログラムは以下の 4 種です。

- DVD 再生テスト
- ビデオテスト
- 2D 出力テスト
- 3D 出力テスト

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.12 2D 出力テスト

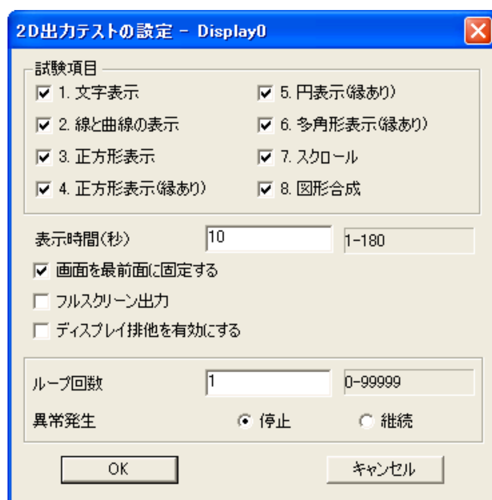
(1) テスト概要

Microsoft Class ライブラリの GDI オブジェクトを用いた描画テストを行います。描画パターンは複数あり、各パターン描画後は、描画性能値として表示時間内に実行した命令数をテスト画面に表示します。



2D 出力テストをフルスクリーンで実行中にテストを中断する場合は、ESC キーを押下してください。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[試験項目]

実施する試験パターンチェックをつけてください。

- 文字表示
  "EmbedWare/Diag" という文字列を表示します。
- 線と曲線の表示
  4 辺を直線、4 角を曲線で囲まれた図形を表示します。
- 正方形表示
  べた塗りの四角形を表示します。
- 正方形表示（縁あり）
  縁付きでべた塗りの四角形を表示します。
- 円表示（縁あり）
  縁付きでべた塗りの円を表示します。
- 多角形表示（縁あり）
  縁付きで三角形～二十角形までの図形を表示します。
- スクロール
  最下段から 1 ライン描画→スクロールを 50 回繰り返し、それを色を変えながら表示します。
- 図形合成
  星形図形とすでに描画されている色とを合成して描画を行います。

[表示時間（秒）]

試験項目でチェックをつけたパターンの描画時間を秒単位で指定します。

[画面を最前面に固定する]

テスト画面を常に最前面に表示する場合、チェックをつけてください。

[フルスクリーン出力]

テスト画面をフルスクリーン表示する場合、チェックをつけてください。チェックをつけなかった場合は、テスト画面をウィンドウ画面で表示します。

[ディスプレイ排他を有効にする]

他のディスプレイを操作するテストプログラムと排他しながら動作させる場合、チェックをつけてください。

	ディスプレイの排他処理を有効にすると、他のディスプレイ排他処理を持つテストプロラムと同時起動を行った場合、最初にディスプレイを取得したテストプログラムがディスプレイを開放するまでは、動作は行われません。これは、ディスプレイ系のテストプログラムが同時に動いてしまうことで描画確認に支障を来すことのないようにするためです。 フルスクリーンで確認を行う場合は排他処理を有効にしてご使用ください。ディスプレイの排他処理を持つテストプログラムは以下の 4 種です。 • DVD 再生テスト • ビデオテスト • 2D 出力テスト • 3D 出力テスト

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.13 3D 出力テスト

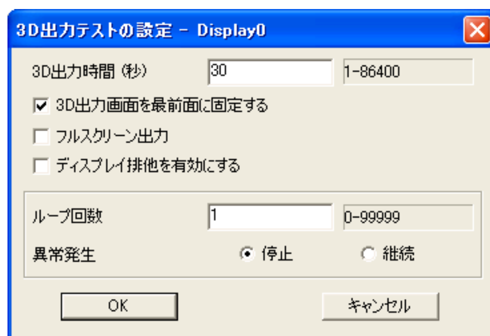
（1） テスト概要

DirectX を使用してテストデータをディスプレイに 3D 出力します。
当テストはお客さまがディスプレイを目視し、正常性を確認していただく必要があります。
確認内容は、DirectX 機能より表示される画像の乱れがないことです。
また、当テストを実行するためには、あらかじめ Microsoft 社製 DirectX 9.0 以上がインストールされている必要があります。
DirectX の入手については、Microsoft の以下のホームページをご覧ください。
http://www.microsoft.com/japan/windows/directx/default.mspx



3D 出力テストをフルスクリーンで実行中にテストを中断したい場合は、［ESC］キーを押下してください。

（2） ダイアログ画面とパラメータ説明



［3D 出力時間（秒）］

3D 出力時間を秒単位で指定します。1 ～ 86400（10 進数）の範囲内で指定します。

［3D 出力画面を最前面に固定する］

テスト画面を常に最前面に表示する場合、チェックをつけてください。

［フルスクリーン出力］

テスト画面をフルスクリーン表示する場合、チェックをつけてください。チェックをつけなかった場合は、テスト画面をウィンドウ画面で表示します。

［ディスプレイ排他を有効にする］

他のディスプレイを操作するテストプログラムと排他しながら動作させる場合、チェックをつけてください。

備考	ディスプレイの排他処理を有効にすると、他のディスプレイ排他処理を持つテストプログラムと同時起動を行った場合、最初にディスプレイを取得したテストプログラムがディスプレイを開放するまでは、動作は行われません。これは、ディスプレイ系のテストプログラムが同時に動いてしまうことで描画確認に支障を来すことのないようにするためです。 フルスクリーンで確認を行う場合は排他処理を有効にしてご使用ください。ディスプレイの排他処理を持つテストプログラムは以下の 4 種です。 • DVD 再生テスト • ビデオテスト • 2D 出力テスト • 3D 出力テスト

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.14 タッチテスト

(1) テスト概要

画面上の任意の場所に表示される格子をマウスまたはタッチパネルで選択することで選択した座標が規定範囲内に含まれるかどうかを確認します。
マウスの場合は、左クリック、中央クリック、右クリックそれぞれの確認が行えます。
タッチパネルの場合はタッチでの確認となります。
実行すると画面上にメッセージが表示され、指定のサイズで反転した格子が表示されますので、メッセージで表示されているマウスのボタンでクリックしてください。（タッチパネルの場合は、反転している格子をタッチしてください）

	タッチテスト実行中にテストを中断したい場合は、［ESC］キーを押下してください。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



［試験項目］

マウステスト … 使用するマウスのボタンに従って実行するテストにチェックをつけてください。

- 左クリックテスト
  " 反転しているビットマップを左クリックしてください。" と画面上に表示されます。
- 中央クリックテスト
  " 反転しているビットマップを中央クリックしてください。" と画面上に表示されます。
- 右クリックテスト
  " 反転しているビットマップを右クリックしてください。" と画面上に表示されます。

タッチパネルテスト … マウスのボタンにチェックをつける必要はありません。
チェックがついている場合は無視されます。

[試験モード]

テストの形式を選択します。

- 4 点テスト

  画面四隅の格子が反転しますので、反転した順にマウスでクリック（またはタッチパネルからタッチ）します。

- 9 点テスト

  画面上中下の両端および中間位置の格子が 9 点反転しますので、反転した順にマウスでクリック（またはタッチパネルからタッチ）します。

- 16 点テスト

  画面縦横を均等に 4 等分する位置の格子が 16 点反転しますので、反転した順にマウスでクリック（またはタッチパネルからタッチ）します。

[格子サイズ（ピクセル）]

画面に表示する格子のサイズ（ピクセル単位）を選択します。

- 8 × 8
- 16 × 16
- 32 × 32
- 64 × 64

[タイムアウト時間（秒）]

規定の時間以内にクリックされなかった場合にタイムアウトエラーと判断する時間を秒単位で指定します。

[エラーログ表示時間（秒）]

クリックした座標が規定範囲に入っていない場合、エラーメッセージを画面最下段に表示しますが、その表示時間を秒単位で指定します。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.15 FTP 転送テスト

(1) テスト概要

TCP/IP の FTP プロトコルを使用して対向機（相手局）とファイルの送受信を行い、ネットワーク経路の確認、LAN 機能の正常性を確認します。



- 当テスト実行中、LAN の接続が不安定になった場合、対向機の FTP のホームディレクトリに送信したファイルが残る場合があります。この場合、対向機にログインし、ファイル名が lantest_xxx（xxx：16 進数）であるファイルを削除してください。
- 当テスト実行にあたり、EmbedWare/Diag Professional をインストールした論理ボリュームに指定したファイルサイズの 2 倍の空き容量が必要となります。必要な空き容量が確保できない場合、エラーとなりますのでご注意ください。なお、デフォルトでテストを実施した場合、最低 2MB の空き容量が必要となります。
- 当テストを実行する場合は、対向機で FTP サービスが起動されている必要があります。
- 当テストでは、ダイアログ画面の設定で以下のアドレスを指定できません。
  Multicast アドレス、ループバックアドレス（127.0.0.0 ～ 127.255.255.255）、
  その他（255.255.255.255、0.0.0.0）
- 自局と相手局が同一装置の場合はテストが正しく行われていないにも関わらず正常終了することがありますので、ダイアログ画面の設定では、自局とは異なる装置の IP アドレスまたはホスト名を設定して下さい。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明

FTP転送テストの設定 - 192.168.1.10
接続ホスト
IPアドレス　192　168　1　1
ホスト名　hostname
ログイン名　anonymous
パスワード
試験モード選択
ファイル転送モード
ファイル名　..¥testdata¥lantest.dat　選択...
ランダムデータ転送モード
最大サイズ(バイト)　1048576　1-33554432
ループ回数　1　0-99999
異常発生　停止　継続
OK　キャンセル

[接続ホスト]

対向機を IP アドレスまたはホスト名で指定します。
対向機を IP アドレスで指定する場合は、IP アドレスを選択し、IP アドレスを 10 進数で指定します。
対向機をホスト名で指定する場合は、ホスト名を選択し、ホスト名を指定します。

［ログイン名］

FTP でファイルの送受信を行う際に対向機と認証処理を行うためのログイン名を指定します。

［パスワード］

FTP でファイルの送受信を行う際に対向機と認証処理を行うためのパスワードを指定します。

［試験モード選択］

FTP で転送を行うモードを選択します。

- 「ファイル転送モード」を選択した場合

  送受信を行うファイルを指定します。
  相対パスでファイルを指定する場合は、"EmbedWare/Diag Professional インストールパス "¥EWDPro¥diag からの相対パスとして指定してください。
  例）
  C:¥Program Files 配下に EmbedWare/Diag Professional がインストールされており、C:¥tmp¥test.dat を指定する場合は、"..¥..¥..¥..¥tmp¥test.dat" となります。

  EmbedWare/Diag Professional は、FTP 転送テスト用テストファイルを持っており、［ファイル名］にそのパスが表示されています。テストファイルは、"EmbedWare/Diag Professional のインストールフォルダ ¥EWDPro¥testdata" に格納されています。

- 「ランダムデータ転送モード」を選択した場合

  ［最大サイズ（バイト）］に送受信を行うファイルの最大サイズを指定します。
  テストは 1 ループ毎に指定したサイズの範囲内でランダムにファイルサイズを決定し、ランダムデータを格納したファイルを送受信します。
  ファイル名は、"lantest_rand.pid"（pid はプロセス ID）で "EmbedWare/Diag Professional のインストールフォルダ ¥EWDPro¥tmp" に生成します。

［ループ回数］

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

［異常発生］

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.16 PING 送受信テスト

(1) テスト概要

自局テスト対象の LAN ポートと対向機（相手局）の LAN ポート間で ping（ICMP プロトコル）を使用した 1 対 1 のテストを行い、ネットワーク経路の確認、LAN 機能の正常性を確認します。



- 当テストでは、ダイアログ画面の設定で以下のアドレスを指定できません。
  Multicast アドレス、ループバックアドレス（127.0.0.0 ～ 127.255.255.255）、
  その他（255.255.255.255、0.0.0.0）
- 自局と相手局が同一装置の場合はテストが正しく行われていないにも関わらず正常終了することがありますので、ダイアログ画面の設定では、自局とは異なる装置の IP アドレスまたはホスト名を設定して下さい。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明

PING 送受信テストの設定 - 10.234.247.37

接続ホスト		
◉ IPアドレス	192 168 1 1	
○ ホスト名	hostname	
データパターン	指定しない	
☑ データサイズ(バイト)	1472	18-1472
送信タイムアウト(秒)	5	5-60
受信タイムアウト(秒)	5	5-60
TTL	128	1-255
ループ回数	1	0-99999
異常発生	◉ 停止	○ 継続
OK		キャンセル

[接続ホスト]

対向機を IP アドレスまたはホスト名で指定します。
対向機を IP アドレスで指定する場合は、IP アドレスを選択し、IP アドレスを 10 進数で指定します。
対向機をホスト名で指定する場合は、ホスト名を選択し、ホスト名を指定します。

[データパターン]

テストで使用するデータパターンを選択します。

・昇順	・クロストーク（8 ビット）
・降順	・クロストーク（16 ビット）
・すべて FF	・クロストーク（32 ビット）
・すべて 00	・クロストーク（64 ビット）
・すべて 55	・ビットシフト（8 ビット）
・すべて AA	・ビットシフト（16 ビット）
・すべて A5	・ビットシフト（32 ビット）
・すべて ’X’	・ビットシフト（64 ビット）

" 指定しない " を選択した場合は、上記パターンを 1 ループごとに順に変えながらテストを行います。

［データサイズ（バイト）］

データサイズを固定にする場合にチェックをつけてください。当パラメータにチェックをつけた場合は、指定したデータサイズでのテストを 10 回行います。当パラメータにチェックをつけない場合は、データサイズを 18 バイトから 1472 バイトまでインクリメントしながらテストを行います。

	特定のホストに大量の ping による IP パケット送受信を行いますのでネットワーク経路で ping による IP パケットの送受信が遮断されるような対策が取られている場合は、緩和や解除を行う必要があります。

［送信タイムアウト（秒）］

送信時のタイムアウト時間を秒単位で指定します。

［受信タイムアウト（秒）］

受信時のタイムアウト時間を秒単位で指定します。

［TTL］

パケットの有効期間を 1 ～ 255（10 進数）の範囲で指定します。

［ループ回数］

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

［異常発生］

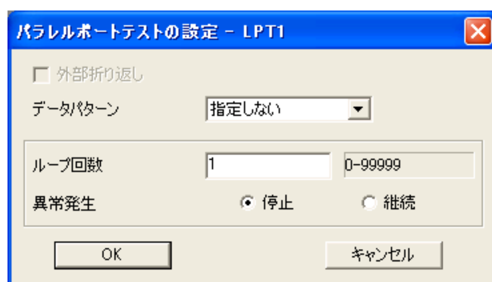
テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.17 パラレルポートテスト

(1) テスト概要

パラレルポートのコントロールレジスタおよびデータレジスタに対してテストデータのライト／リード／コンペアを行うことで、パラレルポートの正常性を確認します。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[外部折り返し]

外部折り返しによるテストを行う場合にチェックをつけてください。
チェックをつけない場合は、内部診断可能なレベルで、コントロールレジスタ、データレジスタの確認を行います。
本機能に関する詳細については、担当営業員にお問い合わせください。

[データパターン]

テストで使用するデータパターンを選択します。

- 昇順　・すべて AA
- 降順　・すべて A5
- すべて FF　・すべて 'X'
- すべて 00　・クロストーク（8 ビット）
- すべて 55　・ビットシフト（8 ビット）

" 指定しない " を選択した場合は、上記パターンを 1 ループごとに順に変えながらテストを行います。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.18 シリアルポートテスト

(1) テスト概要

シリアルポートに対してテストデータの折り返し転送を行うことで、シリアルポートの正常性を確認します。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[シリアルポート]

試験対象のシリアルポートを表示します。

[外部折り返し]

外部折り返しによるテストを行う場合にチェックをつけてください。
チェックをつけない場合は、内部ループバック診断を実施します。このとき、ボーレートとフロー制御は指定できません。
本機能に関する詳細については、担当営業員にお問い合わせください。

[ボーレート]

通信レートを選択します。

・300	・38400
・600	・56000
・1200	・57600
・2400	・115200
・4800	・153600
・9600	・230400
・14400	・460800
・19200	・921600

［ストップビット］

ストップビットを選択します。
・1 ビット
・1.5 ビット
・2 ビット



- "1.5 ビット " を選択した場合、［データ長］に 5 ビット以外を選択すると、［OK］ボタンクリック時にエラーになります。
- "2 ビット " を選択した場合、［データ長］に 5 ビットを選択すると、［OK］ボタンクリック時にエラーになります。

［データ長］

1 バイトのビット数を選択します。
・5 ビット　・7 ビット
・6 ビット　・8 ビット

［パリティビット］

パリティ方式を選択します。
・off
・奇数
・偶数

［フロー制御］

ハードウェアフロー制御を選択します。
・フロー有効　・DTR 有効
・RTS 有効　・フロー無効
" フロー有効 " を選択した場合、RTS と DTR をループごとに切り替えます。

［RI（被呼表示）の検出］

RI 検出を実施する場合にチェックをつけてください。

［データパターン］

テストで使用するデータパターンを選択します。
・昇順　・すべて AA
・降順　・すべて A5
・すべて FF　・すべて ’X’
・すべて 00　・クロストーク（8 ビット）
・すべて 55　・ビットシフト（8 ビット）
" 指定しない " を選択した場合は、上記パターンを 1 ループごとに順に変えながらテストを行います。

［ループ回数］

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

［異常発生］

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.19 DIO テスト

(1) テスト概要

DIO カードの接点ポートの動作確認を行います。
指定の監視時間内に任意の入力接点ポートの状態の変化を確認することで、DIO カードの正常性を確認します。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明

DIOテストの設定 － DIO

接点数	16	
ボードID	期待値(16進)	マスク(16進)
☑ ID0	00000000	0000ffff
☐ ID1	00000000	0000ffff
☐ ID2	00000000	0000ffff
☐ ID3	00000000	0000ffff
☐ ID4	00000000	0000ffff
☐ ID5	00000000	0000ffff
☐ ID6	00000000	0000ffff
☐ ID7	00000000	0000ffff
監視方法	◉ 期待値と同じ	○ 期待値に変化
監視時間(分)	1	1-1440
監視間隔(ミリ秒)	100	10-10000
ループ回数	1	0-99999
異常発生	◉ 停止	○ 継続

OK　　キャンセル

[接点数]

DIO ボード 1 枚の最大接点数を表示します。

- 16 （AR2000-FO）
- 32 （PCI-DIO）

[ボード ID]

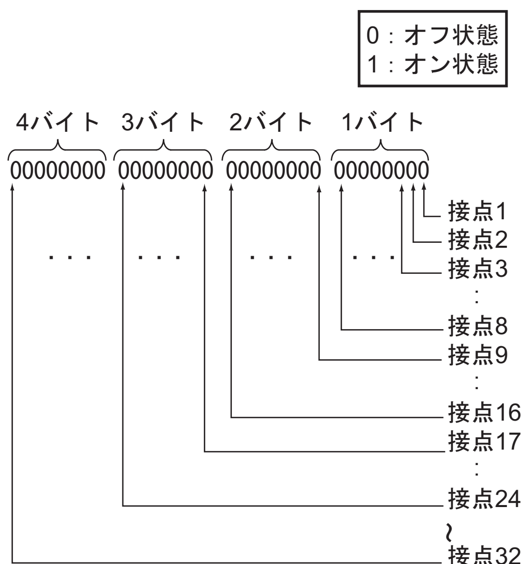
テストする DIO ボードの ID にチェックをつけてください。
本体装置に接続されていないボードの ID にはチェックをつけられません。
前回チェックをつけたボード ID が、接続されていない場合、ID は赤色で表示されますのでチェックをはずしてください。チェックをはずした後、その ID にはチェックがつけられなくなります。
未接続のボード ID にチェックをつけた状態で、設定することはできません。

[期待値（16 進）]

テストする入力接点の状態を 16 進数 8 桁で指定します。
入力も可能です。
［接点数］で表示されている接点数の範囲内で指定してください。

- 00000000
- 0000ffff
- ffffffff

接点の指定位置を 2 進数で説明すると以下のとおりとなります。



例）

接点 1 がオン状態であることを確認する場合	：	00000001
接点 3 と接点 16 がオン状態であることを確認する場合	：	00008004
接点 1 ～ 8 がオン状態であることを確認する場合	：	000000ff

この値は、［ボード ID］でチェックがついている場合に有効です。
［マスク（16 進）］でテストする接点として指定してある接点のみテストします。

［マスク（16 進）］

テストする入力接点を 16 進数 8 桁で指定します。
入力も可能です。
［接点数］で表示されている接点数の範囲内で指定してください。

- 00000000
- 0000ffff
- ffffffff

接点の指定位置は、［期待値（16 進）］と同じです。



"00000000" を指定することはできません。かならず確認する接点を含んだ値を指定してください。
（"00000000" を指定できるようになっていますが、入力長の把握や利便性によるものです）

例）
接点 1 ～ 8 がオン状態、接点 9 ～ 16 がオフ状態、接点 17 ～ 48 を確認しない場合
期待値：　000000ff
マスク：　0000ffff

この値は、［ボード ID］でチェックがついている場合に有効です。

［監視方法］

入力接点の状態を確認する方法を選択します。

- 期待値と同じ
- 期待値に変化

期待値と同じ：監視時間の間、［期待値（16 進）］で指定した入力接点の状態と同じであることを確認します。
監視時間内に、期待値と違う状態となった場合エラーとなります。

期待値に変化：監視時間の間に、［期待値（16 進）］で指定した入力接点の状態に変化することを確認します。
監視時間内に、期待値とならなかった場合エラーとなります。

[監視時間（分）]

DIO 入力接点の状態を監視する時間（分単位）を指定します。
1 ～ 1440（10 進数）の範囲内で指定してください。

[監視間隔（ミリ秒）]

DIO 入力接点の状態を確認してから、次の確認をするまでの空き時間（ミリ秒単位）を指定します。
10 ～ 10000（10 進数）の範囲内で指定してください。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.20 スピーカー出力テスト

(1) テスト概要

テストデータ（WAV ファイル）を再生しスピーカーへ出力します。
当テストはお客さまが再生されたテストデータを試聴し、正常性を確認していただく必要があります。
確認内容は、左右のスピーカーからの音声出力が正しいこと、音割れが発生していないことの確認となります。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[再生ミキサー]

テスト用 WAVE データを再生するミキサーを選択します。複数のミキサーが登録されている場合は一覧より選択してください。

- 音量設定
  出力ラインの音量を設定します。
  音量は、マスタボリュームと、WAVE ボリュームの 2 種類があります。
- マスタボリューム　：WAVE、CD、MIDI など含め、すべての出力音量をコントロールするボリューム
- WAVE ボリューム：WAVE 出力音量をコントロールするボリューム

[試験項目]

- 左右同時出力
  左右のスピーカーへ同時に出力します。
- 左出力
  左スピーカーへ出力します（音声による確認）。
- 右出力
  右スピーカーへ出力します（音声による確認）。

[自動ミュート解除]

WAV ファイル再生前にサウンドカードのマスタボリュームのミュートを解除する場合、チェックをつけてください。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

［異常発生］

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

4.21 録音テスト

(1) テスト概要

テストデータ（WAV ファイル）を再生し、出力ピン（Line-out）から出力された音声データを入力ピン（mic、Line-in）で録音し、録音データを確認します。
なお、当テストでは、出力ピンから出力されるテストデータをオーディオケーブルにてテスト対象入力ピンに折り返す必要があります。
確認内容は、入力ピンの入力の有無、録音された波形の崩れが許容範囲以内であることを確認します。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[試験項目]

実施したい試験項目にチェックをつけてください。

- 無音

  無音 WAVE データを出力し、録音ミキサーで指定したラインで無音であることを確認します。

- ノコギリ波、正弦波、パルス波、パルス波 2

  各種波形を出力し、録音ミキサーで指定したラインで入力した結果（波形崩れ）が許容範囲内であることを確認します。

[出力チャンネル]

試験でテスト波形を出力するチャンネルにチェックをつけてください。
なお、本パラメータは、無音試験実行時は無視されます。

[ビットレート]

試験で使用する WAVE データの bit 幅にチェックをつけてください。

[再生ミキサー]

テスト用 WAVE データを再生するミキサーを選択します。複数のミキサーが登録されている場合は一覧より選択してください。

- 音量設定

  出力ラインの音量を設定します。
  音量は、マスタボリュームと、WAVE ボリュームの 2 種類があります。
  ・マスタボリューム：WAVE、CD、MIDI など含め、すべての出力音量をコントロールするボリューム
  ・WAVE ボリューム：WAVE 出力音量をコントロールするボリューム

[録音ミキサー]

テスト用 WAVE データを録音するミキサーを選択します。複数のミキサーが登録されている場合は一覧より選択してください。

- 録音デバイス

  録音するラインを選択します。

- モノラル

  録音するラインがステレオ機能を搭載しているが、モノラルの動作をする場合、チェックをつけてください。

- 音量設定

  録音デバイスの録音レベルを設定します。

[波形許容率（%）]

録音ミキサーで入力した各テストの波形の崩れの許容範囲を指定します。

[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

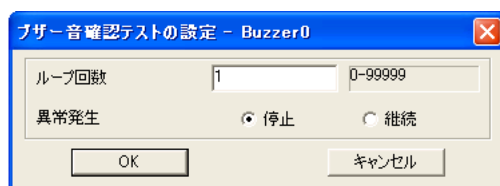
4.22 ブザー音確認テスト

(1) テスト概要

マザーボードに搭載されているブザーが、正常に鳴動することを確認します。ブザー音は、「ドー（低)、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、ドー（高)、シ、ラ、ソ、ファ、ミ、レ、ドー（低)」と鳴動します。
なお、当テストはお客さまがブザーの鳴動を試聴し、正常性を確認していただく必要があります。
確認内容は、ブザーが上記音階で鳴動していることです。

 注意	• コンピュータによってはブザーが実装されていないものがありますが、ブザー機能はハードウェアで実装されている機能のため、テストは正しく実行されます。ただし、その場合鳴動確認は行うことができません。 • コンピュータの負荷が高い場合は、ブザー鳴動がとぎれたりすることがありますがブザー異常ではありません。

(2) ダイアログ画面とパラメータ説明



[ループ回数]

テストを何回実施するかを指定します。0 を指定すると無限ループとなります。

[異常発生]

テスト中に異常を検出した場合、テストを停止するか継続するかを選択します。

第 5 章　使用上の注意

この章では、EmbedWare/Diag Professional をご使用になる上での注意事項について説明します。

5.1　フラッシュメモリの診断について

EmbedWare/Diag Professional では、お客様データを保護する観点より、媒体全面に対する書込みテストを行っておりません。そのため、書込み回数に制限がある媒体においては、媒体不良を検出できない場合があります。
（対象：コンパクトフラッシュ、USB フラッシュメモリ、SMART カード、SD カード、メモリスティック）

5.2　メイン画面その他の画面乱れ

WindowsXP システムで、以下の条件の時、EmbedWare/Diag Professional メイン画面やメニューから起動されるツールダイアログ画面の上に他のウィンドウを重ねたとき、画面にゴミが残ることがあります。

- **画面プロパティのデザインタブにおいて**

  ･「ウィンドウとボタン」→ "Windows クラシックスタイル "

  ･「効果」→「ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する」にチェックが付いている場合

  本現象については、EmbedWare/Diag Professional に限らず、他の Windows アプリケーションでも現象を確認していますが、この状態になっても診断機能そのものには影響はありません。

5.3　他のアプリケーションとの同時実行

EmbedWare/Diag Professional で診断を行う場合は、他の Windows アプリケーションは終了してください。EmbedWare/Diag Professional が診断するデバイスが他のアプリケーションの動作によって使用することができずエラーとなる場合があります。

5.4　メモリ資源、ディスク資源

極端にメモリ資源やディスク資源が少ない場合、EmbedWare/Diag Professional だけに限らず、Windows システム全体の動作や反応が低下したり、場合によっては正常な動作が行えなくなる場合があります。メモリ資源やディスク資源を十分確保の上実行してください。

5.5　EmbedWare/Diag Professionalを構成するファイルの扱い

EmbedWare/Diag Professional を構成するファイルについて、お客さまによって改変、削除などの操作を行われた場合は、その後の動作については保証しかねます。

5.6　DVD 再生テストについて

DVD 再生テストを実行する場合、あらかじめ以下の Microsoft DirectShow をサポートするコーデック、および Microsoft 社製 DirectX 9.0 以上がインストールされている必要があります。

- MPEG2 コーデック
- AC3 コーデック

詳しくは、「DVD 再生テスト」（71 ページ）をご覧ください。

5.7　3D 出力テストについて

3D 出力テストを実行する場合、あらかじめ Microsoft 社製 DirectX 9.0 以上がインストールされている必要があります。詳しくは、「3D 出力テスト」（82 ページ）をご覧ください。
なお、3D 出力テストは、AR1000 シリーズは未サポートです。AR1000 シリーズでは、3D 出力テスト以外のディスプレイ系テスト（ビデオテスト、2D 出力テスト）でご確認ください。

5.8　ビデオテストと 3D 出力テストのシングル実行モードでの中断方法について

「設定」→「診断動作モード」→「シングル実行モード」を選択し、シングル実行ループ回数に "0" を指定すると無限ループとなります。この状態で実行したテストを終了する場合は、「メイン画面」の［停止］ボタンにて停止する必要があります。
ビデオテストや 3D 出力テストは全画面の状態でテストを実施しますが、「メイン画面」の［停止］ボタンをクリックすることができませんので、全画面でテストを実施している状態で［ESC］キーを押下することでテストを中断できるようになっています。しかし、シングル実行モードでの実行を停止したわけではありません。［ESC］キーにてテストを中断し「メイン画面」が表示されましたら、［停止］ボタンをクリックしてシングル実行モードでのテストを終了してください。

5.9　EmbedWare/Diag Professional 実行時のスクリーンセーバの使用制限について

2D 出力テストや 3D 出力テストは、画面サイズ、解像度を意識して動作しているため、EmbedWare/Diag Professional はスクリーンセーバ機能は（なし）に設定しています。
テスト中にスクリーンセーバが起動されるように設定したり、画面サイズ、解像度などの変更は行わないでください。

付録

付録 A テストプログラム　エラーメッセージ・復帰コード一覧

注意	
	各テストのダイアログ画面で「異常発生」のパラメータに対して「継続」にチェックをつけた場合であっても全てのエラーに対して継続処理を行うことはできません。 各テストプログラムのエラーメッセージ右横の " 継続実行指定時 " の欄は、該当するエラーが発生した場合の次の処理がどのように行われるかを示します。 ● " 次ループ " 「ループ回数」でループ回数を指定している場合は、ループカウントがアップされ、テストが再度実行されます。 ● " 終了 " 「ループ回数」で指定したループ回数に関係なく、テストを終了します。 ● " 次処理 " テストプログラム内部で実施している次のテスト処理が実行されます。

A.1　**キャッシュテスト**（cachetest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	2 次キャッシュサイズの取得に失敗しました。	CPU 情報よりキャッシュサイズを判別することができませんでした。当テストプログラムがサポートしていないプロセッサである可能性があります。	終了
98002	2 次キャッシュ WAY 数の取得に失敗しました。	CPU 情報より WAY 数を判別することができませんでした。当テストプログラムがサポートしていないプロセッサである可能性があります。	終了
98003	dd..dd バイトのメモリの取得に失敗しました。 dd..dd：メモリサイズ	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	終了
98101	dd..dd バイトのメモリの取得に失敗しました。 dd..dd：メモリサイズ	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98102	キャッシュ内データのデータ複写処理にてコンペアエラーを検出しました。	メモリエラーが発生していないか、システムの再起動後、BIOS のイベントログを参照してください。	次ループ
98201 98202 98203 98204	dd..dd バイトのメモリの取得に失敗しました。 dd..dd：メモリサイズ	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	次ループ

A.2　演算テスト（cputest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	テストデータファイルが存在しません。[ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98002	メモリの取得に失敗しました。	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	終了
98003	テストデータファイルのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98004	テストデータファイルの読込みに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98005	テストデータファイルが壊れています。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98006	テストデータファイルが存在しません。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98007	メモリの取得に失敗しました。	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	終了
98008	テストデータファイルのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98009	**テストデータファイルの読込みに失敗しました。** [ccc…ccc] ccc…ccc**：ファイル名**	EmbedWare/Diag Professional **のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。** **インストール** CDROM **でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。**	**終了**
98010	**テストデータファイルが壊れています。**[ccc…ccc] ccc…ccc**：ファイル名**	EmbedWare/Diag Professional **のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。** **インストール** CDROM **でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。**	**終了**
98101	**演算比較エラー。** [dd…dd+ dd…dd](**期待値** : dd…dd, **実際値** : ddd…ddd) dd…dd+ dd…dd**：演算内容（加算）**	**プロセッサ（**CPU**）を交換してください。**	**次処理**
98102	**演算比較エラー。** (**期待値** : ddd…ddd, **実際値** : ddd…ddd)	**プロセッサ（**CPU**）を交換してください。**	**次処理**
98103	**演算比較エラー。** [dd…dd- dd…dd](**期待値** : ddd…ddd, **実際値** : ddd…ddd dd…dd- dd…dd**：演算内容（減算）**	**プロセッサ（**CPU**）を交換してください。**	**次処理**
98104	**演算比較エラー。** [dd…dd*dd…dd](**期待値** : ddd…ddd, **実際値** : ddd…ddd dd…dd*dd…dd**：演算内容（積算）**	**プロセッサ（**CPU**）を交換してください。**	**次処理**
98105	**演算比較エラー。** [dd…dd/dd…dd](**期待値** : ddd…ddd, **実際値** : ddd…ddd dd…dd/dd…dd**：演算内容（除算）**	**プロセッサ（**CPU**）を交換してください。**	**次処理**
98201	**浮動小数点演算エラー。**	**プロセッサ（**CPU**）を交換してください。**	**次処理**
98301	**演算パラメータエラー。**	EmbedWare/Diag Professional **のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。** **インストール** CDROM **でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。**	**次処理**
98302	**テストデータファイルが存在しません。** [ccc…ccc] ccc…ccc**：ファイル名**	EmbedWare/Diag Professional **のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。** **インストール** CDROM **でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。**	**終了**

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98303	テストデータファイルがディレクトリとして存在します。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98304	テストデータファイルが破損しています。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98305	実際値データのファイル書込みに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のインストール先のディスクの空き容量が少ないか、書込み不可能状態にあります。 本プログラムを動作させる場合、インストール先のディスクの空き容量が、最低 1M バイト以上必要となります。 十分な空きがある場合、Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザでない可能性があります。 Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザにてご使用ください。	終了
98306	実際値データファイルがディレクトリとして存在するため、書込みに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	ファイルシステムをご確認ください。	終了
98307	実際値データファイルが空である。 [ccc…ccc] ファイル書込みに失敗、または、演算処理に失敗しました。 ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のインストール先のディスクの空き容量が少ないか、書込み不可能状態にあります。 本プログラムを動作させる場合、インストール先のディスクの空き容量が、最低 1M バイト以上必要となります。 十分な空きがある場合、Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザでない可能性があります。 Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザにてご使用ください。	終了
98308	テストデータファイルが破損しています。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98309	メモリの取得に失敗しました。	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	次ループ
98310	メモリの取得に失敗しました。	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	次ループ
98311	テストデータファイルのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc]ccc… ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98312	実際値データファイルのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc]ccc… ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のインストール先のディスクの空き容量が少ないか、書込み不可能状態にあります。 本プログラムを動作させる場合、インストール先のディスクの空き容量が、最低 1M バイト以上必要となります。 十分な空きがある場合、Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザでない可能性があります。 Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザにてご使用ください。	終了
98313	テストデータファイルの読込みに失敗しました。 [ccc…ccc]ccc… ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98314	実際値データファイルの読込みに失敗しました。 [ccc…ccc]ccc… ccc：ファイル名	EmbedWare/Diag Professional のインストール先のディスクの空き容量が少ないか、書込み不可能状態にあります。 本プログラムを動作させる場合、インストール先のディスクの空き容量が、最低 1M バイト以上必要となります。 十分な空きがある場合、Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザでない可能性があります。 Administrator 権限もしくは Administrator グループに所属するユーザにてご使用ください。	終了
98315	演算結果に異常が発生しました。	プロセッサ（CPU）を交換してください。	次処理

A.3　メモリリードテスト（memrtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
90900	usrdrv.sys の組込みに失敗しました。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
90902	tplib.dll が正しく動作していません。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
90903	usrdrv.sys の組込みに失敗しました。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98001	診断メモリ範囲が実装メモリサイズをオーバーしています。 （メモリサイズ : dd..dd バイト）	指定したパラメータの内容をご確認ください。	終了
98002	開始アドレスと終了アドレスの指定に誤りがあります。	指定したパラメータの内容をご確認ください。	終了
98003	メモリの取得に失敗しました。 （get size : dd..dd バイト）	空きメモリが不足している可能性があります。不要なプログラムを終了してください。	終了
98004	メモリの再マッピングに失敗しました。 [アドレス範囲 : dd..dd - dd..dd]（リード単位が大きいためメモリ不足となった可能性があります）	メモリマッピングに失敗しました。メモリに異常がある可能性があります。	次ループ

付

A.4　メモリライトテスト（memwtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98101	メモリの獲得に失敗しました。 (get size : dd..dd バイト）	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	次ループ
98102 98103	メモリ複写処理にてコンペアエラーを検出しました。	メモリエラーが発生していないか、システムの再起動後、BIOS のイベントログを参照してください。	次ループ
98201	メモリの取得に失敗しました。[スレッド番号：ddd メモリサイズ : dd..dd] ddd：テストで生成しているプロセスの番号 dd..dd：メモリサイズ（バイト）	メモリが不足しています。不要なプログラムを終了してください。	次ループ
98202	メモリ複写処理にてコンペアエラーを検出しました。 [スレッド番号：ddd] ddd：テストで生成しているプロセスの番号	メモリエラーが発生していないか、システムの再起動後、BIOS のイベントログを参照してください。	次ループ

A.5　CD サウンド再生テスト（cdplay.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	デバイスをオープンできませんでした。	CDROM デバイスに何らかの異常を検出しています。デバイスマネージャにてデバイスが競合を起こしていないかご確認ください。また、ドライバに異常がある可能性もありますので、ドライバを最新に更新してみてください。ドライブの製造元にて最新のドライブファームウェアが Web 公開されていないかもご確認ください。 さらに、電力不足によりデバイスが使用不可能になっている場合もございます。	次ループ
98002	媒体が見つかりません。	媒体の検出に失敗しました。媒体が挿入されていない可能性があります。媒体を挿入している場合、媒体のピックアップに失敗した可能性があります。媒体を交換してみてください。	終了
98003	初期処理中にエラーが発生しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	MCI デバイスの初期化処理にて異常を検出しました。CDROM ドライバまたはサウンドドライバに異常がある可能性があります。デバイスマネージャおよびイベントログをご確認ください。	次ループ
98101	サウンドトラックが見つかりません。	ドライブへセットされた媒体にサウンドトラックが含まれていない可能性があります。サウンドの記録されている媒体をご使用ください。	次ループ
98102	媒体またはドライブが見つかりません。	媒体を抜かれた可能性があります。また、ドライブがビジー状態になった可能性があります。媒体を抜いていない場合、媒体に傷がないかご確認ください。または CDROM ドライバおよびサウンドドライバが最新であるかご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98103	トラック dd の再生に失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc dd：トラックナンバー 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	トラック再生処理が失敗しました。媒体エラーである可能性があります。媒体をご確認ください。	次処理
98104	トラック dd の再生中に、媒体またはドライブが見つからなくなりました。 dd：トラックナンバー	CDROM 再生中、媒体を抜かれた可能性があります。または、ドライブがビジー状態になった可能性があります。媒体を抜いていない場合、媒体に傷がないかご確認ください。または CDROM ドライバおよびサウンドドライバが最新であるかご確認ください。	次処理
98105	トラック dd の再生中にエラーが発生しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc dd：トラックナンバー 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	予期せぬエラーが発生しました。エラーメッセージの内容をご確認ください。	次処理

A.6　CD-RW 書込みテスト（cdrwtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	デバイス選択に失敗しました。 [選択デバイス : ccc…ccc] ccc…ccc：試験対象デバイス名	選択した CD-R、または CD-RW ドライブへの切替えに失敗しました。CDROM ドライブへ供給している電力が不足している、または挿入した媒体に異常があるため、システムおよびドライブが不安定になっている可能性があります。トレイオープンおよびマイコンピュータにドライブが表示されなくなった場合、システムリブートが必要となります。	終了
98002	書込みを行うイメージファイルが見つかりません。	書込み用イメージファイルが見つかりません。パラメータで指定した書込み用イメージファイルのパスに誤りがないかご確認ください。	終了
98003	媒体が見つかりません。	媒体の検出に失敗しました。媒体が挿入されていない可能性があります。媒体を挿入している場合、媒体のピックアップに失敗した可能性があります。媒体を交換してみてください。	終了
98101	デバイス選択に失敗しました。	選択した CD-R、または CD-RW ドライブへの切替えに失敗しました。CDROM ドライブへ供給している電力が不足している、または挿入した媒体に異常があるため、システムおよびドライブが不安定になっている可能性があります。トレイオープンおよびマイコンピュータにドライブが表示されなくなった場合、システムリブートが必要となります。	終了
98102	本デバイスが CD-R および CD-RW の書込みをサポートしていません。デバイスがビジー状態である可能性があります。	選択した装置が CD-R、または CD-RW 書込みをサポートしていません。ドライブの仕様をご確認ください。仕様としてサポートしている場合、CDROM ドライバを最新に更新してください。また、デバイスがビジー状態である可能性があります。 CDROM ドライブへ供給している電力が不足している、または挿入した媒体に異常があるため、システムおよびドライブが不安定になっている可能性があります。	終了
98103	書込みモードの自動選択に失敗しました。	本プログラムがサポートする CD-R、または CD-RW 書込みモードのいずれも書込み装置がサポートしていないため、書込みを行うことができません。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98104	Power calibration 設定に失敗しました。	書込みレーザーの電圧調整に失敗しました。ドライバまたはドライブのファームウェアが最新であるかご確認ください。	次ループ
98105	CD-RW 媒体の初期化に失敗しました。媒体エラーの可能性があります。 媒体をご確認ください。	媒体内データの消去（初期化）に失敗しました。媒体エラーである可能性があります。媒体を交換してください。	次ループ
98106	CD-RW 媒体の初期化に失敗しました。	消去後、媒体がブランク媒体として認識できませんでした。媒体の初期化が正しく動作しなかった可能性があります。媒体およびドライブをご確認ください。	次ループ
98107	CD-RW 媒体の初期化に失敗しました。書込み不可能な媒体、あるいは媒体が挿入されていない可能性があります。	ブランク媒体が見つかりません。媒体が交換された、または抜かれた可能性があります。また、媒体を正しく認識することができない場合、ドライブと媒体との整合性の問題がある可能性があります。媒体を別の種類へ変更してみてください。	次ループ
98108	書込みモードの自動選択に失敗しました。	本プログラムがサポートする CD-R、または CD-RW 書込みモードのいずれも書込み装置がサポートしていないため、書込みを行うことができません。	次ループ
98109	書込みを行うイメージファイルが見つかりません。	書込み用イメージファイルが見つかりません。パラメータで指定した書込み用イメージファイルのパスに誤りがないかご確認ください。	次ループ
98110	書込みを行うイメージファイルは、未サポートな形式です。 トラック 1 にデータ形式 ISO MODE1 を含むイメージを指定してください。	書込み用イメージファイルの形式が ISO MODE1 のトラックイメージファイルではありません。	終了
98111	書込みモードの自動選択に失敗しました。	書込みモードが異常です。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98112	**書込みモードの設定に失敗しました。** **（書込みモード** : ccc…ccc**）** ccc…ccc**：** TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1	**書込みモードの設定に失敗しました。**	**次ループ**
98113	**指定した書込みモードの切替えに失敗しました。** **（書込みモード** :ccc…ccc**）** ccc…ccc**：** TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1	**設定した書込みモードと現在の書込みモードが一致しません。ドライブへ書込みモードを指定することができませんでした。**	**次ループ**
98114	Power calibration **設定に失敗しました。**	**書込みレーザーの電圧調整に失敗しました。電源許容量が不足している可能性があります。**	**次ループ**

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98115	書込み設定処理にて異常が発生しました。 （書込みモード :ccc…ccc） ccc…ccc： TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1	トラック情報の取得またはトラック情報の作成に失敗しました。	次ループ
98116	書込みイメージファイルサイズが書込み媒体の容量を超えています。	書込み用媒体の容量と、書込みイメージファイルサイズをご確認ください。	次ループ
98117	CD 書込みできない媒体です。媒体をご確認ください。	媒体が CD-R あるいは CD-RW 媒体であることをご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98200	Lead-In の書込みに失敗しました。 <SenceKey:XX1 ASC:XX2 ASCQ:XX3> （書込みモード : ccc…ccc） （dd1/dd2 フレーム） XX1：SenceKey XX2：ASC(Additional Sense Codes) XX3：ASCQ(Additional Sense Code Qualifiers) ccc…ccc： TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1 dd1：現在のフレームナンバー dd2：総フレームナンバー数	Lead-In の書込みに失敗しました。ドライブまたは媒体に異常がある可能性があります。ドライブのドライバおよびファームウェアが最新であること、および媒体に傷がついていないかご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98201	Pre-Gap の書込みに失敗しました。 <SenceKey:XX1 ASC:XX2 ASCQ:XX3> （書込みモード : ccc…ccc） （dd1/dd2 フレーム） XX1：SenceKey XX2：ASC(Additional Sense Codes) XX3：ASCQ(Additional Sense Code Qualifiers) ccc…ccc： TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1 dd1：現在のフレームナンバー dd2：総フレームナンバー数	Gap の書込みに失敗しました。ドライブまたは媒体に異常がある可能性があります。ドライブのドライバおよびファームウェアが最新であること、および媒体に傷がついていないかご確認ください。	次ループ
98202	イメージファイルのオープンに失敗しました。	書込み用イメージファイルのオープンに失敗しました。イメージファイルをご確認ください。 EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98203	トラック 1 の書込みに失敗しました。 <SenceKey:XX1 ASC:XX2 ASCQ:XX3> （書込みモード : ccc…ccc） （dd1/dd2 フレーム） XX1：SenceKey XX2：ASC(Additional Sense Codes) XX3：ASCQ(Additional Sense Code Qualifiers) ccc…ccc： TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1 dd1：現在のフレームナンバー dd2：総フレームナンバー数	イメージデータの書込みに失敗しました。ドライブまたは媒体に異常がある可能性があります。ドライブのドライバおよびファームウェアが最新であること、および媒体に傷がついていないかご確認ください。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98204	Lead-Out の書込みに失敗しました。 <SenceKey:XX1 ASC:XX2 ASCQ:XX3> (書込みモード : ccc…ccc) (dd1/dd2 フレーム) XX1：SenceKey XX2：ASC(Additional Sense Codes) XX3：ASCQ(Additional Sense Code Qualifiers) ccc…ccc： TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1 dd1：現在のフレームナンバー dd2：総フレームナンバー数	Lead-Out の書込みに失敗しました。ドライブまたは媒体に異常がある可能性があります。ドライブのドライバおよびファームウェアが最新であること、および媒体に傷がついていないかご確認ください。	次ループ
98300	イメージファイルのオープンに失敗しました。	比較処理フェーズにおいて，書込み用ファイルのオープンに失敗しました。イメージファイルをご確認ください。 EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98301	**トラックデータが見つかりません。** **（書込みモード** : ccc…ccc**）** **（最終トラック** :dd**）** ccc…ccc**：** TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1 dd**：最終トラックナンバー**	**トラックデータが読み込めませんでした。書込みに失敗したまたは書込みイメージ形式に誤りがある可能性があります。書込みイメージに異常がある場合、トラック** 1 **にデータ形式の** ISO MODE1 **データが存在しない可能性があります。また、高負荷のために書込みが失敗した可能性があります。単体実行にてご確認ください。または媒体エラーおよびドライブと媒体との整合性の問題がある可能性があります。別媒体にて再度確認を行なってください。**	**次ループ**
98302	**書込んだトラック** 1 **データの読込みに失敗しました。** **（書込みモード** : ccc…ccc**）** dd1 **分** dd2 **秒** dd3 **フレーム** (LBA:dddd4) ccc…ccc**：** TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1 dd1**：分** dd2**：秒** dd3**：フレームナンバー** dddd4**：**LBA	**書込んだ媒体の読込みに失敗しました。書込みに失敗した可能性があります。高負荷のために書込みが失敗した可能性があります。単体実行にてご確認ください。または媒体エラーおよびドライブと媒体との整合性の問題がある可能性があります。別媒体にて再度確認を行なってください。**	**次ループ**

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98303	**書込みデータにてデータ比較エラーが発生しました。** **（書込みモード** : ccc…ccc**）** dd1 **分** dd2 **秒** dd3 **フレーム** (LBA:dddd4) ccc…ccc**：** TAO RAW TAO RAW16 TAO RAWP96 TAO RAW96 TAO ISOMODE1 SAO RAW SAO RAW16 SAO RAWP96 SAO RAW96 SAO ISOMODE1 RAW RAW16 RAWP96 RAW96 RAW ISOMODE1 dd1**：分** dd2**：秒** dd3**：フレームナンバー** dddd4**：**LBA	**書込みデータの比較でエラーが発生しました。書込みに失敗した可能性があります。高負荷のために書込みが失敗した可能性がありますので、単体実行にてご確認ください。または媒体エラーおよびドライブと媒体との整合性の問題がある可能性があります。別媒体にて再度確認を行なってください。**	**次ループ**

A.7　DVD 再生テスト（dvdtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	DVD デバイスの未初期化オブジェクトの作成に失敗しました。	ディスプレイドライバが正しくインストールされていない可能性があります。 デバイスマネージャをご確認ください。	終了
98002	DVD デバイスのフィルタグラフマネージャの取得に失敗しました。	ディスプレイドライバが正しくインストールされていない可能性があります。デバイスマネージャをご確認ください。	終了
98003	パスが異常であるか、または媒体が存在しません。 [試験デバイス :ccc…ccc] ccc…ccc：診断対象デバイス名	指定されたドライブのドライバが正しく動作していない可能性があります。または、他のアプリケーションがドライブを使用中なため、使用できない状態である可能性があります。	次ループ
98004	イベントの登録に失敗しました。	フィルタグラフマネージャと通信するパイプを獲得できませんでした。 DirectX または MPEG2 コーデックに問題がある可能性があります。DirectX または MPEG2 コーデックを最新に更新してください。	次ループ
98005	DVD 基本制御インタフェースの取得に失敗しました。	DirectX または MPEG2 コーデックに問題がある可能性があります。 DirectX または MPEG2 コーデックを最新に更新してください。	次ループ
98006	ディスプレイ／ DVD 装置のドライバが正常に動作していない、または MPEG2/AC3 デコーダソフト（コーデック）が不足しています。 ドライバを最新に更新するか、または MPEG2 および AC3 デコーダソフトをインストールしてください。	ディスプレイドライバが正しくインストールされていない可能性があります。 デバイスマネージャをご確認ください。または Microsoft DirectShow をサポートする DVD デコーダ（MPEG2,AC3 デコーダ）がインストールされていません。DVD デコーダデバイスまたはデコーダソフトウェアをインストールしてください。	次ループ
98007	DVD-Video 再生のフィルタグラフの作成に失敗しました。 当プログラムを動作させる場合、DirectX9.0 以上が必要となります。 DirectX のバージョン、または正しくインストールされていることをご確認ください。	DirectX9.0 以上がインストールされていることをご確認ください。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98008	媒体情報のインタフェースの取得に失敗しました。	媒体が挿入されていない可能性があります。媒体が挿入されている場合、ピックアップに失敗した可能性があります。または、DVD ビデオ媒体でない可能性があります。媒体をご確認ください。	次ループ
98009	DVD 拡張制御インタフェースの取得に失敗しました。	接続したディスプレイアダプタに対する DirectX または MPEG2 コーデックに問題がある可能性があります。 DirectX または MPEG2 コーデックを最新に更新してください。	次ループ
98011	媒体情報の取得に失敗しました。DVD 媒体が挿入されていない可能性があります。媒体を確認してください。	媒体が挿入されていない可能性があります。媒体が挿入されている場合、ピックアップに失敗した可能性があります。または、DVD ビデオ媒体でない可能性があります。媒体をご確認ください。	終了
98012	DVD 再生表示インタフェースの取得に失敗しました。 MPEG2 デコーダソフト（コーデック）が不足している、あるいは他のアプリケーションが DVD を使用中である可能性があります。 他のアプリケーションにて DVD を使用中か確認後、必要であれば MPEG2 デコーダソフトをインストールしてください。それでも問題が解決されない場合、画面プロパティの詳細設定のトラブルシューティングにて、ハードウェアアクセラレータ機能が制限されている可能性があります。	他のアプリケーションにて DVD を使用している可能性があります。他で使用している場合、そのアプリケーションを終了した後、ご使用ください。上記で問題がない場合、DVD デコーダ (MPEG2,AC3 デコーダ) がインストールされていない可能性があります。Microsoft DirectShow をサポートする DVD デコーダデバイスまたはデコーダソフトウェアをインストールしてください。 上記でも問題が解決できない場合、画面プロパティの詳細設定内のハードウェアアクセラレータにて、DirectDraw および Direct3D 機能が制限されているためにエラーになった可能性があります。 上記でも問題が解決できない場合、ディスプレイアダプタのドライバを最新へ更新し、ハードウェアアクセラレータ機能を最大にして確認ください。	次ループ
98101	再生するタイトル、またはキャプチャーが見つかりません。	DVD ビデオ媒体でない可能性があります。媒体をご確認ください。	次ループ
98102	dd1 番のタイトルの dd2 番のキャプチャー再生に失敗しました。 dd1：タイトル番号 dd2：キャプチャー番号	媒体エラーの可能性があります。媒体をご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98103	予期しないエラーが発生した。コンテンツのオーサリング方法に誤りがある可能性があります。	規格外の DVD 媒体である可能性があります。規格に合う媒体へ交換してください。 または、インストールされている DVD コーデック（MPEG2/AC3 デコーダ）が、ご使用の DVD 媒体に対応していないため、著作権保護機能が動作しました。 著作権保護機能が動作しない媒体を使用してください。	次ループ
98104	著作権保護機能のため、キー交換に失敗した。	インストールされている DVD コーデック（MPEG2/AC3 デコーダ）が、ご使用の DVD 媒体に対応していないため、著作権保護機能が動作しました。 著作権保護機能が動作しない媒体を使用してください。	次ループ
98105	規格 1.x に関し、DVD-Video ディスクのオーサリング方法に誤りがります。	規格外の DVD 媒体です。規格に合う媒体へ交換してください。	次ループ
98106	システムリージョンで再生されるようにディスクがオーサリングされていないため、DVD-Video ディスクの再生に失敗しました。	リージョンコードがドライブに設定されたリージョンコードと異なるため、再生することができません。 ドライブで再生できるリージョンコードの媒体を使用してください。	次ループ
98107	プレーヤーのペアレンタルロックレベルが DVD コンテンツで利用可能な最低値よりも低く、再生できません。	DVD ディスク上のマーカーに異常があり、再生することができません。DirectX または媒体に問題がある可能性があります。 最新の DirectX または別媒体にてご確認ください。	次ループ
98108	Macrovision(C) ディストリビューションが失敗した。	DirectX に異常があると思われます。最新の DirectX にてご確認ください。	次ループ
98109	システム リージョンがデコーダリージョンと一致しません。このため、DVD-Video ディスクを再生することができません。	リージョンコードがドライブに設定されたリージョンコードと異なるため、再生することができません。 ドライブで再生できるリージョンコードの媒体を使用してください。	次ループ
98110	デコーダのリージョンで再生されるようにディスクがオーサリングされていないため、DVD-Video ディスクの再生に失敗しました。	リージョンコードがドライブに設定されたリージョンコードと異なるため、再生することができません。 ドライブで再生できるリージョンコードの媒体を使用してください。	次ループ

A.8　フロッピーテスト（fdrtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
98001	デバイスのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：診断対象デバイス名	フロッピードライブの状態を確認してください。	終了
98002	デバイスのロックに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：診断対象デバイス名	フロッピードライブの状態を確認してください。	終了
98101	媒体の認識に失敗しました。 [ccc…ccc1] 媒体未挿入または媒体が壊れている可能性があります。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：診断対象デバイス名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	フロッピーディスクが挿入されているか確認してください。 Windows でフォーマットしたフロッピーディスクを挿入して再度テストを行ってください。	終了
98102	媒体がフォーマットされていません。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：診断対象デバイス名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	Windows でフォーマットしたフロッピーディスクを挿入して再度テストを行ってください。	終了
98103	メモリの取得に失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	不要なアプリケーションを終了して再度テストを行ってください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98104	媒体の読込みに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：診断対象デバイス名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	他のフロッピーディスクに代えて再度テストを実行してください。	次ループ
98105	媒体の読込み完了サイズが異常です。 [ccc…ccc1] 媒体が壊れている可能性があります。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：診断対象デバイス名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	他のフロッピーディスクに代えて再度テストを実行してください。	次ループ

A.9　**ファイルシステムテスト**（disktest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	ディスク空き情報の取得に失敗しました。 ［ドライブ：cc］ （0xXXXXXXXX）：ccc…ccc cc：診断対象ドライブ 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスの準備ができていない場合等（カードリーダー／ライターにカード入っていない場合）が考えられます。テスト媒体が挿入されているかを確認してください。	次ループ
98002	ディスク情報の取得に失敗しました。 ［ドライブ：cc］ （0xXXXXXXXX）：ccc…ccc cc：診断対象ドライブ 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスの準備ができていない場合等（カードリーダー／ライターにカード入っていない場合）が考えられます。テスト媒体が挿入されているかを確認してください。	次ループ
98003	作成するディレクトリがすでに存在します。 ［ccc…ccc］ ccc…ccc：ディレクトリパス	ディレクトリを削除して再度テストを実行してください。	終了
98004	空き容量が不足しています。（最低空き容量 :3M byte + 試験容量）	テストを実施するための空き容量が不足しています。不要なファイルを削除して再度テストを実行してください。	次ループ
98005 98101 98104	ディレクトリの作成に失敗しました。 ［ccc…ccc1］ （0xXXXXXXXX）：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ディレクトリパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	すでに同名のフォルダ、または、ファイルが存在する場合や書込み禁止となっている場合が考えられます。フォルダの状態を確認してください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98006 98007 98102 98103 98105 98106	ディレクトリの作成に失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ディレクトリパス	すでに同名のフォルダ、または、ファイルが存在する場合や書込み禁止となっている場合が考えられます。フォルダの状態を確認してください。	次ループ
98107	複写処理に失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ディレクトリパス	経過を表すダイアログボックスで［キャンセル］を選択した場合が考えられます。 容量が不足して複写ができなかった場合が考えられます。空き容量を確認してください。	次ループ
98108	ディレクトリの削除に失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ディレクトリパス	経過を表すダイアログボックスで［キャンセル］を選択した場合が考えられます。 テスト用フォルダ配下のファイルを開いている場合などが考えられます。	次ループ
98109	ファイル生成のためのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	すでに同名のフォルダが存在する場合が考えられます。フォルダの状態を確認してください。	次ループ
98110	ファイルの書込みに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	ディスク資源が不足している可能性があります。 または、ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98111	ファイルの書込みに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイルパス	ディスク資源が不足している可能性があります。 または、ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98112	ファイルにすべてのデータを書込むことができませんでした。 [ccc…ccc] [書込みサイズ :dddd1] [書込み完了サイズ :dddd2] ccc…ccc：ファイルパス dddd1：書込みサイズ dddd2：書込み完了サイズ	ディスク資源が不足している可能性があります。 または、ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98113	生成ファイルの読込みのためのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98114	生成ファイルの読込みに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98115	書込みファイルの比較エラーが発生しました。	ファイルシステムの異常、または、ドライブの異常が考えられます。chkdsk でファイルシステムの正常性を確認してください。	次ループ
98116	ディレクトリの削除に失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ディレクトリパス	テスト用フォルダ配下のファイルを開いている場合などが考えられます。 ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98117	ファイル生成のためのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対するWindows メッセージ	すでに同名のフォルダが存在する場合が考えられます。フォルダの状態を確認してください。 ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたはS.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98118	ファイルの書込みに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対するWindows メッセージ	ディスク資源が不足している可能性があります。 または、ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98119	ファイルの書込みに失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイルパス	ディスク資源が不足している可能性があります。 または、ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98120	ファイルにすべてのデータを書込むことができませんでした。 [ccc…ccc] [書込みサイズ :dddd1] [書込み完了サイズ :dddd2] ccc…ccc：ファイルパス dddd1：書込みサイズ dddd2：書込み完了サイズ	ディスク資源が不足している可能性があります。 または、ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98121	生成ファイルの読込みのためのオープンに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対するWindows メッセージ	ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたはS.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98122	生成ファイルの読込みに失敗しました。 [ccc…ccc1] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：ファイルパス 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	ファイルシステムに異常がある可能性があります。システムイベントログまたは S.M.A.R.T. 情報がある場合、その情報をご確認ください。	次ループ
98123	書込みファイルの比較エラーが発生しました。	ファイルシステムの異常、または、ドライブの異常が考えられます。chkdsk でファイルシステムの正常性を確認してください。	次ループ
98124	ファイルの削除に失敗しました。 [ccc…ccc] ccc…ccc：ファイルパス	ファイルが使用中の可能性があります。他のプロセスで使用していないか確認してください。	次ループ

A.10 IDE ドライブテスト（idisktest.exe）
A.11 SCSI ドライブテスト（sdisktest.exe）
A.12 USB ドライブテスト（udisktest.exe）
A.13 IEEE ドライブテスト（iedisktest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	試験デバイスが指定されていない、またはデバイスドライバがこのデバイスを正しく認識していません。	デバイスドライバが正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャをご確認ください。デバイスマネージャにて異常が見うけられない場合、最新のドライバへ更新してください。	終了
98002	デバイスのオープンに失敗しました。 [デバイスパス :ccc…ccc] ccc…ccc：診断対象デバイスパス	リムーバブル媒体の場合、媒体を抜かれた可能性があります。または、デバイスドライバが正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャをご確認ください。デバイスマネージャにて異常が見うけられない場合、最新のドライバへ更新してください。	終了
98003	デバイス情報の取得に失敗しました。 [デバイスパス :ccc…ccc] ccc…ccc：診断対象デバイスパス	リムーバブル媒体の場合、媒体が挿入されていない可能性があります。または、デバイスドライバが正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャをご確認ください。デバイスマネージャにて異常が見うけられない場合、最新のドライバへ更新してください。	次ループ
98004	デバイス容量の取得に失敗しました。 [デバイスパス :ccc…ccc] ccc…ccc：診断対象デバイスパス	リムーバブル媒体の場合、媒体が挿入されていない可能性があります。または、デバイスドライバが正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャをご確認ください。デバイスマネージャにて異常が見うけられない場合、最新のドライバへ更新してください。	次ループ
98005	デバイス容量が 0 バイトのため、試験できません。 [デバイスパス :ccc…ccc] ccc…ccc：診断対象デバイスパス	リムーバブル媒体の場合、媒体が挿入されていない可能性があります。 媒体の状態を確認してください。	次ループ
98006	試験範囲の指定に誤りがあります。 デバイス容量 : dddd1 blocks, 試験指定最終ブロック : dddd2 block dddd1：デバイス容量 dddd2：試験指定最終ブロック	指定したパラメータの内容をご確認ください。	終了

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98007	領域の獲得に失敗しました。 取得サイズ : dddd bytes dddd：取得サイズ	メモリが不足しています。使用していないプログラムを終了してください。	終了
98009	開始アドレスと終了アドレスの指定に誤りがあります。	指定したパラメータの内容をご確認ください。	終了
98101	リードエラー - リードブロック : dddd1 - リードブロック数 : dddd2 - デバイス容量 : dddd3 dddd1：リードブロック dddd2：リードブロック数 dddd3：デバイス容量	媒体エラーが発生している可能性があります。S.M.A.R.T. 機能がある場合、S.M.A.R.T. 情報を参照してください。 また、システムイベントログが格納されている可能性があります。システムイベントログを参照してください。	次処理
98102	リードエラー - リードブロック : dddd1 - リードブロック数 : dddd2 - デバイス容量 : dddd3 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc dddd1：リードブロック dddd2：リードブロック数 dddd3：デバイス容量 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	媒体エラーが発生している可能性があります。S.M.A.R.T. 機能がある場合、S.M.A.R.T. 情報を参照してください。 また、システムイベントログが格納されている可能性があります。システムイベントログを参照してください。	次処理

A.14 **ビデオテスト（disptest.exe）**

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメーターエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	ビデオテストのクラス生成に失敗しました。	クラス生成するためのリソースが不足している可能性があります。空きメモリがあるかご確認ください。	終了
98002	ビデオ出力ウィンドウの生成に失敗しました。	ウィンドウを生成するためのリソースが不足している可能性があります。不要なリソースを開放した後 (不要なプロセスを終了する)、再度ご確認ください。	終了

付

A.15 2D 出力テスト（d2dtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメーターエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	2D 出力テストのクラス生成に失敗しました。	クラス生成するためのリソースが不足している可能性があります。空きメモリがあるかご確認ください。	終了
98002	2D 出力ウィンドウの生成に失敗しました。	ウィンドウを生成するためのリソースが不足している可能性があります。不要なリソースを開放したあと（不要なプロセスを終了する）、再度ご確認ください。	終了

A.16 3D 出力テスト（dxtest1.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	3D 出力ウィンドウの作成準備処理にて失敗しました。	ディスプレイドライバが正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャをご確認ください。正しく動作している場合は、ドライバを最新に更新してください。	終了
98002	3D 出力ウィンドウの作成に失敗しました。	DirectX9.0 以上がインストールされていることをご確認ください。	終了
98003	DirectX の初期化に失敗しました。当プログラムを動作させる場合、DirectX9.0 以上が必要となります。DirectX のバージョン、または正しくインストールされていることをご確認ください。	DirectX9.0 以上がインストールされていることをご確認ください。	終了
98004	ディスプレイのモード取得に失敗しました。	ディスプレイドライバにリンクするモニタの種類が正しく設定されていない可能性があります。画面プロパティとデバイスマネージャをご確認ください。正しく設定されている場合、ドライバを最新に更新してください。	終了
98005	DirectX Graphics デバイスの生成に失敗しました。 ディスプレイカードにおけるハードウェアアクセラレータの DirectDraw,Direct3D 機能が正しく動作していない可能性があります。 以下の処置で改善されない場合、ディスプレイカードを変更してみてください。 ・ディスプレイドライバを最新にアップデート ・画面プロパティの詳細設定を開き、トラブルシューティングのハードウェアアクセラレータ設定を調節 ・DirectX を最新にアップデート	ディスプレイカードのハードウェアアクセラレータにて、DirectDraw および Direct3D 機能が正しく動作していません。画面プロパティの詳細設定におけるトラブルシューティングにてハードウェアアクセラレータ機能を制限していないかご確認ください。トラブルシューティングにて DirectDraw および Direct3D 機能が有効になっている場合、デバイスマネージャをご確認ください。上記にて改善されない場合、ドライバを最新に更新してください。DirectX がディスプレイカードに対応していない可能性もありますので、DirectX を最新にすることをお勧めします。	終了
98006	3D 出力データファイルの取り出しに失敗しました。 3D 出力データファイルが存在しない、または壊れている可能性があります。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98007	3D 出力データファイルが壊れている可能性があります。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次ループ
98008	3D フォントの生成に失敗しました。	システムに搭載されたフォントファイルが壊れている可能性があります。	次ループ
98009	文字を書込むサーフェイスの生成に失敗しました。	DirectX がディスプレイカードに対応していない可能性もありますので、DirectX を最新にすることをお勧めします。	次ループ
98010	3D 出力ビューポートの取り出しに失敗しました。	DirectX がディスプレイカードに対応していない可能性もありますので、DirectX を最新にすることをお勧めします。	次ループ
98011	アダプタのディスプレイモードの取得に失敗しました。	ディスプレイドライバにリンクするモニタの種類が正しく設定されていない可能性があります。画面プロパティとデバイスマネージャをご確認ください。正しく設定されている場合、ドライバを最新に更新してください。	次ループ

A.17 **タッチテスト**（tchtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	タッチテストのクラス生成に失敗しました。	クラス生成するためのリソースが不足している可能性があります。空きメモリがあるかご確認ください。	終了
98002	タッチテストウィンドウの生成に失敗しました。	ウィンドウを生成するためのリソースが不足している可能性があります。 不要なリソースを開放したあと（不要なプロセスを終了する）、再度ご確認ください。	終了
98100	左クリックエラー。(実際値 :［X1,Y1］, 期待範囲［X2-X3,Y2-Y3］) X1,Y1：クリックした X,Y 座標値 X2-X3：期待する X 座標範囲 Y2-Y3：期待する Y 座標範囲	クリックしたポイントが期待する座標範囲をオーバーしました。範囲内を指定している場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新したあと、再度ご確認ください。	次処理
98101	左クリックタイムアウトエラー。（期待範囲［X1-X2,Y1-Y2］） X1-X2：期待する X 座標範囲 Y1-Y2：期待する Y 座標範囲	左クリックの応答待ち時間をオーバーしました。左クリックを行ったにもかかわらず反応しない場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新したあと、再度ご確認ください。	次処理
98200	中央クリックエラー。(実際値 :［X1,Y1］, 期待範囲［X2-X3,Y2-Y3］) X1,Y1：クリックした X,Y 座標値 X2-X3：期待する X 座標範囲 Y2-Y3：期待する Y 座標範囲	クリックしたポイントが期待する座標範囲をオーバーしました。範囲内を指定している場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新したあと、再度ご確認ください。	次処理
98201	中央クリックタイムアウトエラー。（期待範囲［X1-X2,Y1-Y2］） X1-X2：期待する X 座標範囲 Y1-Y2：期待する Y 座標範囲	中央クリックの応答待ち時間をオーバーしました。中央クリックを行ったにもかかわらず反応しない場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新したあと、再度ご確認ください。	次処理
98300	右クリックエラー。(実際値 :［X1,Y1］, 期待範囲［X2-X3,Y2-Y3］) X1,Y1：クリックした X,Y 座標値 X2-X3：期待する X 座標範囲 Y2-Y3：期待する Y 座標範囲	クリックしたポイントが期待する座標範囲をオーバーしました。範囲内を指定している場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新したあと、再度ご確認ください。	次処理

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98301	**右クリックタイムアウトエラー。（期待範囲**［X1-X2,Y1-Y2］**）** X1-X2**：期待する** X **座標範囲** Y1-Y2**：期待する** Y **座標範囲**	**右クリックの応答待ち時間をオーバーしました。右クリックを行ったにもかかわらず反応しない場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新したあと、再度ご確認ください。**	**次処理**
98400	**タッチエラー。**(**実際値**:［X1,Y1］,**期待範囲**［X2-X3,Y2-Y3］) X1,Y1**：タッチした** X,Y **座標値** X2-X3**：期待する** X **座標範囲** Y2-Y3**：期待する** Y **座標範囲**	**タッチしたポイントが期待する座標範囲をオーバーしました。範囲内を指定している場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新した後、再度ご確認ください。**	**次処理**
98401	**タッチタイムアウトエラー。（期待範囲**［X1-X2,Y1-Y2］**）** X1-X2**：期待する** X **座標範囲** Y1-Y2**：期待する** Y **座標範囲**	**タッチの応答待ち時間をオーバーしました。タッチを行ったにもかかわらず反応しない場合、装置またはドライバが異常である可能性があります。ドライバを最新に更新した後、再度ご確認ください。**	**次処理**

A.18 FTP 転送テスト（lantest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98101	送信ファイルの作成に失敗しました。	送信ファイルの作成に失敗しました。EmbedWare/Diag をインストールした論理ボリュームの空き容量が少ない可能性が高いので、空き容量を増やしてから、再度ご確認ください。	次ループ
98102	送信ファイルが見つかりません。 [テストファイル：ファイル名]	送信ファイルが見つかりませんでした。TEST_DATA_FILE パラメータで指定したパスで送信ファイルをアクセスできないまたは、指定したパスでアクセス可能なデバイスの空き容量が少ない可能性が高いので、指定したパスの確認、または指定したファイル格納先デバイスの空き容量を増加してから、再度ご確認ください。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98103	SSS 処理中にエラーが発生しました。 注意 SSS には、下記が表示されます。 ・セション生成 ・接続 ・ファイル送信 ・ファイル受信 ・生成ファイル削除 ・切断・セション開放	ftp でのファイル送受信に失敗しました。 ・対象経路に link down やテスト用パケットを破棄した装置がないか ・各装置のネットワーク設定 をご確認ください。 また、以下をご確認ください。 1.「接続処理中にエラーが発生しました」が表示された場合 ユーザー認証に失敗した可能性があります。アカウントが正しいかをご確認ください。 2.「ファイル送信処理中にエラーが発生しました」が表示された場合 対向機の FTP ホームディレクトリが書込み禁止になっている可能性があります。対向機のディレクトリの設定をご確認ください。 3.「ファイル受信処理中にエラーが発生しました」が表示された場合 テスト用ファイルのファイル名の長さが、ファイル格納フォルダで使用可能な名前の長さ－ 4 文字以上である可能性があります。パラメータで指定したファイルが同一フォルダで複写可能であることをご確認ください。 4. 上記以外の場合 Windows の ftp に関するソフトウェア環境に問題がある可能性があります。当テストを実行する装置で Windows の再インストールをしてください。	次ループ
98104	SSS 処理中にエラーが発生しました。 (0xXXXXXXXX)：cccccc 注意 SSS には、下記が表示されます。 ・送信ファイルのオープン ・受信ファイルのオープン 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード cccccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	送信ファイルまたは受信ファイルのオープンに失敗しました。 Windows のファイルシステムに問題がある可能性が高いので、当テストを実行する装置で Windows の再インストールをした後、再度ご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98105	送受信ファイルサイズが一致しません。(受信サイズ :XXXX byte, 送信サイズ :XXXX byte)	送信ファイルと受信ファイルのサイズが不一致でした。テスト対象ポートと対向機側ポート間の経路上にある装置をファイルが通過中にデータが変わってしまった可能性が高いので、経路上にある装置を調査した後、再度ご確認ください。	次ループ
98106	送受信データが一致しません。	送受信データ比較エラーとなりました。テスト対象ポートと対向機側ポート間の経路上にある装置をファイルが通過中にデータが変わってしまった可能性が高いので、経路上にある装置を調査した後、再度ご確認ください。	次ループ
98107	ネットワークサブシステムがネットワークへの接続を準備できていません。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。Windows の socket 通信に関するソフトウェア環境に問題がある可能性が高いので、当テストを実行する装置で Windows を再インストールした後、再度ご確認ください。	終了
98108	Winsock のバージョン 2.0 がサポートされていません。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。Windows の socket 通信に関するソフトウェア環境に問題がある可能性が高いので、当テストを実行する装置で Windows を再インストールした後、再度ご確認ください。	終了
98109	ネットワークが現在ビジー状態にあります。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。EmbedWare/Diag が正しくインストールされていない可能性が高いので、EmbedWare/Diag を再インストールした後、再度ご確認ください。	終了
98110	Winsock が処理できる最大プロセス数に達しました。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。多くのアプリケーションが socket 通信を行っている可能性が高いので、当テストを実行する装置で動作しているアプリケーションのうち、該当するアプリケーションを何本か終了させてから、再度ご確認ください。	終了
98111	Winsock パラメータエラー	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。EmbedWare/Diag が正しくインストールされていない可能性が高いので、EmbedWare/Diag を再インストールした後、再度ご確認ください。	終了

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98112	**指定されたホスト名（**ccc**）からアドレスを検索できません。** ccc**：ホスト名**	**指定されたホスト名からアドレスを検索できませんでした。 ネームサーバーへの問い合わせまたは当テストを実行する装置の** lmhosts **ファイルの参照によるアドレス検索に失敗していますので、ホスト名からアドレスが検索できる環境になっていることを調査した後、再度ご確認ください**	**終了**
98113	**テスト不可のポート（**0.0.0.0**）です。**	**テスト対象ポートは** link down **しているためにテストできません 。テスト対象ポートを** link up **の状態し、**EmbedWare/Diag **の「表示メニュー」から「デバイスの再認識」を選択した後、再度ご確認ください。**	**終了**
98114	**指定したファイルのサイズを取得できません。**	**指定されたファイルのサイズを取得できませんでした。指定されたファイル名が誤っている可能性が高いので、ファイル名の確認を行ってから、再度ご確認ください。**	**終了**
98115	**指定したファイルのサイズが** 32MB **を超えています。**	**指定されたファイルのサイズが** 32MB **を超えています。サイズが** 32MB **以下のファイルを指定して、再度ご確認ください。**	**終了**
98116	**送信先アドレス（**xxx.xxx.xxx.xxx **または** ccc**）は被試験装置に設定されています。** xxx.xxx.xxx.xxx**：**IP **アドレス** ccc**：ホスト名**	**指定された送信先アドレスが診断対象装置に設定されている、または、指定されたホスト名が診断対象装置に実装されている** LAN **ポートに割り当てられています。 指定する送信先アドレスまたはホスト名を変更して、再度ご確認ください。**	**終了**

A.19 PING 送受信テスト（pingtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	ネットワークサブシステムがネットワークへの接続を準備できていません。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。 Windows の socket 通信に関するソフトウェア環境に問題がある可能性が高いので、当テストを実行する装置で Windows を再インストールした後、再度ご確認ください。	終了
98002	Winsock のバージョン 2.0 がサポートされていません。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。 Windows の socket 通信に関するソフトウェア環境に問題がある可能性が高いので、当テストを実行する装置で Windows を再インストールした後、再度ご確認ください。	終了
98003	ネットワークが現在ビジー状態にあります。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。 EmbedWare/Diag が正しくインストールされていない可能性が高いので、EmbedWare/Diag の再インストールをした後、再度ご確認ください	終了
98004	Winsock が処理できる最大プロセス数に達しました。	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。 多くのアプリケーションが socket 通信を行っている可能性が高いので、当テストを実行する装置で動作しているアプリケーションのうち、該当するアプリケーションを何本か終了させてから、再度ご確認ください。	終了
98005	Winsock パラメータエラー	socket 通信をするための初期化処理に失敗しました。EmbedWare/Diag が正しくインストールされていない可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98101	ソケットをオープンできませんでした。 （0xXXXXXXXX）：cccccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード cccccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	socket のオープンに失敗しました。 Windows 上で動作しているアプリケーションが多すぎる可能性がありますので、当テストを実行する装置で動作しているアプリケーションを何本か終了させてから、再度ご確認ください。	次ループ
98102	送信タイムアウトの設定に失敗しました。 （0xXXXXXXXX）：cccccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード cccccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	送信タイムアウト時間の設定に失敗しました。 EmbedWare/Diag が正しくインストールされていない可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次ループ
98103	受信タイムアウトの設定に失敗しました。 （0xXXXXXXXX）：cccccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード cccccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	受信タイムアウト時間の設定に失敗しました。EmbedWare/Diag が正しくインストールされていない可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次ループ
98104	TTL の設定に失敗しました。 （0xXXXXXXXX）：cccccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード cccccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	テスト用パケットの有効期間の設定に失敗しました。EmbedWare/Diag が正しくインストールされていない可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次ループ
98105	送信タイムアウトエラーが発生しました。	送信タイムアウトエラーになりました。 テスト対象ポートが高負荷状態である可能性があります。当テストを実行する装置で動作しているアプリケーションのうち、テスト対象ポートを使用して通信しているアプリケーションを数本終了させた後、再度ご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98107	受信タイムアウトエラーが発生しました。	受信タイムアウトエラーになりました。 ネットワーク構成に問題がある可能性があります。以下をご確認ください。 ・対象経路で link down している箇所がないこと ・対象経路でテスト用パケットが破棄されていないこと ・各装置のネットワーク設定に問題がないこと	次ループ
98109	送受信データ比較エラー	送受信データ比較エラーとなりました。 テスト対象ポートと対向機側ポート間の経路上にある装置をテスト用パケットが通過中にデータが変わってしまった可能性があります。経路上にある装置を調査した後、再度ご確認ください。	次ループ
98110	テスト対象ポートに対する（ddd.ddd.ddd.ddd または ccc）BIND 処理が失敗しました。 （0xXXXXXXXX）：cccccc 注意 ddd.ddd.ddd.ddd には、送信先アドレス、ccc にはホスト名が表示されます。 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード cccccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	テスト対象ポートに対する BIND 処理が失敗しました。 テスト対象ポートが link down している可能性があります。テスト対象ポートの link の状態を調査した後、再度ご確認ください。	次ループ
98111	テストパケットが対向機に到達不能です。	テスト用パケットが対向機に到達不能です。 テスト対象ポートと対向機側ポート間の経路上にあるルーティング機能を備えた装置が経路上の異常を検出しました。該当装置を調査した後、再度ご確認ください。	次ループ
98112	対向機から送信制御要求を受信しましたのでテストできません。	対向機から送信制御要求を受信しました。 対向機側のテストで使用するポートが高負荷状態である可能性があります。対向機の該当ポートを使用するアプリケーション（他の装置を含む）を終了した後、再度ご確認ください。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98113	テスト中にルート変更要求を受信しましたのでテストできません。	テスト中にルート変更要求を受信しました。 テスト対象ポートと対向機側ポート間の経路上にあるルーティング機能を備えた装置が要求を送信しています。 経路上にある該当装置の設定を変更した後、再度ご確認ください。	次ループ
98114	テストパケットが有効期限超過の状態になりました。	テスト用パケットが有効期限超過の状態になりました。 テスト対象ポートと対向機側ポート間の経路上にはルーティング機能を備えた装置が TTL パラメータで指定した値の 1 ／ 2 以上存在している可能性があります。 該当装置の数の 2 倍より多い値を TTL パラメータに指定して、再度ご確認ください。	次ループ
98115	テストパケットの IP ヘッダ内でパラメータ異常が検出されました。	テスト用パケットの IP ヘッダ内でパラメータ異常が検出されました。対向機間の経路上にあるハブ等の装置を通過中、テストパケットのデータが、変わってしまった可能性があります。経路上にある装置を調査した後、再度ご確認ください。	次ループ
98116	指定されたホスト名（ccc）からアドレスを検索できません。 ccc：ホスト名	指定されたホスト名からアドレスを検索できませんでした。ネームサーバーへの問い合わせ、あるいは当テストを実行する装置の lmhosts ファイルの参照によるアドレス検索に失敗しています。ホスト名からアドレスが検索できる環境であるかご確認ください。	終了
98117	テスト不可のポート（0.0.0.0）です。	テスト対象ポートは link down しているため、テストできません。テスト対象ポートの接続をご確認の上、link up の状態にした後、EmbedWare/Diag の「表示メニュー」から「デバイスの再認識」を選択し、再度ご確認ください。	終了
98118	送信先アドレス（xxx.xxx.xxx.xxx または ccc）は被試験装置に設定されています。 xxx.xxx.xxx.xxx：IP アドレス ccc：ホスト名	指定された送信先アドレスが診断対象装置に設定されている、または、指定されたホスト名が診断対象装置に実装されている LAN ポートに割り当てられています。 指定する送信先アドレスまたはホスト名を変更して、再度ご確認ください。	終了

A.20 パラレルポートテスト（paratest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	コントロールレジスタエラー。 [ccc…ccc:0xXX…XX] (実際値 :0xXX, 期待値 :0xXX) ccc…ccc：試験ポート名 0xXX…XX: ベースアドレス	パラレルポートのコントローラが正しく動作していない可能性があります。 BIOS セットアップ画面でパラレルポートの設定を確認してください。パラレルポートにプリンタなどのデバイスが接続されている場合は外して再度ご確認ください。	次処理
98003	データレジスタエラー。 [ccc…ccc:0xXX…XX] (実際値 :0xXX, 期待値 :0xXX) ccc…ccc：試験ポート名 0xXX…XX: ベースアドレス	パラレルポートのコントローラが正しく動作していない可能性があります。 BIOS セットアップ画面でパラレルポートの設定を確認してください。パラレルポートにプリンタなどのデバイスが接続されている場合は外して再度ご確認ください。	次処理
98004	データコンペアエラー (コントロールレジスタ -> ステータスレジスタ)。 [ccc…ccc:0xXX…XX] (実際値 :0xXX, 期待値 :0xXX, マスク値 :0xXX) ccc…ccc：試験ポート名 0xXX…XX: ベースアドレス	パラレルポートのコントローラが正しく動作していない可能性があります。 BIOS セットアップ画面でパラレルポートの設定を確認してください。パラレルポートにプリンタなどのデバイスが接続されている場合は外して再度ご確認ください。	次処理
98005	データコンペアエラー (データレジスタ -> ステータスレジスタ)。 [ccc…ccc:0xXX…XX] (実際値 :0xXX, 期待値 :0xXX, マスク値 :0xXX) ccc…ccc：試験ポート名 0xXX…XX: ベースアドレス	パラレルポートのコントローラが正しく動作していない可能性があります。 BIOS セットアップ画面でパラレルポートの設定を確認してください。パラレルポートにプリンタなどのデバイスが接続されている場合は外して再度ご確認ください。	次処理
98006	データレジスタエラー。 [ccc…ccc:0xXX…XX] (実際値 :0xXX, 期待値 :0xXX) ccc…ccc：試験ポート名 0xXX…XX: ベースアドレス	パラレルポートのコントローラが正しく動作していない可能性があります。 BIOS セットアップ画面でパラレルポートの設定を確認してください。パラレルポートにプリンタなどのデバイスが接続されている場合は外して再度ご確認ください。	次処理
98007	このデバイスは未サポートです [ccc…cccc] ccc…ccc ：試験ポート名	ポート名に該当するポートアドレスを検索できませんでした。試験ポートの状態をご確認ください。	終了

A.21 **シリアルポートテスト**（sertest1.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	**正常終了**	-	**次ループ**
90000	**パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。**	**設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。**	**終了**
90101	**ポートオープン異常を検出しました。** [ccc…ccc] ccc…ccc：**試験ポート名**	**ポートまたはシリアルポートドライバが正しく動作していない可能性があります。コントロールパネルのデバイスマネージャより、シリアルポートが有効になっているか、確認してください。有効の場合、最新のドライバへ更新してください。**	**次ループ**
90102	[ccc…ccc]（0xXXXXXXXX）：ccc…ccc ccc…ccc：**試験ポート名** 0xXXXXXXXX：WindowsAPI **の復帰コード** ccc…ccc　：**復帰コードに対する** Windows **メッセージ**	**現在のシリアルポートの設定取得** (GetCommState) **時に異常を検出しました。** **ポートまたはシリアルポートドライバが正しく動作していない可能性があります。コントロールパネルのデバイスマネージャより、シリアルポートが有効になっているか、確認してください。有効の場合、最新のドライバへ更新してください。**	**終了**
90103	[ccc…ccc]（0xXXXXXXXX）：ccc…ccc ccc…ccc：**試験ポート名** 0xXXXXXXXX：WindowsAPI **の復帰コード** ccc…ccc　：**復帰コードに対する** Windows **メッセージ**	**シリアルポートの設定** (SetCommState) **時に異常を検出しました。** **ポートまたはシリアルポートドライバが正しく動作していない可能性があります。コントロールパネルのデバイスマネージャより、シリアルポートが有効になっているか、確認してください。有効の場合、最新のドライバへ更新してください。**	**終了**
90104	**キャリア検出ピンがクリアされませんでした。** [ccc…ccc] ccc…ccc：**試験ポート名**	**使用している折り返しコネクタをご確認ください。**	**次ループ**
90105	Ring Indicator(**被呼表示**) **が検出されませんでした。** [ccc…ccc] ccc…ccc：**試験ポート名**	**使用している折り返しコネクタをご確認ください。**	**次ループ**
90106	**キャリア検出ピンがセットされませんでした。** [ccc…ccc] ccc…ccc：**試験ポート名**	**使用している折り返しコネクタをご確認ください。**	**次ループ**

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
90201	[ccc…ccc]（0xXXXXXXXX）：ccc…ccc ccc…ccc：試験ポート名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc　：復帰コードに対する Windows メッセージ	データ送信 (WriteFile) 時に異常を検出しました。 ポートまたはシリアルポートドライバが正しく動作していない可能性があります。コントロールパネルのデバイスマネージャより、シリアルポートが有効になっているか、確認してください。有効の場合、最新のドライバへ更新してください。	次ループ
90202	送信データサイズ異常を検出しました。[ccc…ccc] [実際値 :ddd, 期待値 :ddd] [baudrate:dd..dd,timeout:dd..dd, total timeout:dd..dd] ccc…ccc：試験ポート名 baudrate：ボーレート timeout:dd..dd：1byte あたりのデータの書込み時間（ミリ秒） total timeout:dd..dd：トータルタイムアウト時間（ミリ秒）	送信に失敗した、または送信タイムアウトエラーを検出した可能性があります。 システム負荷が原因である可能性があります。不要なプログラムを停止、またはボーレートを下げてご確認ください。	次ループ
90203	[ccc…ccc]（0xXXXXXXXX）：ccc…ccc ccc…ccc：試験ポート名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc　：復帰コードに対する Windows メッセージ	ポートの現在のエラー情報、入出力バッファの情報取得 (ClearCommError) 時に異常を検出しました。 ポートまたはシリアルポートドライバが正しく動作していない可能性があります。コントロールパネルのデバイスマネージャより、シリアルポートが有効になっているか、確認してください。有効の場合、最新のドライバへ更新してください。	次ループ
90204	[ccc…ccc]（0xXXXXXXXX）：ccc…ccc ccc…ccc：試験ポート名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc　：復帰コードに対する Windows メッセージ	入力バッファがオーバーフローしました。 入力バッファに空きがないか、EOF の後にデータを受信しました。 折返しコネクタおよびその接続に誤りがないか確認してください。またはポートまたはシリアルポートドライバが正しく動作していない可能性があります。コントロールパネルのデバイスマネージャより、シリアルポートが有効になっているか、確認してください。有効の場合、最新のドライバへ更新してください。	次ループ

付

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
90205	[ccc…ccc]（0xXXXXXXXX）：ccc…ccc ccc…ccc：試験ポート名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc　：復帰コードに対する Windows メッセージ	データ受信 (ReadFile) 時に異常を検出しました。 折返しコネクタの接続不良または、システム負荷により指定ボーレート内に受信が完了しなかった可能性があります。またはポートまたはシリアルポートドライバが正しく動作していない可能性があります。コントロールパネルのデバイスマネージャより、シリアルポートが有効になっているか、確認してください。有効の場合、最新のドライバへ更新してください。	次ループ
90206	受信データサイズ異常を検出しました。 [ccc…ccc] [実際値 :ddd, 期待値 :ddd] ccc…ccc：試験ポート名	受信に失敗した、または受信タイムアウトエラーを検出した可能性があります。 システム負荷が原因である可能性があります。不要なプログラムを停止、またはボーレートを下げてご確認ください。	次ループ
90207	コンペアエラーを検出しました。	折返しコネクタの接続不良またはノイズによるデータ化けの可能性があります。	次ループ
	下記のフォーマットで詳細情報を表示します。 Program Name: zz～16 文字～zz　　　Diag Name xx ～50 文字～xx Device Name yy～120 文字～yy Date YYYY/MM/DD HH:MM:SS　Loop ddddd (ddddd) Error Message メッセージ本文 Dump Data Data Size = ffff Actual　　　address = 0xxxxxxxxx : value = 0xxx Expectation address = 0xxxxxxxxx : value = 0xxx Actual data　　　　　　Expectation data offset　0 1 2 3 4 5 6 7　8 9 a b c d e f - 0 1 2 3 4 5 6 7　8 9 a b c d e f 01234560 0000000100020003 0004000500060007 - 0000000100020003 0004000500060007 01234570*00080009000a000b fffc000d000e000f - 00080009000a000b 000c000d000e000f 01234580 0010001100120013 0014001500160017 - 0010001100120013 0014001500160017		
90208	コンペアエラーを検出しました。[ccc…ccc：0xXX..XX] [実際値 :0xXX 期待値 :0xXX] ccc…ccc：試験ポート名 0xXX..XX：ベースアドレス	コントローラの異常またはノイズによるデータ化けの可能性があります。	次ループ
90210	受信タイムアウト異常です。[ccc…ccc：0xXX..XX] ccc…ccc ：試験ポート名 0xXX..XX　：ベースアドレス	受信バッファが空にならない状態で 60 秒以上経過しました。試験ポートの状態をご確認ください。	終了

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
90211	送信タイムアウト異常です。[ccc…ccc：0xXX..XX] ccc…ccc ：試験ポート名 0xXX..XX ：ベースアドレス	送信バッファが空にならない状態で 60 秒以上経過しました。試験ポートの状態をご確認ください。	終了
90212	このデバイスは未サポートです。[ccc…cccc] ccc…ccc ：試験ポート名	ポート名に該当するポートアドレスを検索できませんでした。試験ポートの状態をご確認ください。	終了
90900	usrdrv.sys の組込みに失敗しました。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
90902	tplib.dll が正しく動作していません。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
90903	usrdrv.sys の組込みに失敗しました。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了

A.22 DIO テスト（diotest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
90900	usrdrv.sys の組込みに失敗しました。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
90902	tplib.dll が正しく動作していません。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
90903	usrdrv.sys の組込みに失敗しました。	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	終了
98200	DLL のロードに失敗しました。 [ファイル名] (0xXXXXXXXX)：ccc… ccc0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	" ファイル名 " で示される DLL のロードに失敗しました。DIO ドライバが正しくインストールされていることをご確認ください。	終了
98201	関数のアドレス取得に失敗しました。 [関数名] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	DIO ドライバが正しくインストールされているか、または最新のドライバかご確認ください。	終了
98202	DIO デバイスのオープンに失敗しました。	DIO を使用するアプリケーションが最大起動可能数、起動されている可能性があります。起動中のアプリケーションを終了させる、または、終了したあとに再度ご確認ください。	次ループ

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98210	DIO デバイスのクローズに失敗しました。	通常発生する問題ではなく、Windows システムにて何らかの異常が発生していると思われます。他の DIO アプリケーションが動作している場合は終了し、再度ご確認ください。	次ループ
98211	DLL のアンロードに失敗しました。 [ファイル名] (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	" ファイル名 " で示される DLL のアンロードに失敗しました。 他の DIO アプリケーションが動作している場合は終了し、再度ご確認ください。	終了
98300	DIO ボードが接続されていません。 [ボード ID= ボード ID]	" ボード ID" で示される DIO ボードを検知できませんでした。DIO ボードが正しく本体に接続されていることをご確認ください。	次ループ
98301	DIO 入力接点の状態取得に失敗しました。 (DIO Error code=dddd：ccc…ccc) dddd：AR_DIO API の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対するメッセージ	DIO 入力接点の状態取得関数が異常終了したため、全接点の状態が取得できません。	次ループ
98302	DIO 入力状態が期待する状態と同じではありません。 [ボード ID= ボード ID] 実際値 =0xXXXXXXXX 期待値 =0xXXXXXXXX マスク =0xXXXXXXXX	" ボード ID" で示されるボードの入力状態が、監視時間内に期待する状態以外の状態になりました。 該当する入力接点に接続している装置の状態をご確認ください。	次ループ
98303	DIO 入力状態が期待する状態に変化しませんでした。 [ボード ID= ボード ID] 実際値 =0xXXXXXXXX 期待値 =0xXXXXXXXX マスク =0xXXXXXXXX	" ボード ID" で示されるボードの入力状態が、監視時間内に期待する状態に変化しませんでした。 該当する入力接点に接続している装置の状態をご確認ください。	次ループ
98304	テストする DIO ボードが選択されていません。	テストする DIO ボードが正しく選択されているかご確認ください。	終了

付

A.23 スピーカー出力テスト（sndtest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	オーディオデバイスが見つかりません。	サウンドカードのオーディオデバイスが見つかりません。サウンドカードを搭載している場合、デバイスマネージャにてサウンドカードドライバが正しくインストールされていることを確認ください。	終了
98002	オーディオデバイスが、WAVE ボリューム制御をサポートしていません。正しくドライバがインストールされているか、または最新のドライバか確認してください。	サウンドカードの WAVE 機能が正しく動作していない可能性があります。サウンドカードの仕様をご確認ください。WAVE 機能を搭載している場合、デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	終了
98003	オーディオデバイスが、マスタボリューム制御をサポートしていません。正しくドライバがインストールされているか、または最新のドライバか確認してください。	サウンドカードのマスタ音量の制御が正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	終了
98004	WAVE デバイスのオープンに失敗しました。	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次ループ
98005	左右スピーカーに対し、WAVE 出力に失敗しました。	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98006	左スピーカーに対し、WAVE 出力に失敗しました。	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98007	右スピーカーに対し、WAVE 出力に失敗しました。	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98008	左右両スピーカー出力用 WAVE ファイルが異常です。 （ファイル :WAVE ファイル名）	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次処理
98009	左スピーカー出力用 WAVE ファイルが異常です。 （ファイル :WAVE ファイル名）	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次処理

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98010	右スピーカー出力用 WAVE ファイルが異常です。 （ファイル :WAVE ファイル名）	EmbedWare/Diag Professional のいくつかのモジュールが異常になっている可能性があります。 インストール CDROM でパッケージの修復を行い、再度テストを実施してください。	次処理

付

A.24 **録音テスト**（srectest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98001	オーディオミキサーが見つかりません。	サウンドカードのオーディオデバイスが見つかりません。サウンドカードを搭載している場合、デバイスマネージャにてサウンドカードドライバが正しくインストールされていることをご確認ください。	終了
98002	オーディオデバイスが、WAVE ボリューム制御をサポートしていません。 正しくドライバがインストールされているか、または最新のドライバか確認してください。	サウンドカードの WAVE 機能が正しく動作していない可能性があります。サウンドカードの仕様をご確認ください。WAVE 機能を搭載している場合、デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	終了
98003	オーディオデバイスが、マスタボリューム制御をサポートしていません。 正しくドライバがインストールされているか、または最新のドライバか確認してください。	サウンドカードのマスタ音量の制御が正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	終了
98004	オーディオデバイスが、録音ボリューム制御をサポートしていません。 録音デバイス : ccc…ccc 正しくドライバがインストールされているか、または最新のドライバか確認してください。 ccc…ccc：録音デバイス名	サウンドカードの録音デバイス音量の制御が正しく動作していない可能性があります。デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	終了
98100	ccc…ccc1 の再生・録音にて、WAVE ファイルのオープンに失敗しました。 [WAVE ファイル :ccc…ccc2] ccc…ccc1：試験項目名 ccc…ccc2：WAVE ファイルパス	WAVE ファイルの生成・読込みに失敗しました。EmbedWare/Diag をインストールしたディスクの空き容量が不足している、あるいは WAVE ファイルが使用中の可能性があります。WAVE ファイルを使用しているアプリケーションを終了するか、不要なファイルを削除して再度テストを実行してください。	次処理
98101	ccc…ccc の再生・録音にて、WAVE ファイル読込みバッファの獲得に失敗しました。 ccc…ccc：試験項目名	メモリリソースが不足している可能性があります。不要なプログラムを終了し、再度ご確認ください。	次処理

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98102	ccc…ccc1 の再生・録音にて、WAVE ファイルの形式異常を検出しました。[WAVE ファイル : ccc…ccc2] ccc…ccc1：試験項目名 ccc…ccc2：WAVE ファイルパス	WAVE ファイルの生成・読込みに失敗しました。EmbedWare/Diag をインストールしたディスクの空き容量が不足している、あるいは WAVE ファイルが使用中の可能性があります。WAVE ファイルを使用しているアプリケーションを終了するか、不要なファイルを削除して再度テストを実行してください。	次処理
98103	ccc…ccc の再生・録音にて、WAVE データの生成に失敗しました。 ccc…ccc：試験項目名	WAVE ファイルの生成に失敗しました。EmbedWare/Diag をインストールしたディスクの空き容量が不足している、または、WAVE ファイルが使用中の可能性があります。	次処理
98104	ccc…ccc の再生・録音にて、再生用 WAVE ファイルの生成に失敗しました。 ccc…ccc：試験項目名	WAVE ファイルの生成に失敗しました。EmbedWare/Diag をインストールしたディスクの空き容量が不足している、または、WAVE ファイルが使用中の可能性があります。	次処理
98200	ccc…ccc1 の再生・録音にて、ウェーブフォームオーディオ出力デバイスのオープンに失敗しました。(0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98201	ccc…ccc1 の再生・録音にて、ウェーブフォームオーディオ出力データブロックの初期化に失敗しました。(0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98202	ccc…ccc の再生・録音にて、録音用バッファの獲得に失敗しました。 ccc…ccc：試験項目名	メモリリソースが不足している可能性があります。不要なプログラムを終了し、再度ご確認ください。	次処理

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98203	ccc…ccc1 の再生・録音にて、ウェーブフォームオーディオ入力デバイスのオープンに失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98204	ccc…ccc1 の再生・録音にて、ウェーブフォームオーディオ入力用バッファの初期化に失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにて異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98205	ccc…ccc1 の再生・録音にて、ウェーブフォームオーディオ入力デバイスに対し、入力バッファの送信に失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにてサウンドデバイスに異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98206	ccc…ccc1 の再生・録音にて、録音の開始に失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにてサウンドデバイスに異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98207	ccc…ccc1 の再生・録音にて、再生用データブロックの送信に失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにてサウンドデバイスに異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98208	ccc…ccc1 の再生・録音にて、ウェーブフォームオーディオ出力デバイスのクローズに失敗しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc2 ccc…ccc1：試験項目名 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc2：復帰コードに対する Windows メッセージ	デバイスマネージャにてサウンドデバイスに異常がないかご確認の上、サウンドカードのドライバを最新に更新してください。	次処理
98300	ccc…ccc1 の再生・録音にて、WAVE ファイルのオープンに失敗しました。 [WAVE ファイル : ccc…ccc2] ccc…ccc1：試験項目名 ccc…ccc2：WAVE ファイルパス	WAVE ファイルの生成・読込みに失敗しました。EmbedWare/Diag をインストールしたディスクの空き容量が不足している、あるいは WAVE ファイルが使用中の可能性があります。WAVE ファイルを使用しているアプリケーションを終了するか、不要なファイルを削除して再度テストを実行してください。	次処理
98301	ccc…ccc の再生・録音にて、WAVE ファイル読込みバッファの獲得に失敗しました。 ccc…ccc：試験項目名	メモリリソースが不足している可能性があります。不要なプログラムを終了し、再度ご確認ください。	次処理
98302	ccc…ccc1 の再生・録音にて、WAVE ファイルの形式異常を検出しました。 [WAVE ファイル : ccc…ccc2] ccc…ccc1：試験項目名 ccc…ccc2：WAVE ファイルパス	WAVE ファイルの生成・読込みに失敗しました。EmbedWare/Diag をインストールしたディスクの空き容量が不足している、あるいは WAVE ファイルが使用中の可能性があります。WAVE ファイルを使用しているアプリケーションを終了するか、不要なファイルを削除して再度テストを実行してください。	次処理

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
98400	ccc…ccc の録音にて、左波形が期待値を超えました。 期待値 左 :dd1 〜 dd2 右 :dd3 〜 dd4 実際値 左 :dd5 右 :dd6 ccc…ccc：試験項目名 dd1 〜 6：波形値	波形確認において、許容値の歪をオーバーしました。オリジナル音に対し、特殊な効果を与えている場合、エラーとなる可能性があります。その場合、特殊な効果を停止してください。サウンドカードのドライバを最新に更新した後、再度ご確認ください。また、再生・録音ボリュームが低い場合、波形歪が大きくなる可能性があります。プログラムの設定ダイアログより再生・録音ボリュームを調整し、それでも改善されない場合、ケーブル異常あるいは、ハードウェアエラーの可能性があります。	次処理
98401	ccc…ccc の再生・録音にて、左波形が期待値を超えました。 期待値 左 :dd1 〜 dd2 右 :dd3 〜 dd4 実際値 左 :dd5 右 :dd6 ccc…ccc：試験項目名 dd1 〜 6：波形値	波形確認において、許容値の歪をオーバーしました。オリジナル音に対し、特殊な効果を与えている場合、エラーとなる可能性があります。その場合、特殊な効果を停止してください。サウンドカードのドライバを最新に更新した後、再度ご確認ください。再生・録音ボリュームが低い場合、波形歪が大きくなる可能性があります。プログラムの設定ダイアログより再生・録音ボリュームを調整し、それでも改善されない場合、ケーブル異常あるいは、ハードウェアエラーの可能性があります。	次処理
98402	ccc…ccc の録音にて、右波形が期待値を超えました。 期待値 左 :dd1 〜 dd2 右 :dd3 〜 dd4 実際値 左 :dd5 右 :dd6 ccc…ccc：試験項目名 dd1 〜 6：波形値	波形確認において、許容値の歪をオーバーしました。オリジナル音に対し、特殊な効果を与えている場合、エラーとなる可能性があります。その場合、特殊な効果を停止してください。サウンドカードのドライバを最新に更新した後、再度ご確認ください。再生・録音ボリュームが低い場合、波形歪が大きくなる可能性があります。プログラムの設定ダイアログより再生・録音ボリュームを調整し、それでも改善されない場合、ケーブル異常あるいは、ハードウェアエラーの可能性があります。	次処理
98403	ccc…ccc の再生・録音にて、右波形が期待値を超えました。 期待値 左 :dd1 〜 dd2 右 :dd3 〜 dd4 実際値 左 :dd5 右 :dd6 ccc…ccc：試験項目名 dd1 〜 6：波形値	波形確認において、許容値の歪をオーバーしました。オリジナル音に対し、特殊な効果を与えている場合、エラーとなる可能性があります。その場合、特殊な効果を停止してください。サウンドカードのドライバを最新に更新した後、再度ご確認ください。再生・録音ボリュームが低い場合、波形歪が大きくなる可能性があります。プログラムの設定ダイアログより再生・録音ボリュームを調整し、それでも改善されない場合、ケーブル異常あるいは、ハードウェアエラーの可能性があります。	次処理

A.25 ブザー音確認テスト（buzztest.exe）

復帰コード	内容	補足	継続実行指定時
0	正常終了	-	次ループ
90000	パラメータエラーが発生しました。設定ダイアログをご確認ください。	設定情報に誤りがあります。プログラムの設定ダイアログにて再度設定を行ってください。	終了
98301 98302 98303 98304 98305 98306 98307 98308 98309 98310 98311 98312 98313 98314 98315	ブザー鳴動処理において異常が発生しました。 (0xXXXXXXXX)：ccc…ccc 0xXXXXXXXX：WindowsAPI の復帰コード ccc…ccc：復帰コードに対する Windows メッセージ	ブザー鳴動処理においてシステムが通知する異常を表示します。 このエラーは通常起こりえないエラーであり、このエラーが発生した場合、システムの状態が非常に不安定である可能性があります。 再起動を行い、再度ご確認いただき、それでも発生する場合、システムの再インストールが必要となります。復帰コードは、周波数別に分かれています。	次処理

索引

Numerics

C

D

F

P

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

ら行

EmbedWare/Diag Professional Ver 1.0 説明書
P2WW-2240-01Z0-00
発 行 日 2006 年 8 月
発行責任 株式会社 PFU


PFU
a Fujitsu company